

玉名市文化財調査報告 第31集

玉名市内遺跡調査報告書 VIII

—平成22・23年度の調査—

平成28年(2016)3月

玉名市教育委員会

序 文

玉名市は、熊本県北西部に位置しており、古くから小岱山や菊池川、有明海の恩恵を受け、豊かな自然や歴史的資源に恵まれた地域です。旧石器時代から今日に至るまで長い歴史を持ち、装飾古墳をはじめ、旧干拓堤防施設など各時代の文化財が多く所在しております。

九州新幹線も開通して5年目を迎え、県北部における政治経済・教育文化・観光の中心都市としてさらなる発展を遂げようとしています。このような中で、玉名市教育委員会では、公共及び民間の様々な事業に対応しながら調整を図り、事前調査から発掘調査等を行っております。また、市内に所在する文化財の状況把握にも常に取り組み、埋蔵文化財行政の改善・充実に努力しています。

本書は、平成22・23年度に実施した各種開発に伴う試掘確認調査・測量調査などの成果をまとめたものです。本書が市民の方々の埋蔵文化財に対する理解の一助となり、広く教育・文化の発展に寄与できれば幸いに存じます。

平成28年3月25日

玉名市教育委員会
教育長 池田 誠一

例 言

1. 本書は、玉名市教育委員会が平成22・23年度に国庫補助を受けて実施した、玉名市内遺跡の調査報告書である。
2. 調査は、玉名市教育委員会文化課兵谷有利、田中康雄、中村安宏、末永崇、齋父雅史、古閑敬士、大倉千寿が担当した。
3. 本書掲載遺構及びトレンチ等の実測図は、各調査担当者が作成した。
4. 遺物の実測は、古閑、大倉、江見恵留が行い、製図は尾崎延枝、齋父が行った。遺物等のデジタルトレスを江見が担当した。
5. 調査時の写真撮影は、各調査担当者が行い、遺物写真撮影は齋父が行った。
6. 挿図に使用している座標は、玉名市役所税務課の地籍図等から転記した。座標値は世界測地系の第2座標系に基づいており、方位は特に記載がない限り座標北を示す。
7. 同遺跡の調査を複数行っている場合には、アルファベットによる調査地点名を付している。
8. 遺跡名称は、基本的に調査時の名称で統一し、その後名称変更したものについては、本文内で変更後の名称を付している。
9. 調査地の地番については、原則として文化財保護法に基づく届出・通知の際の地番を表示している。いくつかの調査地点については、分筆等により、新たな地番が付されている場合がある。
10. トレンチの表記は本文中を除きTと省略している。
11. 出土遺物の整理作業は、齋父が担当し、玉名市文化財整理室で行った。
12. 本書の執筆、編集は、各担当者が調査後に作成した報文をもとに、齋父が行った。

本文目次

序文

例言

本文目次

挿図目次

写真目次

表目次

I 調査の概要

1 調査の体制	1
2 調査の方法	1
3 調査総括	1
4 活用	2

II 平成22年度の調査

1 玉名平野条里跡（玉名平野遺跡群・A地点）	9
2 宮原土井の内遺跡（伊倉城跡・A地点）	10
3 古閑遺跡	14
4 滑石小学校試掘	15
5 松尾遺跡（A地点）	16
6 玉名郡倉跡（推定地）	19
7 京塚遺跡	20
8 伊倉宮の後遺跡（1次調査）	21
9 玉名平野条里跡（玉名平野遺跡群・B地点）	22
10 高瀬本町通遺跡	26
11 繁根木遺跡群	32
12 松林寺山古墳（遺跡地図作成に伴う踏査）	33
13 石貫ナギノ横穴群（測量調査）	36

III 平成23年度の調査

1 玉名平野条里跡（玉名平野遺跡群・C地点）	43
2 平町遺跡	45
3 山田神社門前遺跡	47
4 宮原土井の内遺跡（伊倉城跡・B地点）	48
5 木船東遺跡	50
6 山田松尾平遺跡（A地点）	51
7 山田松尾平遺跡（B地点）	52
8 店舗建設予定地試掘	53
9 糠峯遺跡	54

10 松尾遺跡 (B地点)	55
11 市道岱明玉名線建設予定地	58
12 伊倉宮の後遺跡 (2次調査)	60
13 吉丸前遺跡	72
14 中土西遺跡	74
15 稲荷山古墳 (工事立会)	75
16 塚の神古墳 (測量調査)	76



宮原土井の内遺跡の調査風景



塚の神古墳から経塚・大塚古墳群を望む

挿図目次

図番号	図版名	掲載頁
第1図	平成22年度調査地位位置図	3
第2図	平成23年度調査地位位置図	4
第3図	玉名平野条里跡位置図	9
第4図	玉名平野条里跡トレンチ位置図	9
第5図	玉名平野条里跡トレンチ実測図	9
第6図	宮原土井の内遺跡A地点位置図	10
第7図	宮原土井の内遺跡トレンチ位置図	10
第8図	宮原土井の内遺跡トレンチ実測図	11
第9図	宮原土井の内遺跡出土遺物実測図①	12
第10図	宮原土井の内遺跡出土遺物実測図②	13
第11図	古閑遺跡位置図	14
第12図	古閑遺跡トレンチ位置図	14
第13図	古閑遺跡トレンチ実測図	14
第14図	古閑遺跡出土遺物実測図	14
第15図	滑石小学校調査地位位置図	15
第16図	滑石小学校トレンチ位置図	15
第17図	滑石小学校トレンチ実測図	15
第18図	松尾遺跡A地点位置図	16
第19図	松尾遺跡トレンチ位置図	16
第20図	松尾遺跡トレンチ実測図	17
第21図	松尾遺跡出土遺物実測図	18
第22図	玉名郡倉跡位置図	19
第23図	玉名郡倉跡トレンチ位置図	19
第24図	玉名郡倉跡トレンチ実測図	19
第25図	京塚遺跡位置図	20
第26図	京塚遺跡トレンチ位置図	20
第27図	京塚遺跡トレンチ実測図	20
第28図	伊倉宮の後遺跡位置図	21
第29図	伊倉宮の後遺跡トレンチ位置図	21
第30図	伊倉宮の後遺跡出土遺物実測図	21
第31図	伊倉宮の後遺跡トレンチ実測図	21
第32図	玉名平野条里跡位置図	22
第33図	玉名平野条里跡トレンチ位置図	22
第34図	玉名平野条里跡出土遺物実測図	22
第35図	玉名平野条里跡トレンチ実測図	23
第36図	玉名平野条里跡1トレンチ杭列実測図	24
第37図	玉名平野条里跡2トレンチ杭列実測図	25
第38図	高瀬本町通遺跡位置図	26
第39図	高瀬本町通遺跡トレンチ位置図	26
第40図	高瀬本町通遺跡遺構配置図	27
第41図	高瀬本町通遺跡トレンチ実測図①	28
第42図	高瀬本町通遺跡トレンチ実測図②	29
第43図	高瀬本町通遺跡トレンチ実測図③	30
第44図	繁根木遺跡群位置図	32
第45図	繁根木遺跡群トレンチ位置図	32
第46図	繁根木遺跡群トレンチ実測図	32
第47図	松林寺山古墳位置図	33
第48図	松林寺山古墳 石棺実測図①(棺身)	34
第49図	松林寺山古墳 石棺実測図②(棺蓋)	35
第50図	石貫ナギノ横穴群位置図	36
第51図	石貫ナギノ横穴群地形測量図	37
第52図	石貫ナギノ横穴群横断面図	38
第53図	玉名平野条里跡位置図	43
第54図	玉名平野条里跡トレンチ位置図	43
第55図	玉名平野条里跡トレンチ実測図	44

図番号	図版名	掲載頁
第56図	平町遺跡位置図	45
第57図	平町遺跡トレンチ位置図	45
第58図	平町遺跡トレンチ実測図	46
第59図	山田神社門前遺跡位置図	47
第60図	山田神社門前遺跡トレンチ位置図	47
第61図	山田神社門前遺跡トレンチ実測図	47
第62図	宮原土井の内遺跡B地点位置図	48
第63図	宮原土井の内遺跡トレンチ位置図	48
第64図	宮原土井の内遺跡出土遺物実測図	48
第65図	宮原土井の内遺跡トレンチ実測図	49
第66図	木船東遺跡位置図	50
第67図	木船東遺跡トレンチ位置図	50
第68図	木船東遺跡トレンチ実測図	50
第69図	山田松尾平遺跡A地点位置図	51
第70図	山田松尾平遺跡トレンチ位置図	51
第71図	山田松尾平遺跡トレンチ実測図	51
第72図	山田松尾平遺跡B地点位置図	52
第73図	山田松尾平遺跡トレンチ位置図	52
第74図	山田松尾平遺跡トレンチ実測図	52
第75図	店舗建設予定地調査位置図	53
第76図	店舗建設予定地トレンチ位置図	53
第77図	店舗建設予定地トレンチ実測図	53
第78図	糠峯遺跡位置図	54
第79図	糠峯遺跡トレンチ位置図	54
第80図	糠峯遺跡トレンチ実測図	54
第81図	松尾遺跡B地点位置図	55
第82図	松尾遺跡B地点トレンチ位置図	55
第83図	松尾遺跡B地点トレンチ実測図	56
第84図	松尾遺跡B地点出土遺物実測図	57
第85図	市道岱明玉名線建設予定地調査位置図	58
第86図	市道岱明玉名線建設予定地トレンチ位置図	58
第87図	市道岱明玉名線建設予定地トレンチ実測図	59
第88図	伊倉宮の後遺跡位置図	60
第89図	伊倉宮の後遺跡トレンチ位置図	60
第90図	伊倉宮の後遺跡遺構配置図	61
第91図	伊倉宮の後遺跡トレンチ実測図	62
第92図	伊倉宮の後遺跡遺構実測図	63
第93図	伊倉宮の後跡出土遺物実測図①	64
第94図	伊倉宮の後跡出土遺物実測図②	65
第95図	伊倉宮の後跡出土遺物実測図③	66
第96図	伊倉宮の後跡出土遺物実測図④	67
第97図	吉丸前遺跡位置図	72
第98図	吉丸前遺跡トレンチ位置図	72
第99図	吉丸前遺跡トレンチ実測図	73
第100図	中土西遺跡位置図	74
第101図	中土西遺跡トレンチ位置図	74
第102図	中土西遺跡トレンチ実測図	74
第103図	稲荷山古墳位置図	75
第104図	稲荷山古墳工事立会位置図	75
第105図	稲荷山古墳出土遺物実測図	75
第106図	塚の神古墳位置図	76
第107図	塚の神古墳測量調査位置図	76
第108図	塚の神古墳と大塚・経塚古墳群位置図	77
第109図	塚の神古墳地形測量図	78
第110図	塚の神古墳出土遺物実測図	78

写真目次

図番号	写真名	掲載頁
写真1	トレンチ掘削状況	2
写真2	確認調査状況	2
写真3	玉名平野条里跡A地点調査状況(3T)	9
写真4	宮原土井の内遺跡A地点調査地近景	10
写真5	宮原土井の内遺跡A地点1T(溝状遺構)	10
写真6	宮原土井の内遺跡A地点出土遺物	13
写真7	滑石小学校調査地状況	15
写真8	松尾遺跡4トレンチ遺構検出状況	16
写真9	ヘラ描き文字のある須恵器	18
写真10	松尾遺跡A地点出土遺物	18
写真11	玉名郡倉跡調査地状況	19
写真12	京塚遺跡調査地遠景	20
写真13	玉名平野条里跡B地点調査状況	22
写真14	玉名平野条里跡B地点2T杭列調査状況	25
写真15	玉名平野条里跡B地点調査状況(1T)	25
写真16	玉名平野条里跡B地点調査状況(2T)	25
写真17	玉名平野条里跡B地点調査状況(2T)	25
写真18	高瀬本町通遺跡調査状況(6T拡張区)	26
写真19	高瀬本町通遺跡3T石積出土状況	27
写真20	高瀬本町通遺跡5T石積出土状況	27
写真21	高瀬本町通遺跡6T北側石積出土状況	30
写真22	高瀬本町通遺跡6T南側石積出土状況	30
写真23	高瀬本町通遺跡出土遺物①	31
写真24	高瀬本町通遺跡出土遺物②	31
写真25	繁根木遺跡群1T調査状況	32
写真26	松林寺山古墳周辺遠景(西から)	33
写真27	松林寺山古墳舟形石棺(縄掛突起部分)	34
写真28	松林寺山古墳石棺(棺身)接合状況	34
写真29	松林寺山古墳石棺(棺蓋)接合状況	35
写真30	石貫ナギノ横穴群遠景	39
写真31	石貫ナギノ横穴群8号墓付近	39
写真32	石貫ナギノ横穴群8号墓	39
写真33	石貫ナギノ横穴群44~46号墓	39
写真34	石貫ナギノ横穴群8号墓内部の石屋形	39
写真35	石貫ナギノ横穴群見学風景	39
写真36	玉名平野条里跡C地点調査前状況	43
写真37	玉名平野条里跡C地点確認調査状況	43
写真38	平町遺跡調査前状況	45
写真39	平町遺跡6T土層堆積状況	45
写真40	山田神社門前遺跡土層堆積状況	47
写真41	宮原土井の内遺跡B地点5T(溝状遺構)	48
写真42	木船東遺跡2T土層堆積状況	50
写真43	山田松尾平遺跡A地点調査状況	51
写真44	山田松尾平遺跡B地点土層堆積状況	52
写真45	店舗建設予定地調査前状況	53
写真46	糠峯遺跡調査地状況	54
写真47	松尾遺跡B地点調査地遠景	55
写真48	松尾遺跡B地点出土遺物	56
写真49	市道岱明玉名線建設予定地状況	58
写真50	伊倉宮の後遺跡調査地状況	60

図番号	写真名	掲載頁
写真51	伊倉宮の後遺跡調査地全景(南東から)	68
写真52	伊倉宮の後遺跡調査地全景(南西から)	68
写真53	伊倉宮の後遺跡S-01検出状況	69
写真54	伊倉宮の後遺跡S-01検出状況	69
写真55	伊倉宮の後遺跡S-01検出状況	69
写真56	伊倉宮の後遺跡埋設土器検出状況	70
写真57	伊倉宮の後遺跡埋設土器検出状況	70
写真58	伊倉宮の後遺跡出土遺物(石器)	71
写真59	伊倉宮の後遺跡出土遺物(縄文土器)	71
写真60	吉丸前遺跡調査前状況(堀跡)	72
写真61	吉丸前遺跡堀状遺構	73
写真62	中土西遺跡トレンチ掘削状況	74
写真63	稲荷山古墳採集遺物	75
写真64	塚の神古墳遠景(東から)	76
写真65	塚の神古墳墳頂部にある石祠	77
写真66	塚の神古墳に散布する円筒埴輪片	77
写真67	塚の神古墳採集の円筒埴輪片	79

表目次

第1表	平成22・23年度市内遺跡試掘確認調査一覧	5
第2表	出土遺物観察表(土器)	80
第3表	出土遺物観察表(石製品)	84

I 調査の概要

1 調査の体制

調査及び報告書の作成は、下記の体制により実施している。職員の所属等は、当時のものである。

平成22年度

調査主体 玉名市教育委員会
 調査責任 教育長 森義臣
 調査総括 教育次長 前田敏朗
 文化課長 赤木 隆
 庶務担当 文化財係長 安田信孝
 主事 永野摩美子
 調査担当 参事 兵谷有利
 主任 中村安宏
 主任 末永 崇
 調査員 古閑敬士
 調査員 大倉千寿

発掘作業員 尾崎延枝、古賀武子、権藤 功、
 嶋村ひとみ、福田まき、片山昭義、
 馬田洋治、森 辰興
 整理作業員 尾崎延枝、古賀武子、五野富美子、
 権藤 功、坂崎郷子、嶋村ひとみ、
 早川イツエ、福田まき

平成23年度

調査主体 玉名市教育委員会
 調査責任 教育長 森義臣
 調査総括 教育次長 立川 隆則
 文化課長 小山 正義
 庶務担当 文化財係長 植原孝信
 主事 西田言道
 調査担当 参事 兵谷有利
 主任 田中康雄
 主任 中村安宏
 主任 齋父雅史

発掘作業員 今田浩江、片山昭義、馬田洋治、
 麻生良友、植田トミヨ、岡本博子、
 北嶋百合子、
 主地本敦、高谷健也、谷口洋介、
 藤井めい子、前川直美、松本えり子
 整理作業員 竹内眞由美

平成27年度（報告書作成）

調査主体 玉名市教育委員会
 調査責任 教育長 池田誠一
 調査総括 教育部長 伊子裕幸
 文化課長 中山富雄
 庶務担当 課長補佐兼文化財係長 竹田宏司
 課長補佐兼文化係長 荒木 勇
 参事 西畠涼子
 報告書担当 主任 齋父雅史
 整理作業 古閑敬士、大倉千寿、江見恵留
 尾崎延枝、古賀武子、五野富美子、
 高津千尋、福田まき

2 調査の方法

試掘確認調査については、重機掘削により幅0.7～1m程度のトレンチを設定しており、重機が使用不可能な場合や、包含層の一部、遺構については人力掘削を行っている。対象面積に対する掘削面積等については特に基準を定めていないが、開発の内容、予想される遺跡の内容、地形等を勘案して適宜設定している。

実測図は、1/20スケールを基本として、平面・断面図を作成している。トレンチの配置図等については、基本的に開発に伴う測量図及び字図等に記入する形をとっている。地形測量図等が必要な場合には、平板及びトータルステーションを使用し、1/100スケール等で作成している。今回、2件の古墳測量については、業者へ委託した。

写真は、通常35mmカラーネガを用いており、重要な遺構などが確認された場合は35mmモノクロ及びリバーサルフィルムによる撮影を行っている。また、一部デジタルカメラによる撮影も行っている。

3 調査総括

玉名市では、平成11年度から、国・県の補助を受け、開発行為等に伴い各種調査を実施している。

平成22年度の届出件数等の統計は、文化財保護法第93条による届出82件、94条による通知13件、

調査依頼が4件提出され、うち試掘確認調査11件、踏査1件、保存目的の測量調査1件を実施した。

平成23年度は、第93条による届出83件、94条による通知9件、調査依頼が5件提出され、うち試掘確認調査14件、範囲内容確認のための測量調査1件を実施した。

工事立会については、大半が専用住宅の合併浄化槽設置等に伴う小規模なものであり、それらを除き、大規模なものを3件実施した。

例年と比較して調査件数が減少傾向にあるが、内容に関しても規模の大小を問わず、調査件数の7～8割が民間事業に起因するものであった。

2年分の調査成果を事業別、地域別等にまとめることとする。

公共事業としては学校施設関連が主で、築山小・滑石小・玉南中学校の3ヶ所で試掘・確認調査を行った。伊倉宮の後遺跡は、体育館建替え工事に伴うもので、工事に影響がある基礎部分についてはトレンチ状に調査を行った。その結果、縄文時代の遺物と共に土器埋設遺構や中世の遺物と溝状の遺構も検出された。

また、玉名平野においては、新幹線駅前における民間開発事業が2件あり、いずれも大型店舗建設予定地で確認調査を行った。うち1件からは、詳細な時期は不明確であるが、水田跡に伴う杭列が確認された。

立願寺付近では、松尾遺跡において隣接する2件の店舗予定地で確認調査を行い、古代の須恵器・土師器及び鬼面瓦が出土した。特に、須恵器の盤には「大」の字と考えられるヘラ書き文字が確認された。

これらは、玉名郡衙と関連があるものと考えられる。

宮原土井の内遺跡では、農地造成で2件の確認調査を行い、うち1件は堀や土坑などが検出され、工事立会時に多量の土師器皿が採集された。

平成22年度に、遺跡地図作成を目的として現地踏査を行っているが、その踏査時に松林寺山古墳においては石棺を確認した。なお、現状で損壊が著しかったため、緊急的ではあるが実測を行ったので併せて報告した。

同じく平成22年度に、石貫ナギノ横穴群周辺の

地形測量、平成23年度には、天水町の塚の神古墳において墳丘測量調査を実施した。

当古墳は現在円墳と考えられているが、地籍図の境界線や現状の地形等から、本来は前方後円墳であった可能性もある。また、円筒埴輪片も以前から採集されていることから、今回併せて報告することとした。

4 活用

玉名市では、開発行為に伴う試掘・確認調査等の結果を年度ごとに報告しているが、その成果は市の博物館において展示公開も定期的に行っている。

内容は、速報展を主体としているが、玉名の歴史を発掘調査等の結果によって探ろうというもので、時代別や遺跡別、あるテーマをもって展示したりして、写真やパネル等で啓発を行っている。

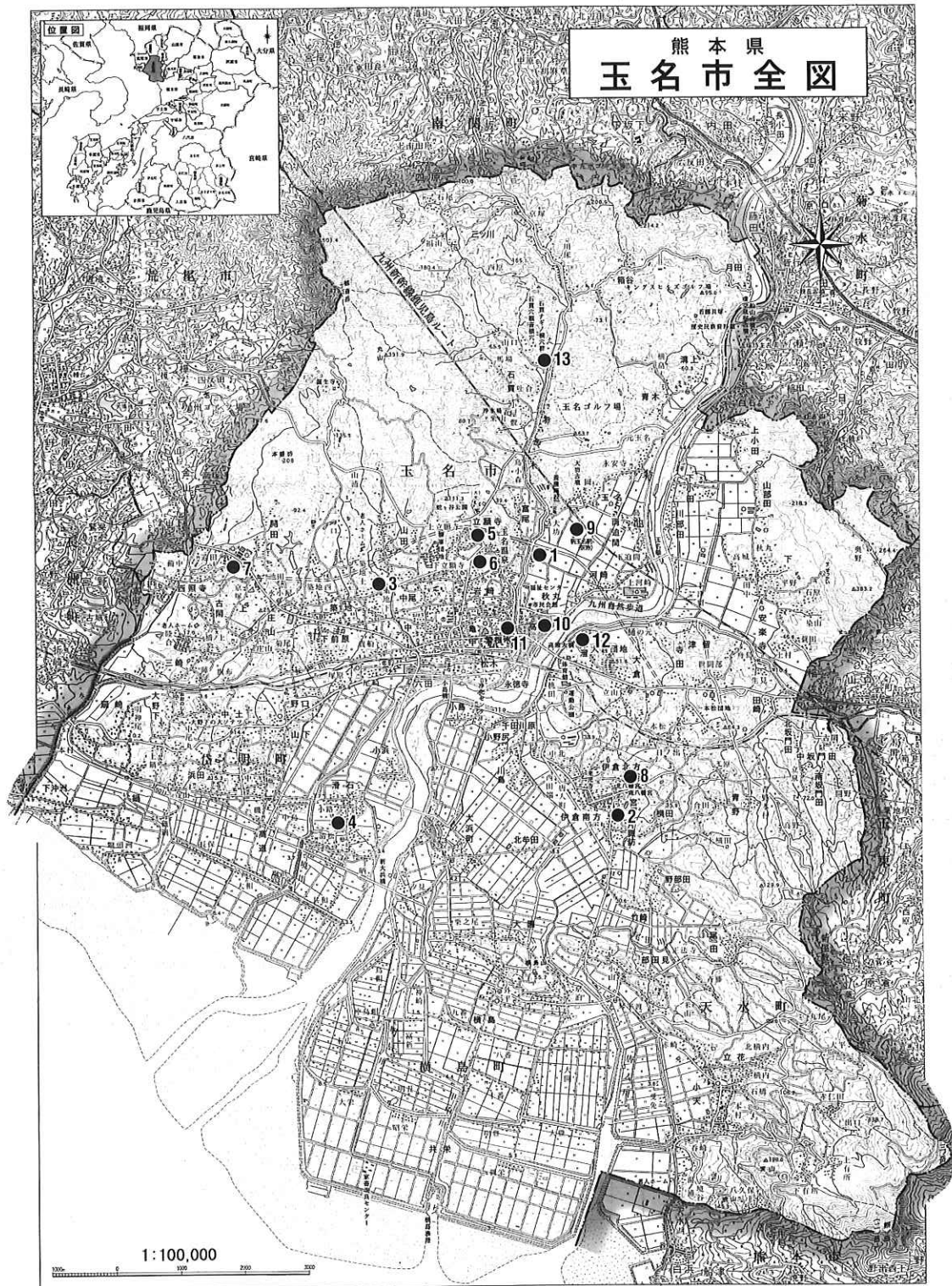
また、発掘調査時には、現地説明会を行うようにし、地元住民などの見学を受け入れたりしている。



写真1 トレンチ掘削状況



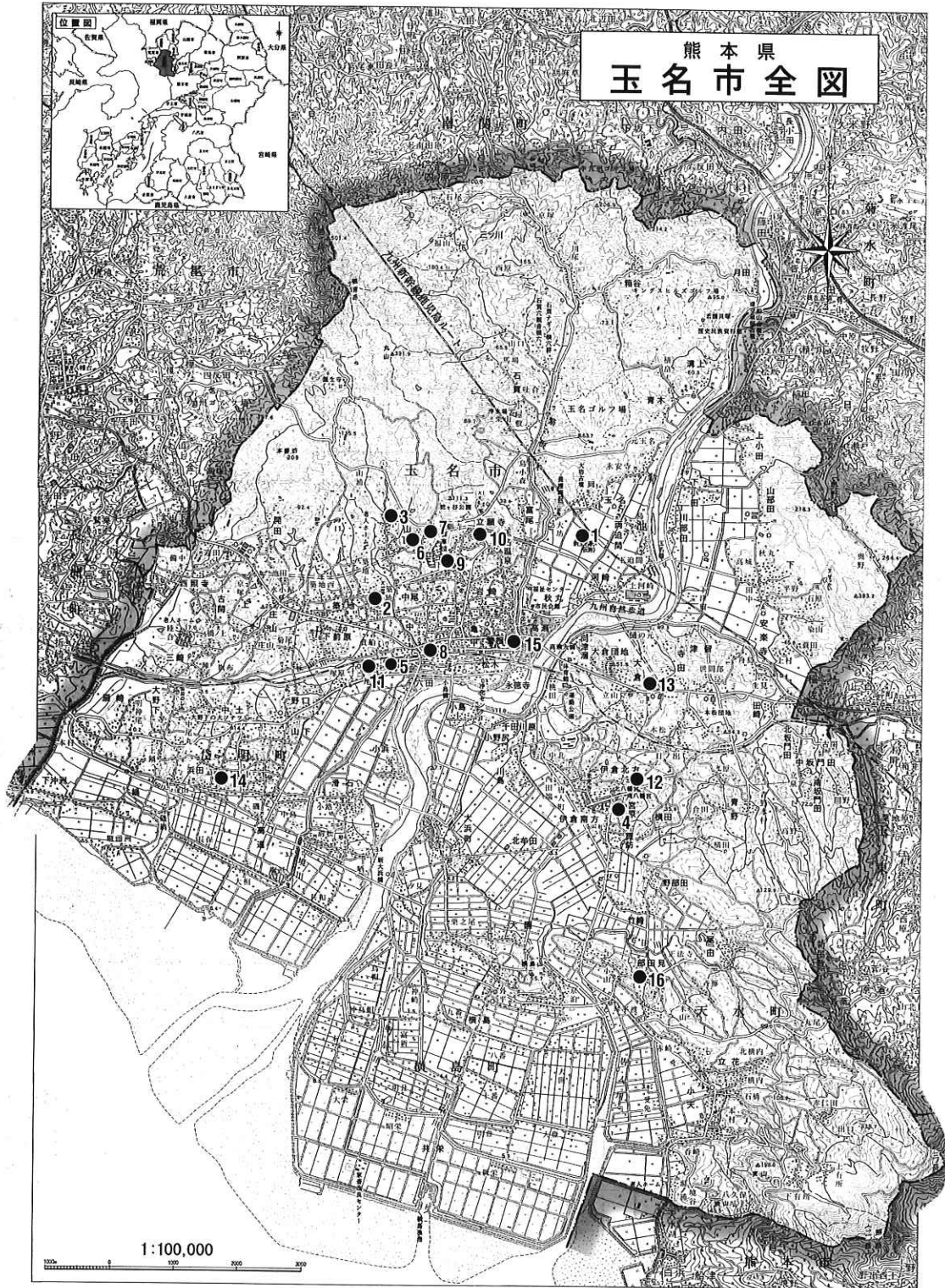
写真2 確認調査状況



- | | | | |
|----------------------|------------------|-----------|--------------------|
| 1 玉名平野条里跡 (A地点) | 2 宮原土井の内遺跡 (A地点) | 3 古閑遺跡 | 4 滑石小学校内試掘調査 |
| 5 松尾遺跡 (A地点) | 6 玉名郡倉跡 | 7 京塚遺跡 | 8 伊倉宮の後遺跡 |
| 9 玉名平野条里跡 (B地点) | 10 高瀬本町通遺跡 | 11 繁根木遺跡群 | 12 松林寺山古墳 (遺跡地図踏査) |
| 13 石貫ナギノ横穴群 (地形測量調査) | | | |

第1図 平成22年度調査位置図 S=1/100,000

I 調査の概要



- | | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|------------------|
| 1 玉名平野条里跡 (C地点) | 2 平町遺跡 | 3 山田神社門前遺跡 | 4 宮原土井の内遺跡 (B地点) |
| 5 木船東遺跡 | 6 山田松尾平遺跡 (A地点) | 7 山田松尾平遺跡 (B地点) | 8 店舗建設予定地試掘調査 |
| 9 糠峯遺跡 | 10 松尾遺跡 (B地点) | 11 市道岱明玉名線建設予定地 | 12 伊倉宮の後遺跡 |
| 13 吉丸前遺跡 | 14 中土西遺跡 | 15 稲荷山古墳 (工事立会) | 16 塚の神古墳 (測量調査) |

第2図 平成23年度調査地位位置図 S = 1/100,000

第1表 平成22・23年度市内遺跡試掘確認調査一覧

平成22年度		調査地		種別	調査原因	調査期日	担当者	措置
No.	遺跡名	調査地	敷地面積					
1	玉名平野条里跡(A地点)	玉名字晩次郎2042-8	1681.82㎡	確認調査	店舗(銀行)	平成22年5月11日	古閑敬士	慎重工事
2	宮原土井の内遺跡(A地点)	宮原字屋敷743,744-1,745,748,746-2,749-1,749-2,749-3	3,617.47㎡	確認調査	宅地造成	平成22年5月24日、25日	大倉千寿	工事立会
3	古閑遺跡	築地字古閑1900-10の一部	8,370㎡	確認調査	学校(学童クラブ室)	平成22年5月25日～27日	中村安宏	工事立会
4	滑石小学校内試掘調査	滑石1542(滑石小学校用地)	650㎡	試掘調査	学校(校舎)	平成22年7月20日	中村安宏	—
5	松尾遺跡(A地点)	立願寺字松尾1392-5,1392-4の一部	689.85㎡	確認調査	診療所(歯科医院)	平成22年7月22日～27日	中村安宏	工事立会
6	玉名郡倉跡	立願寺751,754-9	846.35㎡	確認調査	専用住宅	平成22年8月3日	中村安宏	慎重工事
7	京塚遺跡	岱明町大字西照寺字大浦669-1	620.31㎡	確認調査	店舗(飲食店)	平成22年9月14日	中村安宏	慎重工事
8	伊倉宮の後遺跡	伊倉北方2636	1,650㎡	確認調査	学校(体育館、武道場)	平成22年11月15日、16日	中村安宏	発掘調査
9	玉名平野条里跡(B地点)	玉名字中無田1491-1他17筆	14,228㎡	確認調査	店舗	平成23年1月12日～1月31日	中村安宏	—
10	高瀬本町遺跡	高瀬223-3の一部、191の一部	947.97㎡	確認調査	賃貸住宅	平成23年2月15日～3月3日	兵谷有利	工事立会
11	繁根木遺跡群	繁根木84-7	148.68㎡	確認調査	土地売買	平成23年3月15日	未永 崇	—
12	松林寺山古墳(遺跡地図作成踏査)	向津留452地先	—	踏査	遺跡地図	平成22年12月15日	兵谷有利	—
13	石貫ナギノ横穴群(測量調査)	石貫	約30,000㎡	測量調査	保存整備	平成22年6月21日～10月29日	未永 崇	—

平成23年度		調査地		種別	調査原因	調査期日	担当者	措置
No.	遺跡名	調査地	敷地面積					
1	玉名平野条里跡(C地点)	玉名字中牟田1507-1他	14,861㎡	確認調査	店舗	平成22年5月25日～27日	中村安宏	慎重工事
2	平町遺跡	築地64-1他	1,368.52㎡	確認調査	福祉施設	平成22年5月24日、25日	中村安宏	慎重工事
3	山田神社門前遺跡	山田字地藏前1702-10	368.23㎡	確認調査	専用住宅	平成22年5月25日～27日	兵谷有利	慎重工事
4	宮原土井の内遺跡(B地点)	宮原字屋敷752	1514㎡	確認調査	資材置場	平成22年7月20日	中村安宏	工事立会
5	木船東遺跡	岱明町野口字上河原223	382㎡	確認調査	通信用鉄塔	平成22年7月22日～27日	兵谷有利	慎重工事
6	山田松尾平遺跡(A地点)	山田字平1539-1	1674㎡	確認調査	不動産売買	平成22年8月3日	中村安宏	慎重工事
7	山田松尾平遺跡(B地点)	山田字平1570-1	91.28㎡	確認調査	専用住宅	平成22年9月14日	中村安宏	慎重工事
8	店舗建設予定地試掘	中字池原1061-1	9440.34㎡	試掘調査	店舗	平成22年11月15日、16日	田中康雄	慎重工事
9	糖峯遺跡	山田字糖峯1913	608.8㎡	確認調査	保育園施設	平成23年1月12日～1月31日	田中康雄	慎重工事
10	松尾遺跡(B地点)	立願寺字松尾1392-1	372.93㎡	確認調査	事務所	平成23年2月15日～3月3日	田中康雄	慎重工事
11	市道岱明玉名線建設予定地	岱明町野口3-1他	925.41㎡	試掘調査	道路	平成23年3月15日	田中康雄	—
12	伊倉宮の後遺跡	伊倉北方2636	22060㎡	確認調査	中学校体育館	平成22年12月15日	田中康雄	—
13	吉丸前遺跡	寺田1365-1他	2503.53㎡	調査依頼	店舗	平成23年2月15日～3月3日	齋父雅史	慎重工事
14	中土西遺跡	岱明町山下1099-5	1279.79㎡	確認調査	事務所兼作業場	平成24年2月16日	齋父雅史	慎重工事
15	稲荷山古墳(工事立会)	繁根木字北73-1	434㎡	工事立会	神社参道階段	平成23年8月23日	中村安宏	工事立会
16	塚の神古墳(測量調査)	天水町部田見1526-7,1526-8他7筆	約7,600㎡	測量調査	保存整備	平成23年7月20日～8月31日	中村安宏	—



Ⅱ 平成22年度の調査



調査前の玉名平野条里跡（玉名平野遺跡群）

1 玉名平野条里跡（玉名平野遺跡群・A地点）

所在地：玉名字晩次郎2042-8

調査原因：店舗建設

対象面積：569.88㎡

調査期間：平成22年5月11日

担当者：古閑敬士

調査地は、玉名平野の標高8.2mの地点に位置し繁根木川の左岸に隣接している。

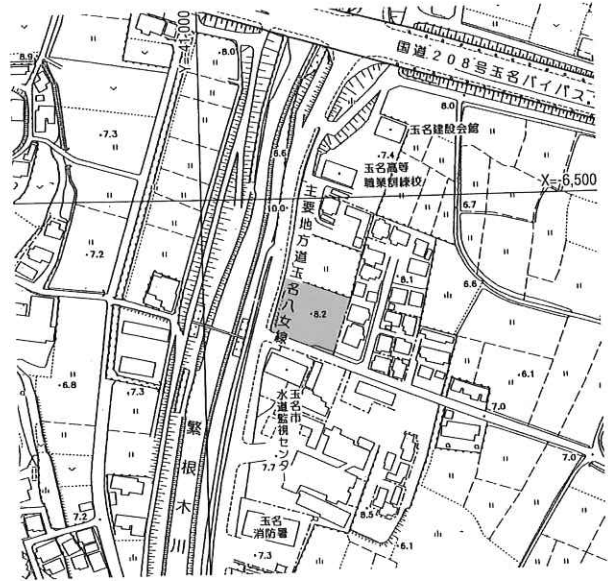
埋蔵文化財発掘の届出に先立ち、調査依頼が提出されたため確認調査を実施した。

調査では、敷地内に1～3トレンチを設定して埋蔵文化財の状況を確認した。

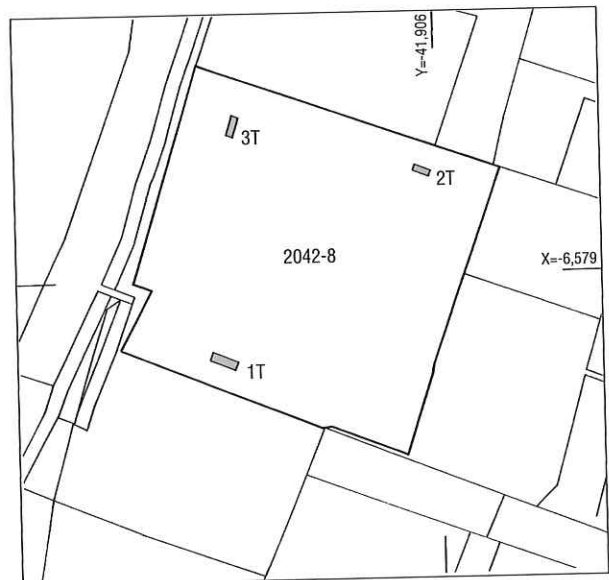
その結果、いずれのトレンチにおいても地表面から下に約20cmは碎石が敷かれ、さらに2.5m下までは山砂の盛土、約3m下は山砂と旧表土の混ざる土層が堆積しており、IV・V層からは湧水があった。

遺構・遺物は確認されなかったため、その後の措置は慎重工事である。

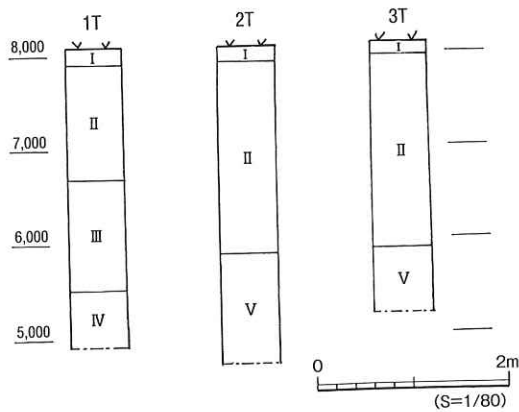
なお、当遺跡名は、平成27年度11月から玉名平野遺跡群と変更している。



第3図 玉名平野条里跡位置図 S=1/5,000



第4図 玉名平野条里跡トレンチ位置図 S=1/1,000



土層注記

- I層 碎石（整地層）
- II層 山砂（盛土層）
- III層 山砂にレンガ及びコンクリート片を含む層
- IV層 山砂及び灰褐色（7.5Y4/1の層）
- V層 山砂及び旧表土が混ざる

第5図 玉名平野条里跡A地点トレンチ実測図



写真3 玉名平野条里跡A地点調査状況（3T）

2 宮原土井の内遺跡（伊倉城跡・A地点）

所在地：宮原字屋敷744-1,743,749-2他4筆

調査原因：農地造成

対象面積：3617.47㎡

調査期間：平成22年5月24～25日

担当者：大倉千寿

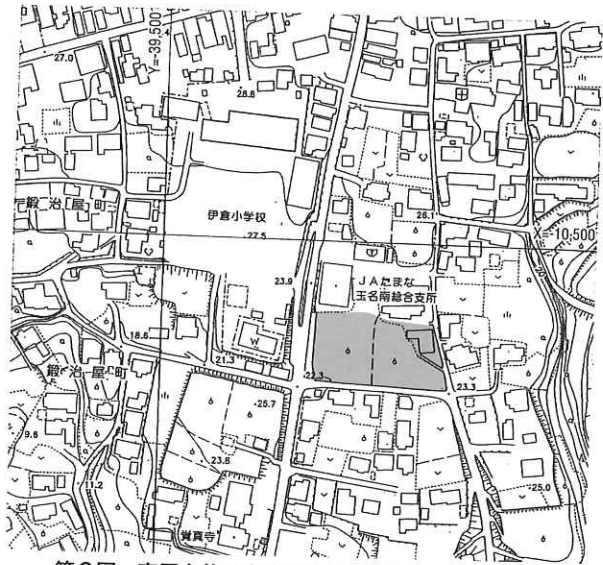
調査地は、菊池川左岸の伊倉丘陵性台地西端に位置する標高約26mの地点である。

調査依頼に伴い平成21年3月29～31日に西側上段部分の確認調査を行っている。溝や土坑、多数のピットと土師皿が出土しており、詳細は別途報告済である（玉名市文化財調査報告書第24集『玉名市内遺跡調査報告書Ⅶ』2011）。

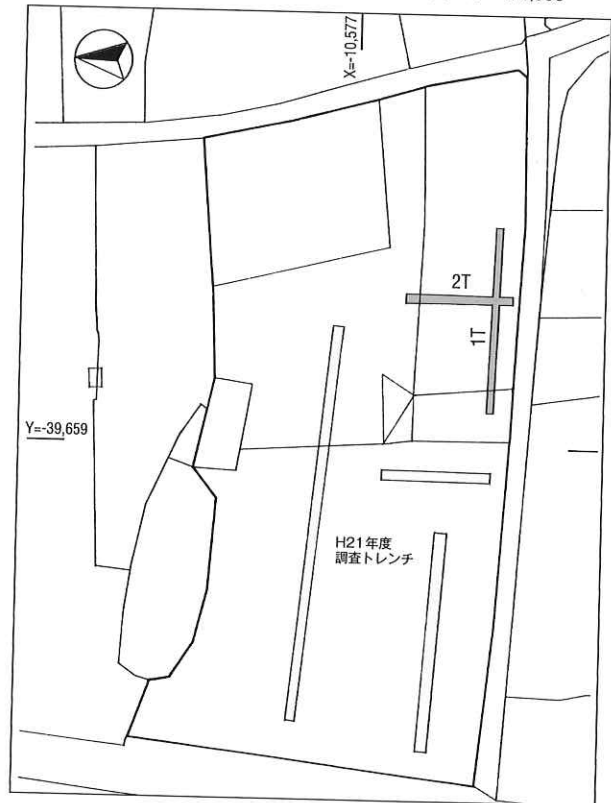
今回の造成内容は、ミカン畑に高低差があるため高い西側（744-1）の切土を行い、その土を低い東側（749-1,745等）に盛土するものである。

西側の敷地を中心に2本のトレンチを設定し調査した結果、基本土層はⅠ層が現代の耕作土、Ⅱ層が旧耕作土、Ⅲ～Ⅳ層が無遺物層であった。Ⅲ層上面から遺構が検出されるが、浅いため上部は削平を受けているものと考えられる。

遺構は、土坑が4基とピット数基、溝状遺構1条を検出した。この溝の形状は幅が約7m、深さは1m以上と考えられ、周辺の調査例などから道路跡の可能性もある。切土される深度は、ほぼⅠ～Ⅱ層の耕作土内であるが、その下位からは遺構が検出されるため、掘削時には工事立会となった。遺物は、立会時に採集したものである。



第6図 宮原土井の内遺跡A地点位置図 S=1/5,000



第7図 宮原土井の内遺跡A地点トレンチ位置図 S=1/1,000

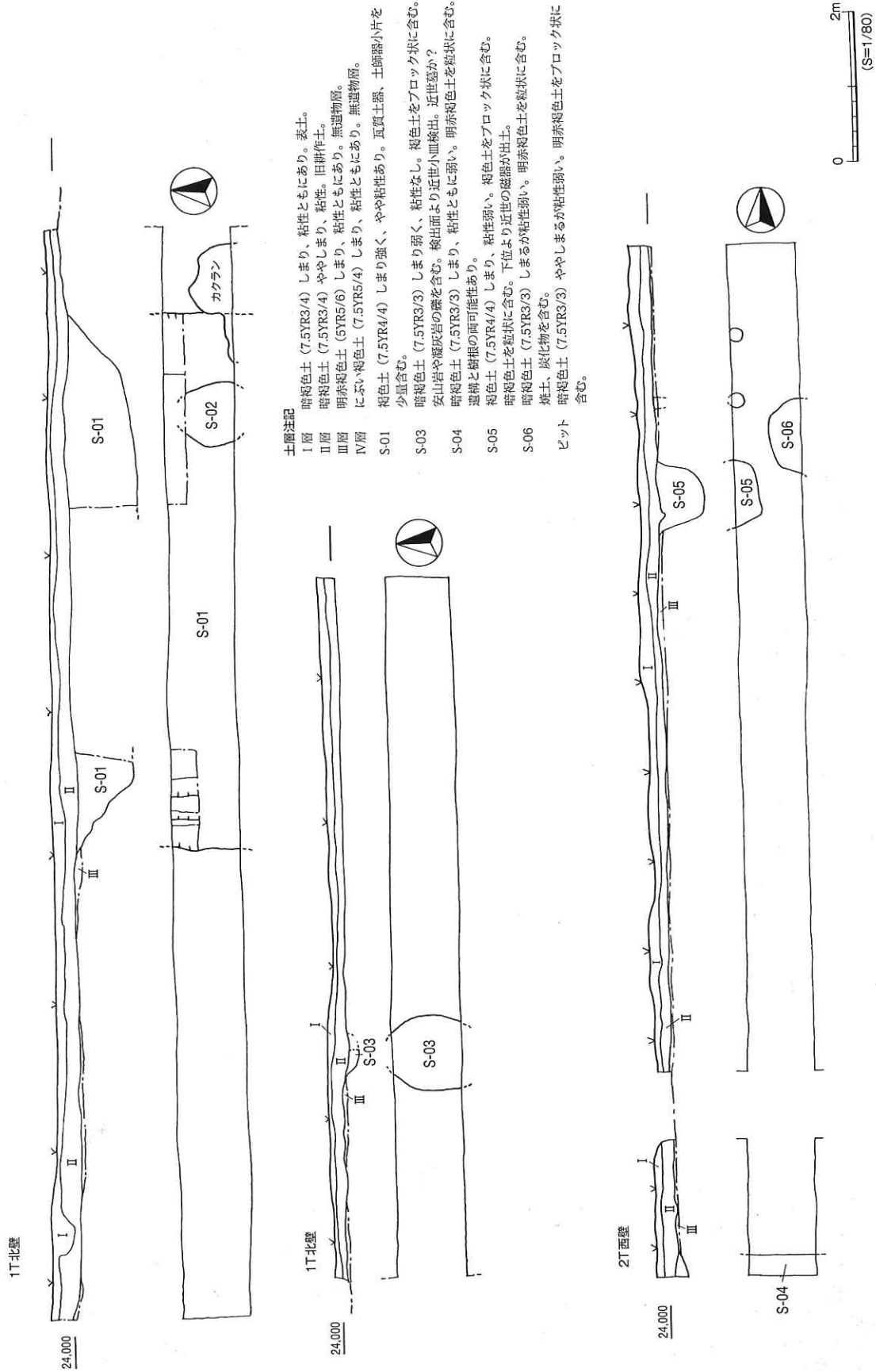


写真4 宮原土井の内遺跡A地点調査地近景

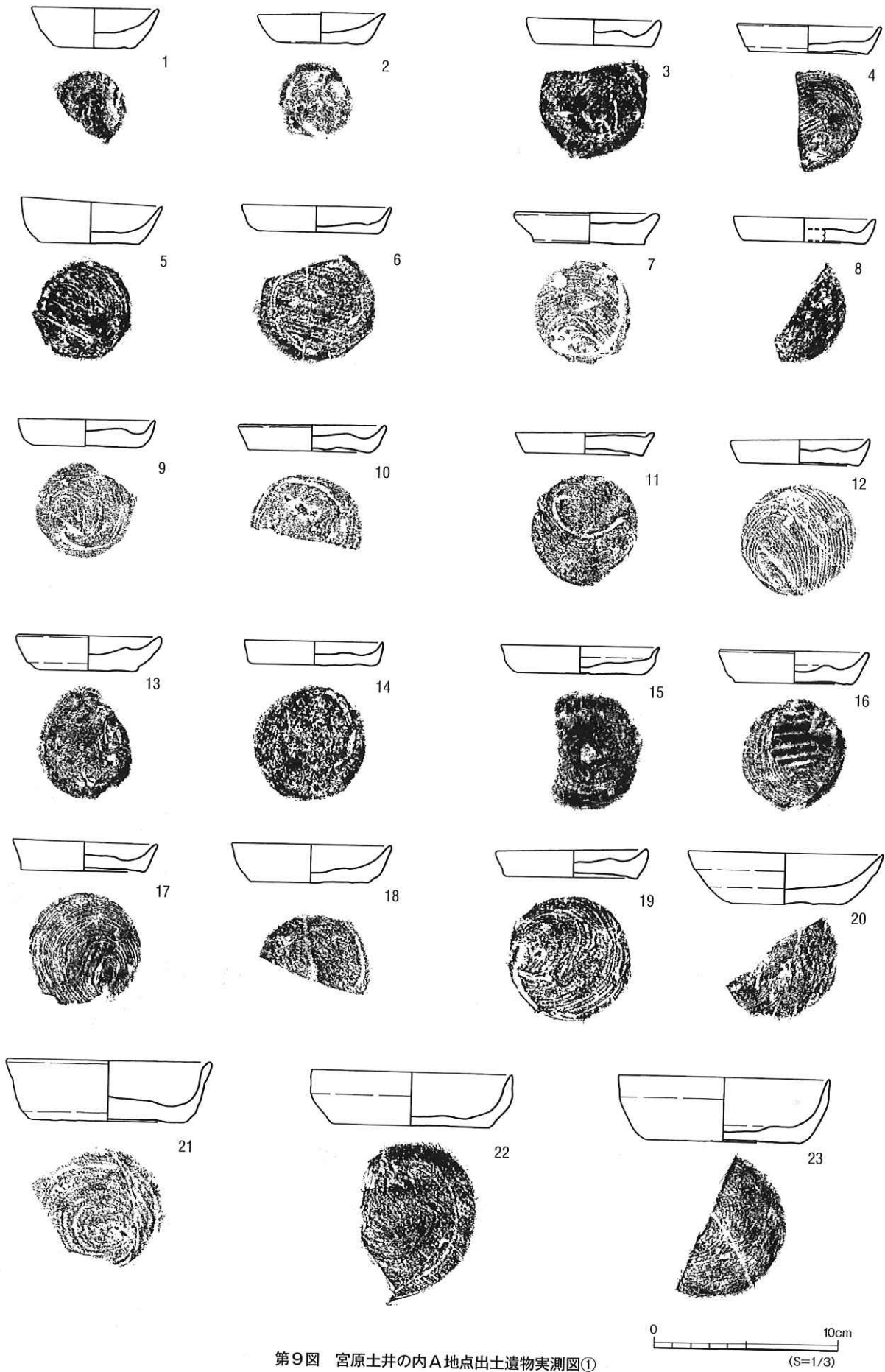


写真5 宮原土井の内遺跡A地点1T溝状遺構

II 平成22年度の調査

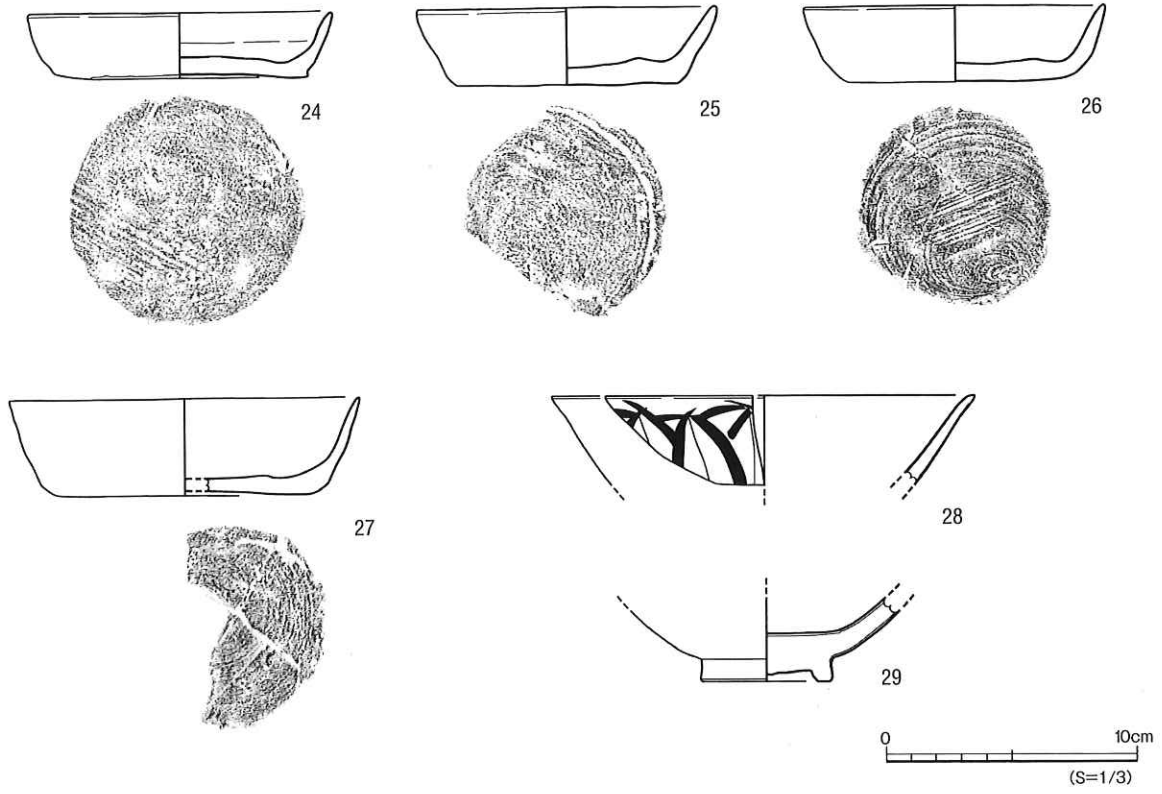


第8図 宮原土井の内遺跡A地点トレンチ実測図



第9図 宮原土井の内A地点出土遺物実測図①

II 平成22年度の調査



第10図 宮原土井の内遺跡A地点出土遺物実測図②



写真6 宮原土井の内遺跡A地点出土遺物（土師器皿・坏）

3 古閑遺跡

所在地：築地字古閑1900-1の一部

調査原因：学童クラブ室建設

対象面積：8,370㎡

調査期間：平成22年5月25日～5月27日

担当者：中村安宏

調査地は、境川右岸に面した台地東端部に位置する、標高約16mの地点である。

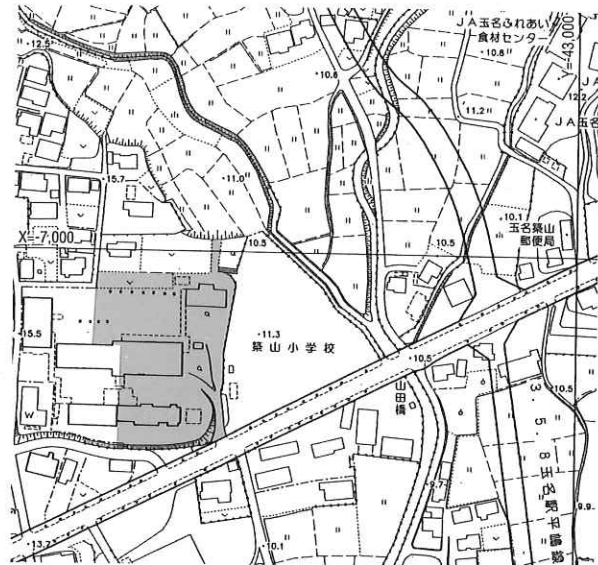
これまで周辺では、約50m北側における地点で、弥生時代中期（黒髪式）を中心とした土器が多量に出土しており、住居跡や特殊な器台状土器、土製勾玉、丹塗り土器等が出土している。

建設予定地である校舎棟北側の学校菜園内およびビニールハウス内に人力で計4本のトレンチを設定して確認調査を行った。

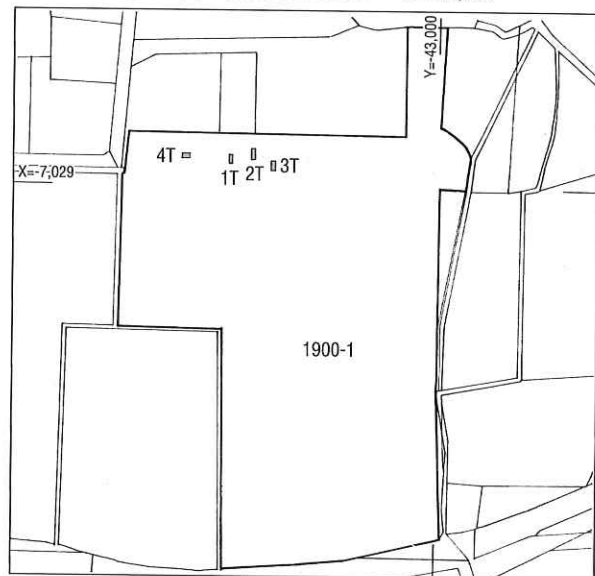
その結果、すべてのトレンチにおいて、弥生時代の土器片を含む土層を確認した。

4トレンチは特に浅く、地表面の約30cm下から遺物を含む層が確認できる。これらの層は、面では確認していないため不明確であるが、住居跡や溝状遺構等である可能性がある。

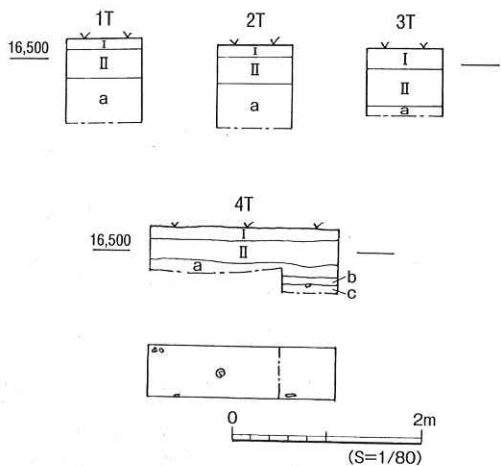
今後の措置は、協議によって盛土が施されることとなり、慎重工事となった。



第11図 古閑遺跡位置図 S=1/5,000



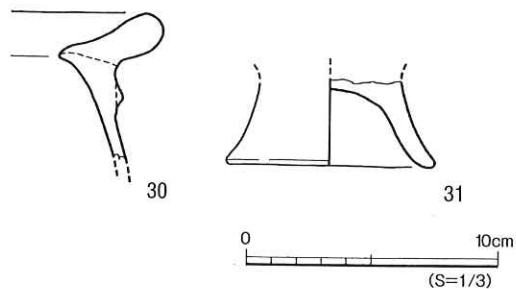
第12図 古閑遺跡トレンチ位置図 S=1/2,000



第13図 古閑遺跡トレンチ実測図

土層注記

- I層 黒褐色土(7.5YR3/2) しまり、粘性なし。ビニール片含む。現代耕作土。
- II層 暗褐色土(7.5YR3/3) ややしまり、粘性なし。砂粒、磁器片、土器細片含む。近世～近代の耕作土。
- a層 黒褐色土(7.5YR3/2) ややしまり、粘性。黒褐色土と褐色土とが混ざる。
- b層 暗褐色土(7.5YR3/3) ややしまり、粘性強い。
- c層 黒褐色土(7.5YR3/2) ややしまり、粘性弱い。



第14図 古閑遺跡出土遺物実測図

4 滑石小学校内試掘調査

所在地：滑石1542

調査原因：滑石小学校特別教室棟建設

対象面積：650m²

調査期間：平成22年7月20日

担当者：中村安宏

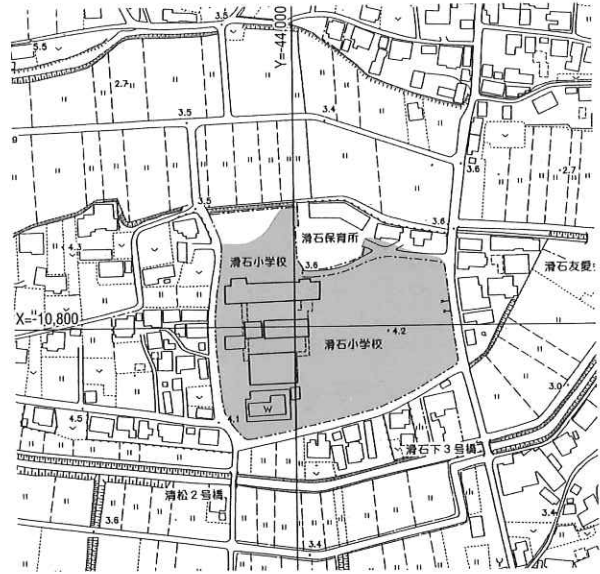
当地は、菊池川河口付近の平野部に位置し、標高約4mの砂州上にあたる。

この北側200m先には、別の砂州上に古墳時代の「滑石小路箱式石棺」がある。これは、昭和57年に住宅工事中偶然発見されたもので、人骨が完全に残る箱式石棺1基が緊急に調査された。周辺にはまだ埋設されている可能性がある。

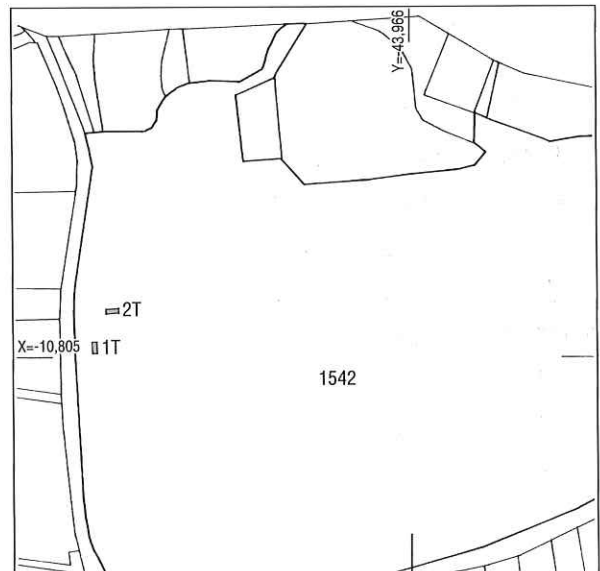
他に、これと同じ砂州上には「イッチャンサン遺跡」があり、巖島神社付近から弥生時代終末期の野部田式土器が出土したことが知られている。

このようなことから、一帯の砂州上には、少なくとも海退後の弥生時代頃から生活の痕跡が認められている。

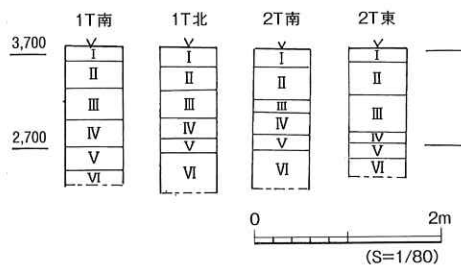
今回、建設予定地に重機により計2本のトレンチを設定し試掘調査を行ったが、いずれも埋蔵文化財は確認できなかった。約1m下からは、自然の貝殻層があり砂州上の堆積状況を知ることができる。



第15図 滑石小学校内調査地位置図 S=1/5,000



第16図 滑石小学校内トレンチ位置図 S=1/2,000



土層注記

- I層 黒褐色 (7.5YR3/2) しまり、粘性なし。1～3mm大の白色砂粒を含む。耕作土か。
- II層 暗褐色 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性弱い。1～3mm大の白色砂粒を含む。水分多い。
- III層 にふい黄褐色 (10YR4/3) しまり、粘性なし。1mm大の砂質土。水分多い。
- IV層 暗褐色 (10YR3/3) しまり、粘性なし。0.5mm大の砂質土。水分多い。
- V層 黒褐色 (10YR3/2) しまり、粘性なし。1mm大の砂質土。
- VI層 砂質貝殻層 ハマグリ、アサリ、ウバガイ等の貝殻を多く含む。

第17図 滑石小学校内トレンチ実測図



写真7 滑石小学校試掘地点

5 松尾遺跡 (A地点)

所在地：立願寺松尾1392-5,1392-4の一部

調査原因：店舗兼専用住宅

対象面積：625.26㎡

調査期間：平成22年7月22日～7月27日

担当者：中村安宏

当地は、小岱山から南へ延びる丘陵上に位置し、標高約39mの地点である。

東側には、立願寺大塚古墳、小塚古墳が存在し、玉名バイパス建設に伴う県の発掘調査では、古墳時代から古代にかけての遺構や遺物が出土している。

今回、調査依頼が提出されたため、確認調査を行った。建物予定地及び掘削深度が深い合併浄化槽設置地点、スロープ予定地において4本のトレンチを設定した。

その結果、1トレンチにおいて、須恵器等の土器片及び土坑を検出した。2トレンチにおいて遺構は検出されず、3～4トレンチにおいてはピットを数基検出したが、いずれも遺構密度が低い状況であった。

周辺の発掘調査の結果などからも、今回確認された遺構、遺物は古墳時代～古代の所産と考えられるが密度が低く、古墳などがある北東側に密度が高い可能性がある。

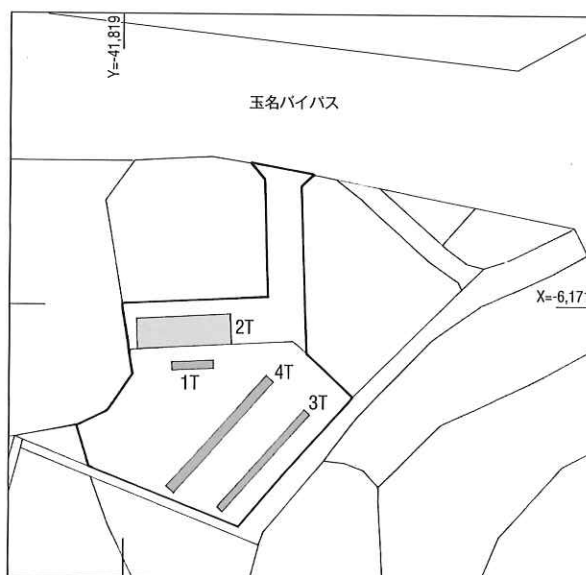
今回、掘削に伴い埋蔵文化財に影響が出る部分(ピット数基)に関しては完掘し、地中梁の掘削は狭小であることなどから工事立会となった。

出土した遺物について、1点のみだが須恵器の盤底部に「へら描き文字」が確認できた。欠損部があるため確実ではないが「大」の字の可能性がある。隣接する道路における県の発掘調査(Ⅲ区)においても、「大」の字がある須恵器が2点出土している。33は、回転ヘラミガキを有する土師器であり、39は、丸瓦である。

参考文献：熊本県教育委員会2003『立願寺大塚遺跡』
熊本県文化財調査報告第210集



第18図 松尾遺跡A地点位置図 S=1/5,000

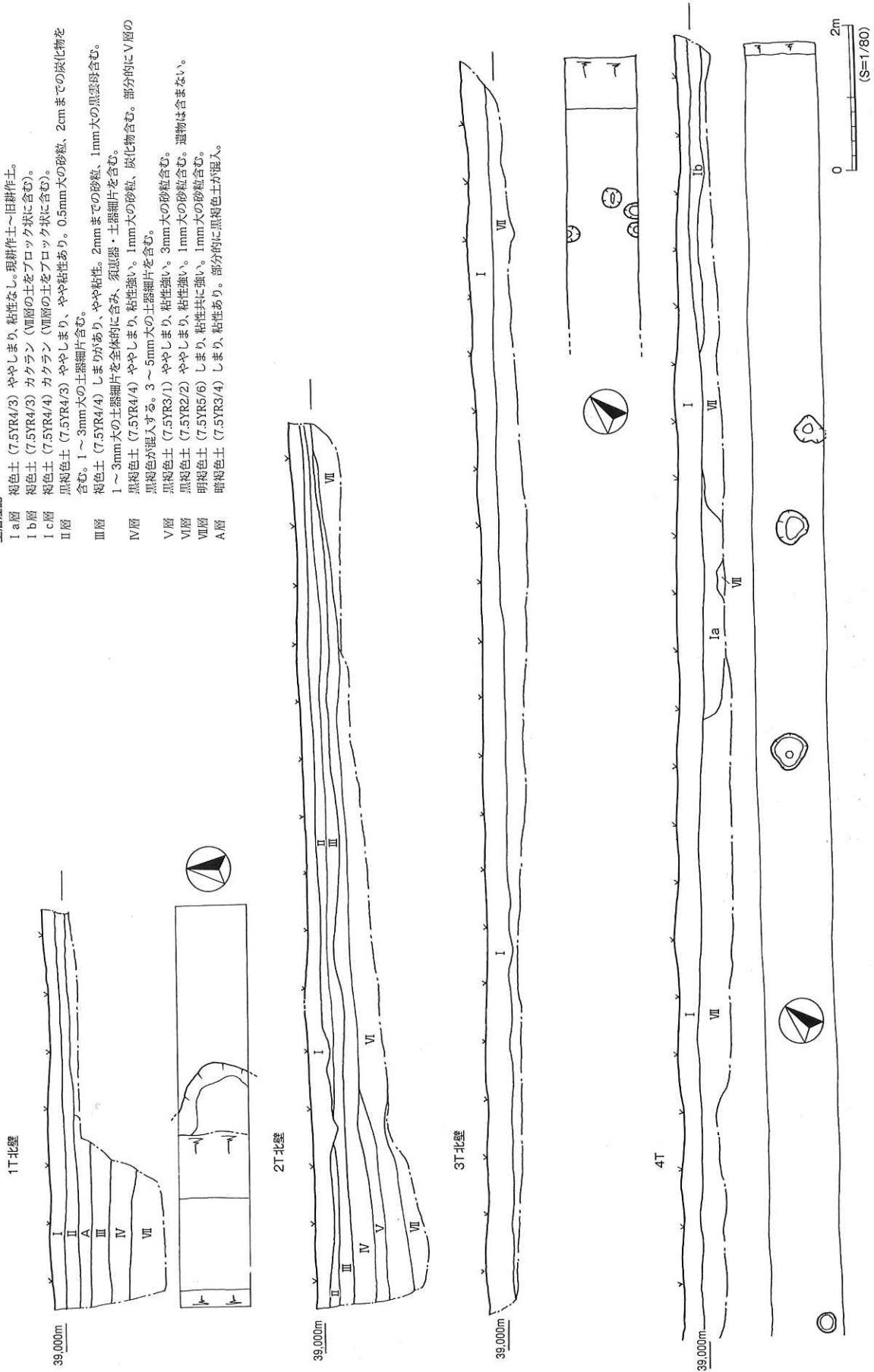


第19図 松尾遺跡A地点トレンチ位置図 S=1/1,000

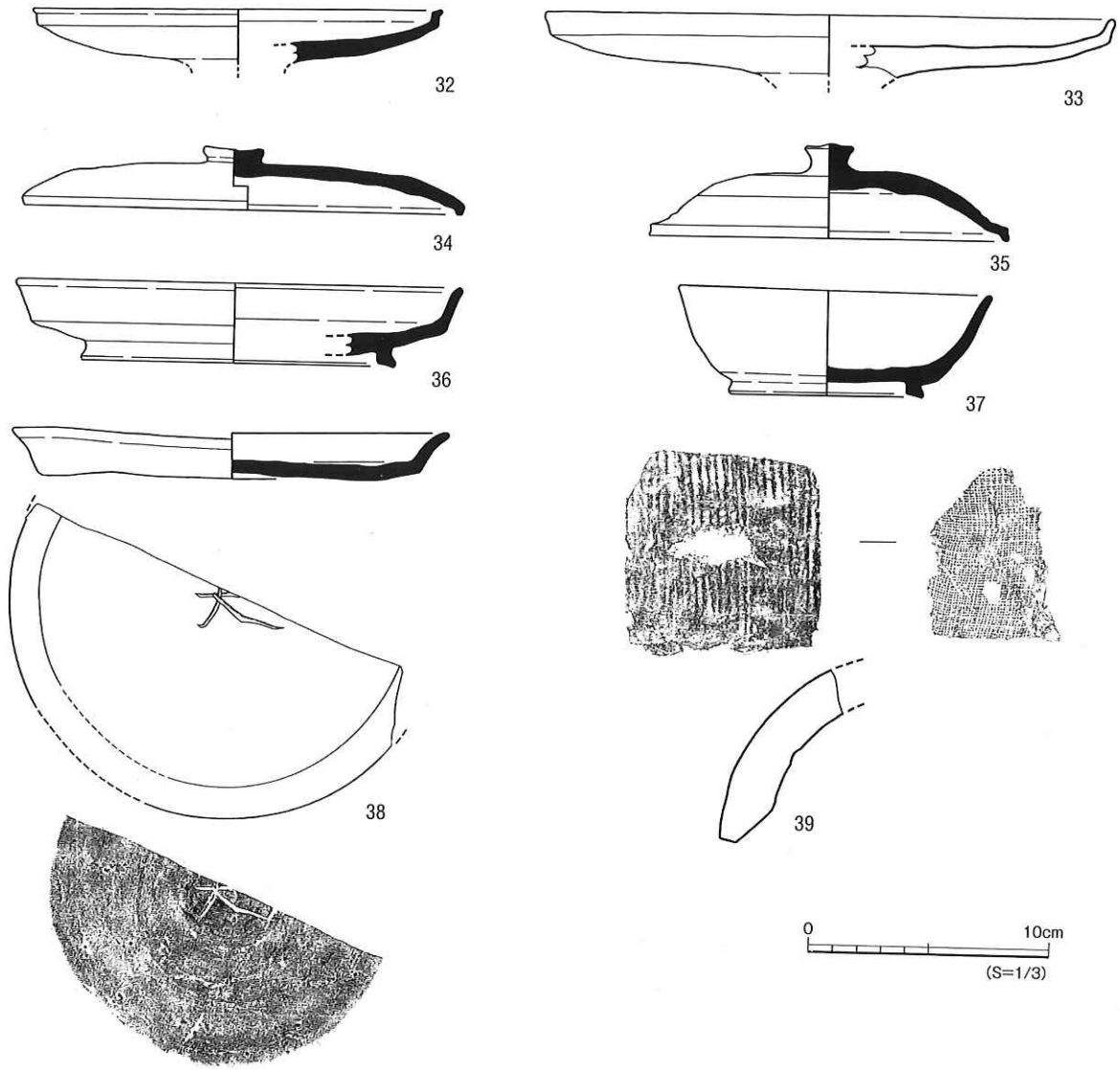


写真8 松尾遺跡4トレンチ遺構検出状況

- 土層注記**
- I a層 褐色土 (7.5YR4/3) ややしまり、粘性なし。埋耕作土～旧耕作土。
 - I b層 褐色土 (7.5YR4/3) カクラン (VII層の土をブロック状に含む)。
 - I c層 褐色土 (7.5YR4/4) カクラン (VII層の土をブロック状に含む)。
 - II層 黒褐色土 (7.5YR4/3) ややしまり、やや粘性あり。0.5mm大の砂粒、2cmまでの炭化物を含む。1～3mm大の土器細片含む。
 - III層 褐色土 (7.5YR4/4) しまりがあり、やや粘性。2mmまでの砂粒、1mm大の黒雲母含む。
 - IV層 1～3mm大の土器細片を全体的に含む、須臾器・土器細片を含む。
 - V層 黒褐色土 (7.5YR4/4) ややしまり、粘性強い。1mm大の砂粒、炭化物含む。部分的にV層の黒褐色土が混入する。3～5mm大の土器細片を含む。
 - VI層 黒褐色土 (7.5YR3/1) ややしまり、粘性強い。3mm大の砂粒含む。
 - VII層 黒褐色土 (7.5YR2/2) ややしまり、粘性強い。1mm大の砂粒含む。
 - VIII層 明褐色土 (7.5YR5/6) しまり、粘性共に強い。1mm大の砂粒含む。
 - A層 暗褐色土 (7.5YR3/4) しまり、粘性あり。部分的に黒褐色土が混入。



第20図 松尾遺跡A地点トレンチ実測図



第21図 松尾遺跡A地点出土遺物実測図

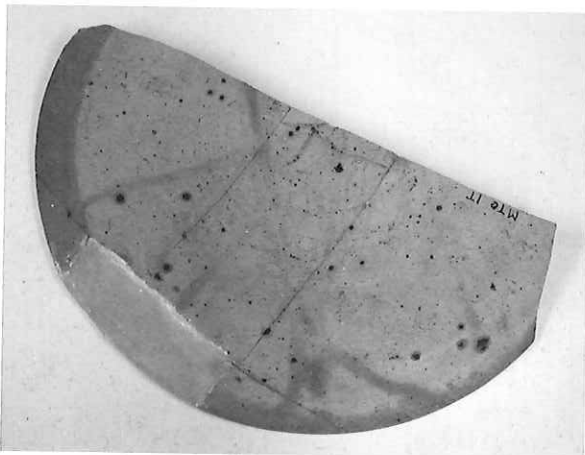


写真9 ヘラ描き文字のある須恵器

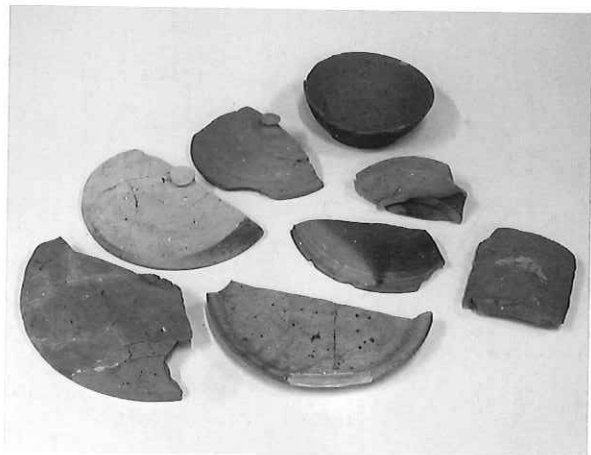


写真10 松尾遺跡A地点出土遺物

6 玉名郡倉跡（推定地）

所在地：立願寺751

調査原因：専用住宅

対象面積：846.35㎡

調査期間：平成22年8月3日

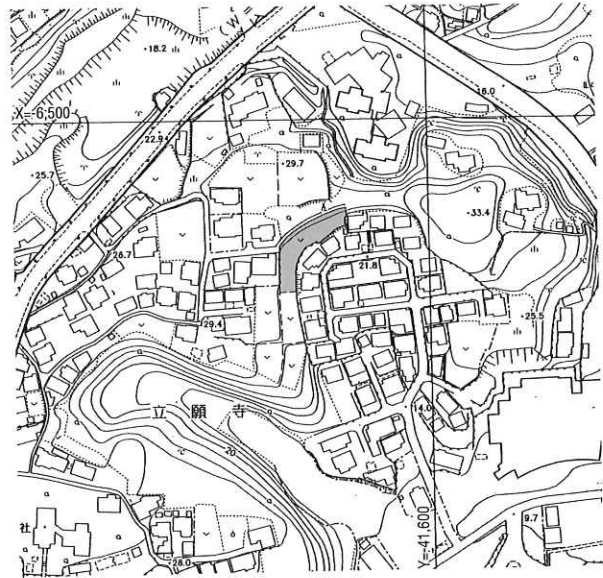
担当者：中村安宏

当地は、玉名平野西側の小代山麓丘陵に位置する標高約17mの地点である。

当遺跡は玉名郡衙の関連施設であり、日置氏によって整備されたと考えられている。これまでに周辺で調査が行われており、郡倉跡と考えられる柱穴群、それを囲む溝などが確認され、一部には礎石が露出している部分もある。

今回の調査地は、遺跡範囲としては、東側の傾斜地にあたる。敷地内に2ヶ所のトレンチを設定して調査を行ったところ、両トレンチのIV層において近世の陶磁器片が出土したのみで、その他の遺物、遺構は確認できなかった。傾斜地のため、近世頃から埋め立てが行われていたと考えられる。

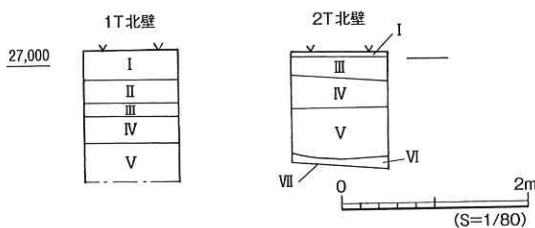
以上のような結果から、当地は傾斜地のため、郡倉に伴う建物等の中心部は、もっと西側の高台にあったと考えられる。その後の措置は、慎重工事である。



第22図 玉名郡倉跡位置図 S=1/5,000



第23図 玉名郡倉跡トレンチ位置図 S=1/1,000



土層注記

- I層 灰褐色土 (7.5YR5/2) ややしまり、粘性なし。白色砂粒を含む。
- II層 褐色土 (7.5YR4/4) しまり強く、粘性なし。白色、橙色の砂粒、黒雲母含む。
- III層 砂利。
- IV層 灰褐色土 (7.5YR4/2) ややしまるが、粘性弱い。砂粒、マンガン含む。
近世陶磁器片混入。
- V層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ややしまるが、粘性弱い。白色、橙色の砂粒、黒雲母含む。
- VI層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ややしまるが、粘性弱い。白色、橙色、茶色の砂粒含む。
- VII層 褐色土 (7.5YR4/6) しまり、粘性とも強い。白色、橙色、茶色の砂粒、黒雲母含む。

第24図 玉名郡倉跡トレンチ実測図



写真11 玉名郡倉跡調査地状況

7 京塚遺跡

所在地：岱明町西照寺字大浦669-1

調査原因：店舗

対象面積：620.31㎡

調査期間：平成22年9月14日

担当者：中村安宏

届出地は、行末川左岸の丘陵上に位置する標高約26.5mの地点である。

国道208号線を挟んだ北側には、前方後円墳である院塚古墳があったが調査後に消滅している。

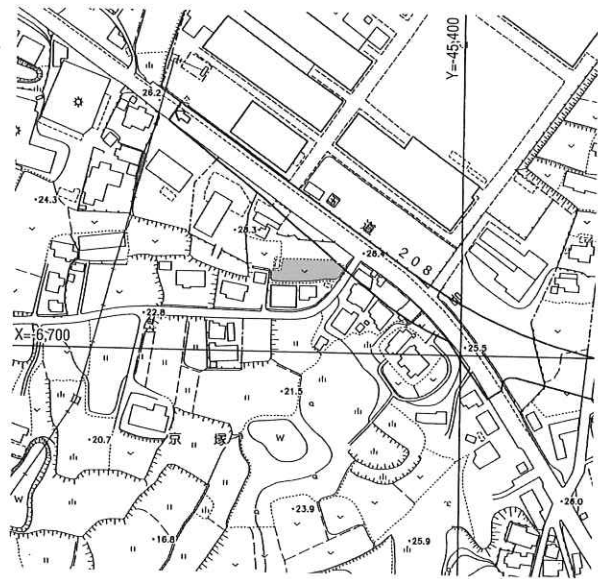
工事の内容で合併浄化槽予定地の掘削が深かったため、2箇所のトレンチを設定し確認調査を行った。

重機により現地表面から50cm下まで掘り下げた結果、現在の耕作土の下は盛土が行われていることがわかった。

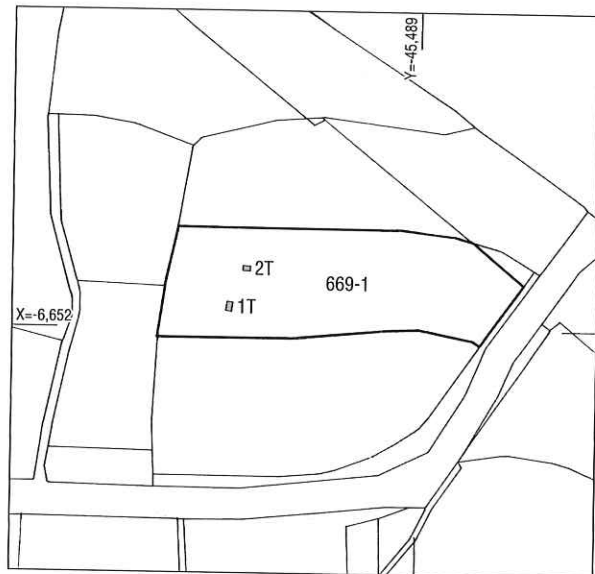
周辺の状況から、敷地内は約0.8～1.5mの盛土が施されていると思われる。

なお、国道を挟んで玉名バイパスに伴う工事が当時行われており、土層断面の観察を行ったところ、地表直下にローム層（岱明層）が確認できた。

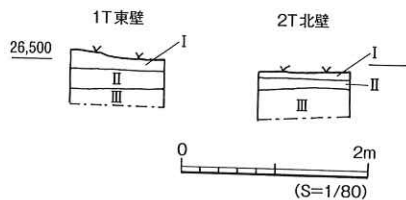
このようなことから当地の盛土下の状況についても造成により削平され、埋蔵文化財が残存する可能性は低いものと考えられる。その後の措置は慎重工事となった。



第25図 京塚遺跡位置図 S=1/5,000



第26図 京塚遺跡トレンチ位置図 S=1/1,000



土層注記

- I層 灰褐色土 (7.5YR5/2) しまりがなく、粘性がなし。現耕作土。
- II層 明黄褐色土 (2.5YR7/6) しまりが強く、粘性なし。山砂。
- III層 褐色土 (7.5YR4/4) しまりが強く、粘性が強い。現代の瓦片、ビニール片等が混入する。盛土。

第27図 京塚遺跡トレンチ実測図

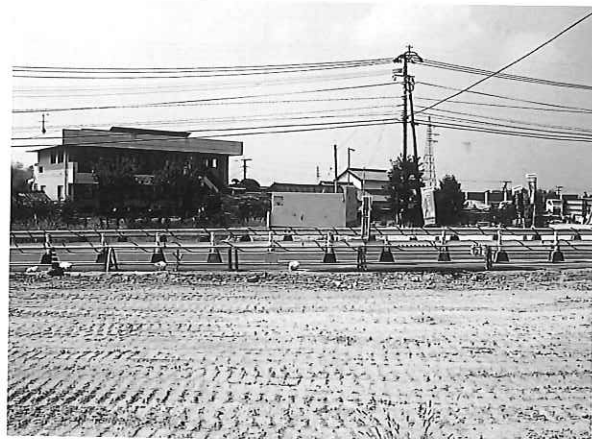


写真12 京塚遺跡調査地遠景

8 伊倉宮の後遺跡（1次調査）

所在地：伊倉北方2636（玉南中学校）

調査原因：体育館

対象面積：22,060.00㎡

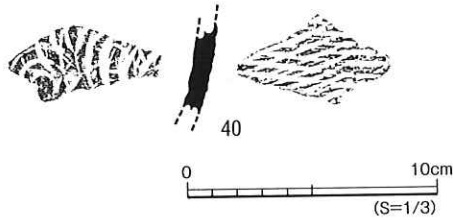
調査期間：平成22年11月15日～16日

担当者：中村安宏

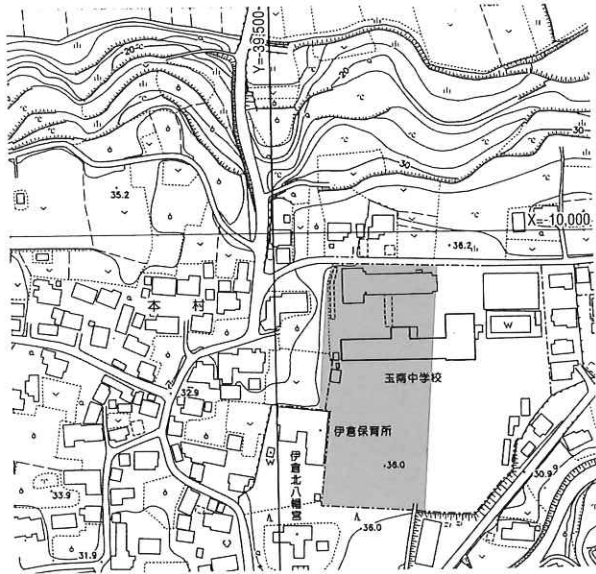
届出地は、菊池川左岸の丘陵上に位置する標高約36mの地点である。

玉南中学校の体育館建替工事に伴い、計画地内に、重機を使用して計2本のトレンチを設定して埋蔵文化財の状況を確認した。

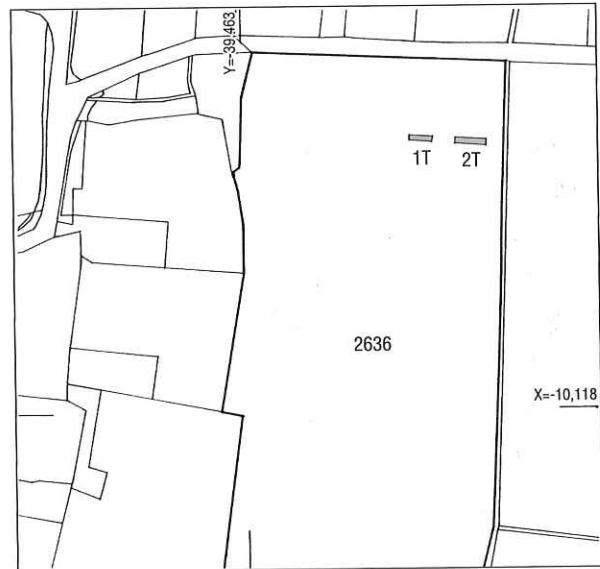
その結果、両トレンチにおいて古代以前の遺物を含む層、2トレンチにおいては溝状遺構、ピットを確認した。これによって、平成23年度の工事前には基礎工事で掘削される範囲については、再度調査を行った。その詳細については別途、本稿の60頁に掲載している。



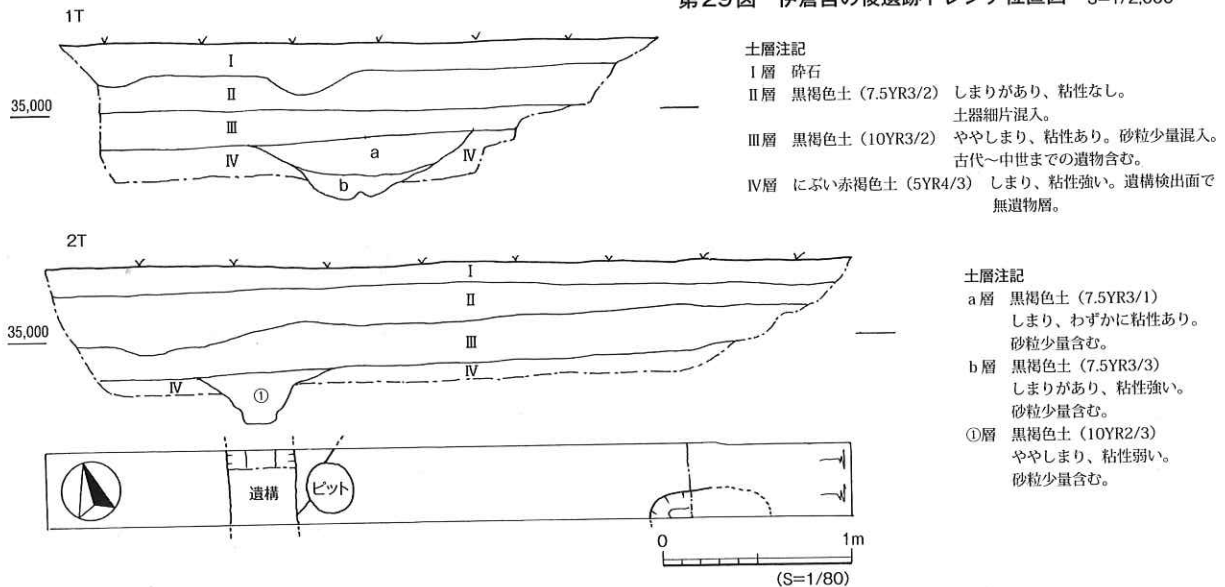
第30図 伊倉宮の後遺跡出土遺物実測図



第28図 伊倉宮の後遺跡位置図 S=1/5,000



第29図 伊倉宮の後遺跡トレンチ位置図 S=1/2,000



第31図 伊倉宮の後遺跡トレンチ実測図

9 玉名平野条里跡 (玉名平野遺跡群・B地点)

所在地：玉名字中無田1491-1他17筆

調査原因：店舗

対象面積：14,228㎡

調査期間：平成23年1月12日～27日

平成23年2月15日～21日

担当者：中村安宏

調査地は、菊池川右岸の玉名平野に位置する標高約5mの地点である。

調査依頼を受けて、店舗建設予定地内に7ヶ所、駐車場予定地に6ヶ所の計13本のトレンチを設定して調査を行った。

その結果、1・2トレンチにおいて杭列及び土器片を検出した。検出層は13C層(オリーブ黒色土層)で、地表面(旧水田面)の約1.5m下からである。

これまで水田に関連する畦畔等が確認されているのは、近辺で両迫間日渡遺跡があり、標高約3.7mで弥生時代中期頃、標高約4.5mで弥生時代後期の杭列が検出されている。

また、市新庁舎建設地(川原・紺町地区)では、中世の水田畦畔に伴う杭列が出土している。

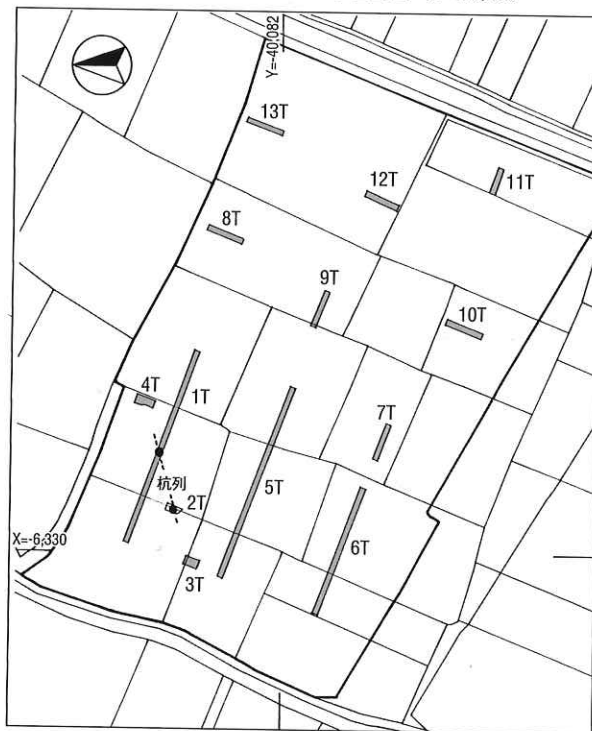
今回の調査では、一部分であり遺物がほとんど検出されなかったため、時期の特定が困難であるが、周辺の調査例や比高差などから、おおむね古墳時代以降から古代までに相当するものと考えられる。

工事内容は店舗建設であり、基礎の位置は検出した杭列には当たらず、地中梁の深度も盛土されるため遺構面まで及ばない。

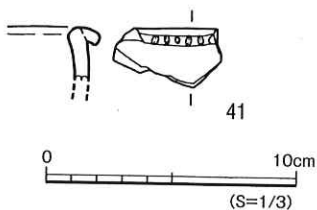
よって、協議により埋蔵文化財は現状保存されることから慎重工事となった。



第32図 玉名平野条里跡位置図 S=1/5,000



第33図 玉名平野条里跡トレンチ位置図 S=1/2,000

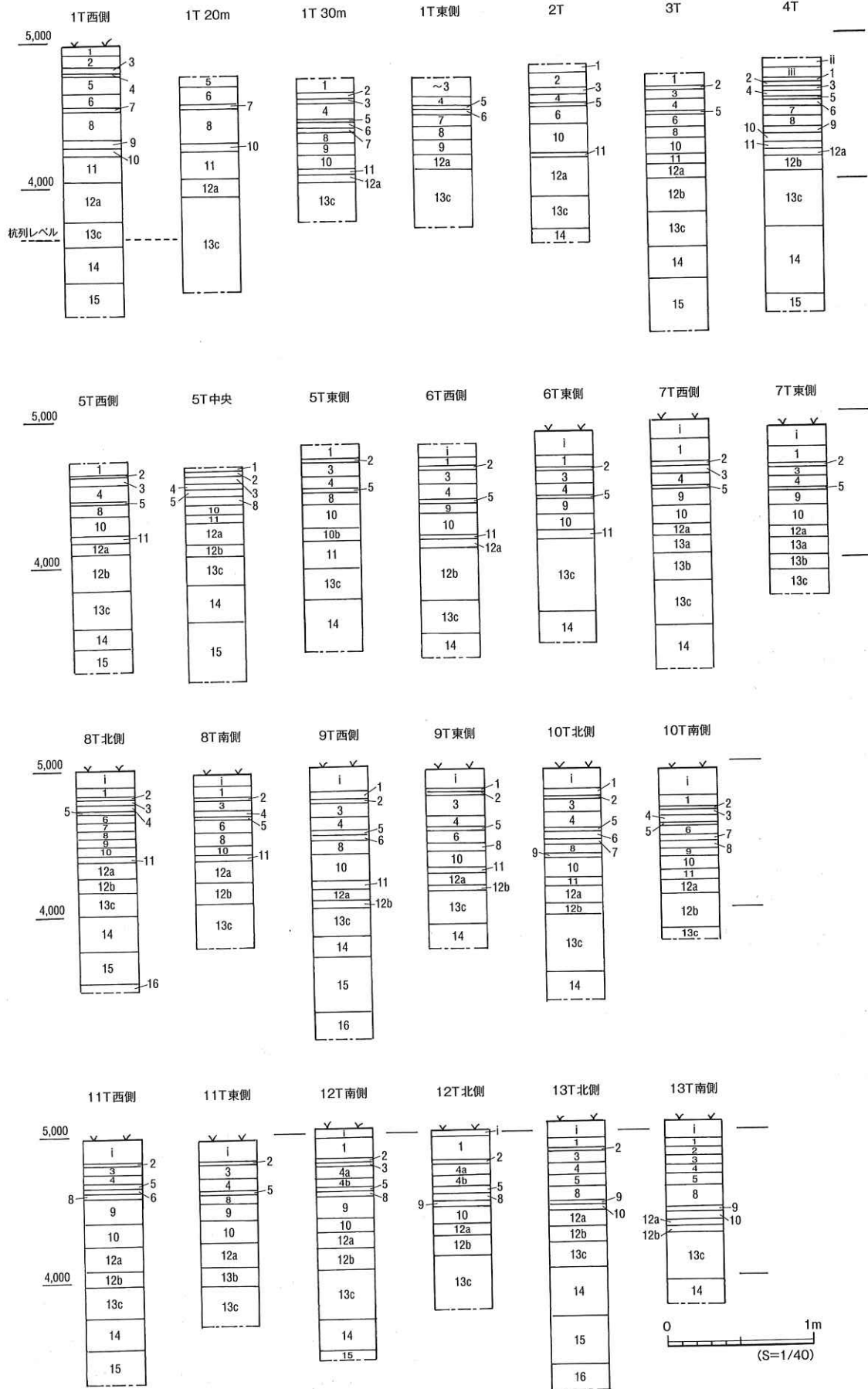


第34図 玉名平野条里跡B地点出土遺物実測図



写真13 玉名平野条里跡B地点調査状況

II 平成22年度の調査

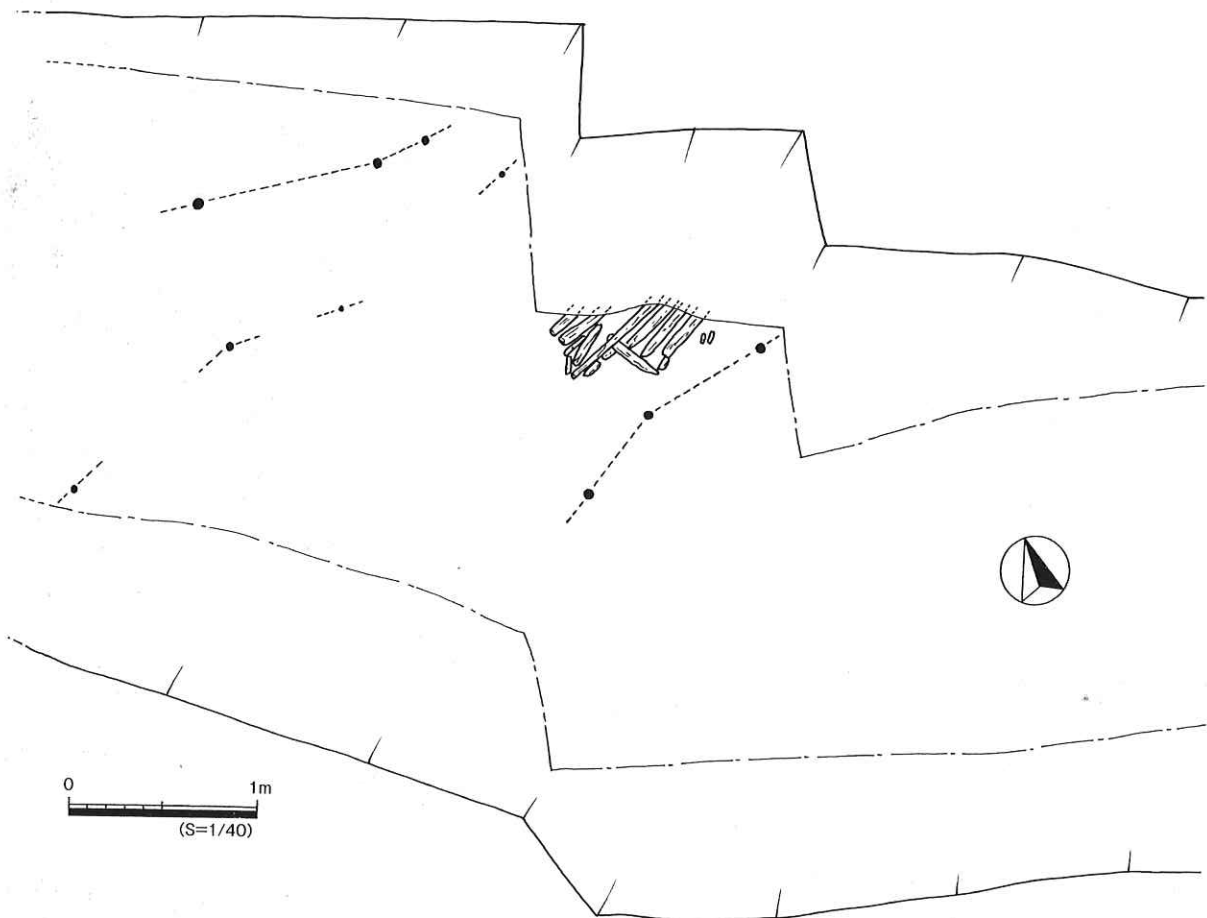


第35図 玉名平野条里跡B地点トレンチ実測図

II 平成22年度の調査

土層注記

- i 現耕作土
- ii オリーブ黒 (5Y3/2) ややしまり、粘性弱い。ややシルト質である。0.1～2mm大の白石粒を含む。
- iii 暗灰黄色土 (2.5Y4/2) ややしまり、やや粘性ある。0.1～1mm大の白石粒を含む。
- 1 灰オリーブ土 (5Y4/2) ややしまり、粘性弱い。0.1～2mm大の白石粒を含む。根を筋状に含む。青色がかる。
- 2 灰オリーブ土 (5Y3/2) ややしまり、粘性弱い。0.1～2mm大の白石粒を含む。根を筋状に含む。黄色がかる。
- 3 灰オリーブ土 (5Y4/2) しまりが強く、粘性弱い。0.1～2mm大の白石粒を含む。赤色がかる。
- 4 灰オリーブ土 (5Y5/2) ややしまり、粘性弱い。0.5～3mm大の白石粒を含む。赤色がかる。
- 5 暗オリーブ砂 (5Y4/4) ややしまり、粘性弱い。砂質。
- 6 灰オリーブ土 (5Y4/2) ややしまり、粘性弱い。0.5～2mm大の白石粒を含む。㊸よりも黄色がかる。
- 7 暗オリーブ土 (5Y4/4) ややしまり、粘性弱い。0.5～2mm大の白石粒を含む。㊸よりも灰色がかる。
- 8 灰オリーブ土 (5Y4/2) ややしまり、粘性弱い。0.5～1mm大の白石粒を含む。
- 9 灰オリーブ土 (5Y4/2) ややしまり、やや粘性ある。0.5～2mm大の白石粒を含む。
㊸よりも灰色がかり、しまり、粘性が強い。㊸よりも黄色がかる。
- 10 オリーブ黒土 (5Y3/2) ややしまり、やや粘性ある。0.5～1mm大の白石粒を含む。
- 11 オリーブ黒土 (5Y3/1) ややしまり、やや粘性ある。0.5～1mm大の白石粒を含む。㊸に鉄分が入り黒色がかる。
- 12a 黒土 (5Y2/1) ややしまり、シルト質。0.1mm大の白石粒を含む。植物遺体含む。
- 12b 黒土 (5Y2/1) ややしまり、シルト質。0.1mm大の白石粒を含む。植物遺体含む。12aよりも黒色。
- 13a オリーブ黒 (5Y3/2) ややしまり、シルト質。白礫含む。鉄分が礫上に入る。
- 13b オリーブ黒 (5Y3/2) ややしまり、シルト質。白礫含む。鉄分が筋状に入る。
- 13c オリーブ黒 (5Y3/2) ややしまり、シルト質。白礫含む。
- 14 オリーブ黒土 (5Y3/1) しまりが強く、粘性強い。植物遺体含まない。
- 15 オリーブ黒土 (5Y2/2) しまりが強く、粘性強い。㊸よりも黒色で硬く締まる。
- 16 オリーブ黒土 (5Y2/2) しまりが強く、粘性強い。㊸よりも黒色で硬く締まる。



第36図 玉名平野条里跡B地点1トレンチ杭列出土状況平面図

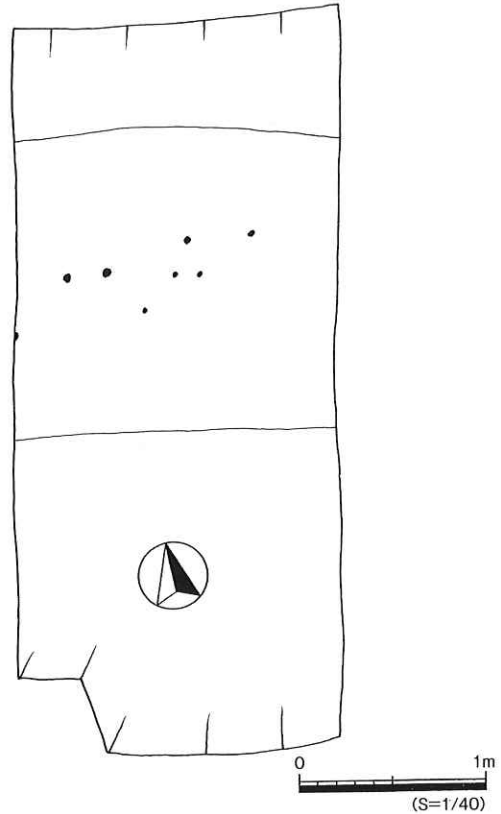
前頁の第36図は、1トレンチで検出した杭列であり、東西方向に延びるものと想定される。

第37図が2トレンチで確認された杭列で、1トレンチと方向がほぼ一致し、いずれも13C層から検出されていることから、同じ畦畔に伴った杭列の可能性はある。

1トレンチの杭列は、方向的に外側にやや大きめの杭列、内側に小さめの杭列があったものと考えられ、これらが同時期になるのかなど詳細は不明である。

また、杭列の内側に枝などを平面的に敷いたような状態で確認されていることから、畦畔に伴う敷粗朶工法の一部と考えられる。類似した遺構は、付近の両迫間日渡遺跡でも弥生時代終末期～古墳時代初頭の水田跡で確認されている。

参考文献：熊本県教育委員会 2012『長山前田遺跡・両迫間日渡遺跡1』熊本県文化財調査報告集第268集



第37図 玉名平野条里跡2トレンチ杭列実測図

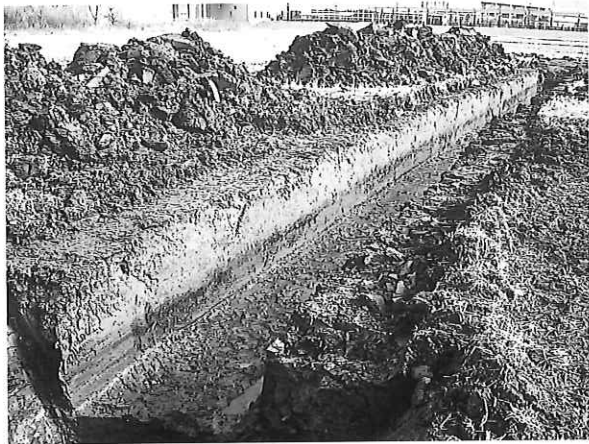


写真14 玉名平野条里跡B地点1T土層堆積状況



写真15 玉名平野条里跡B地点1T杭列検出状況



写真16 玉名平野条里跡B地点2T杭列検出(奥が1T)



写真17 玉名平野条里跡B地点土層堆積状況(2T)

10 高瀬本町通遺跡

所在地：高瀬223-3の一部、191の一部

調査原因：賃貸住宅

対象面積：947.97㎡

調査期間：平成23年2月15日～3月3日

担当者：兵谷有利

調査地は、菊池川右岸の高瀬商店街中心部に位置する標高約7mの地点である。敷地には近年までは病院が建っていた。

高瀬の町並みは南東から北西に長い土地割となっているため、北東から南西方向のトレンチを6本設定して調査を行った。

その結果、近世～近代にかけての土地境界の石垣とその間に挟まれた溝、近代の建物基礎跡、近・現代の通路に伴う敷石等が確認された。6トレンチにおいては、これらの方向や範囲を確認するため一部トレンチを拡張して調査を行った（第40図参照）。

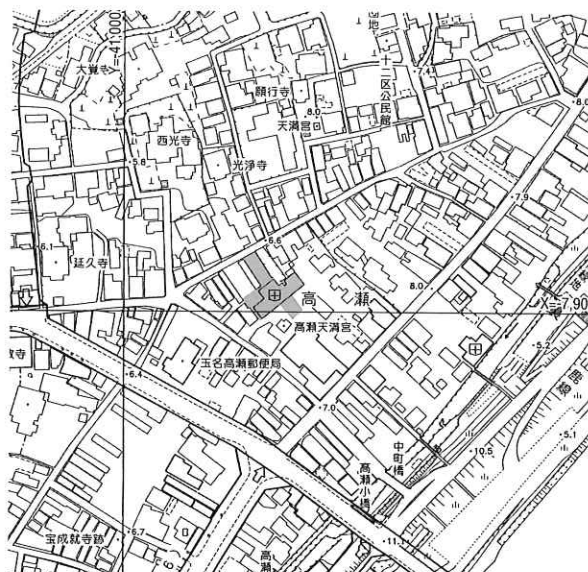
今回、検出した近世～近代の石垣などは実測を行った。

1854(嘉永7)年の「高瀬町図」によると、敷地は光浄寺の門前にあたる町屋の範囲となっている。

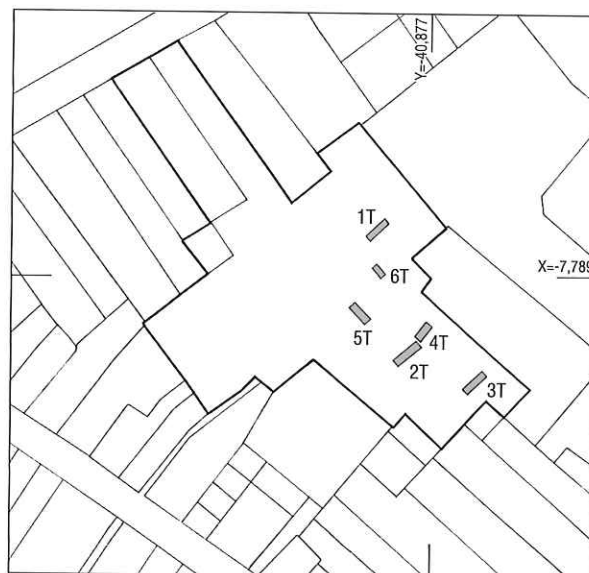
土層観察や資料によると、この付近までは西南戦争時の戦火は及んでいないようであり、病院が建てられる以前までは、町屋の建物が残っていたものと考えられる。5・6トレンチで確認した両石積に挟まれた溝（水路）は、調査時まで機能しており、字図でその続きとみられる痕跡がわかる。

今回出土した陶磁器は、18世紀代を中心に江戸時代末期まで、及び明治～昭和初期にかけて様々な種類があった。出土状況はほとんどが埋土内に一括して廃棄された傾向であり、残存状態がいい古いガラス瓶も含まれていた。大正～昭和前期の化粧・薬・インク用などの瓶と考えられる（写真24）。

基礎掘削が深い部分は、約1.6mであるが、その深度内で調査対象となる遺構や遺物は確認できなかったため、工事立会となった。



第38図 高瀬本町通遺跡位置図 S=1/5,000



第39図 高瀬本町通遺跡トレンチ位置図 S=1/1,000

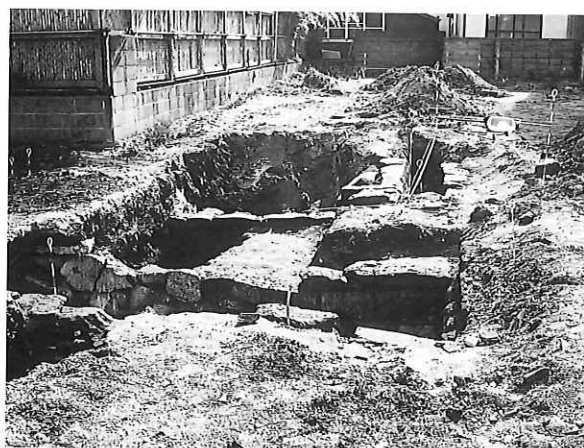
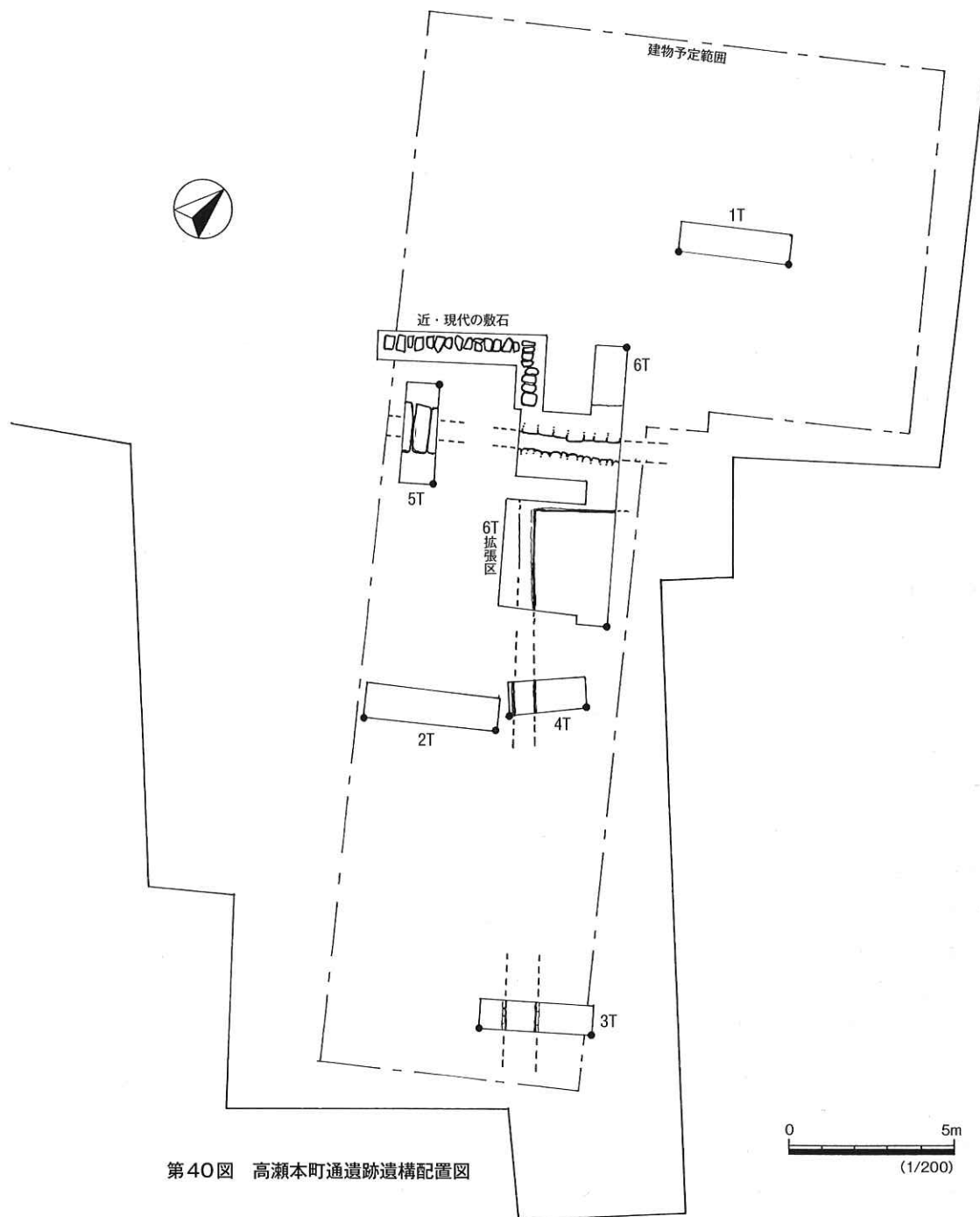


写真18 高瀬本町通遺跡調査状況 (6T拡張区)



第40図 高瀬本町通遺跡遺構配置図



写真19 高瀬本町通遺跡3T石積出土状況

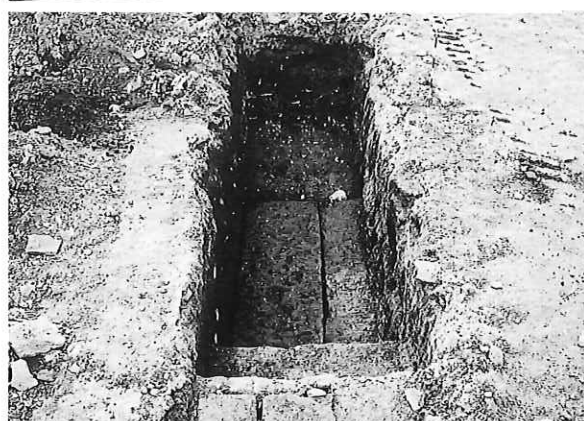
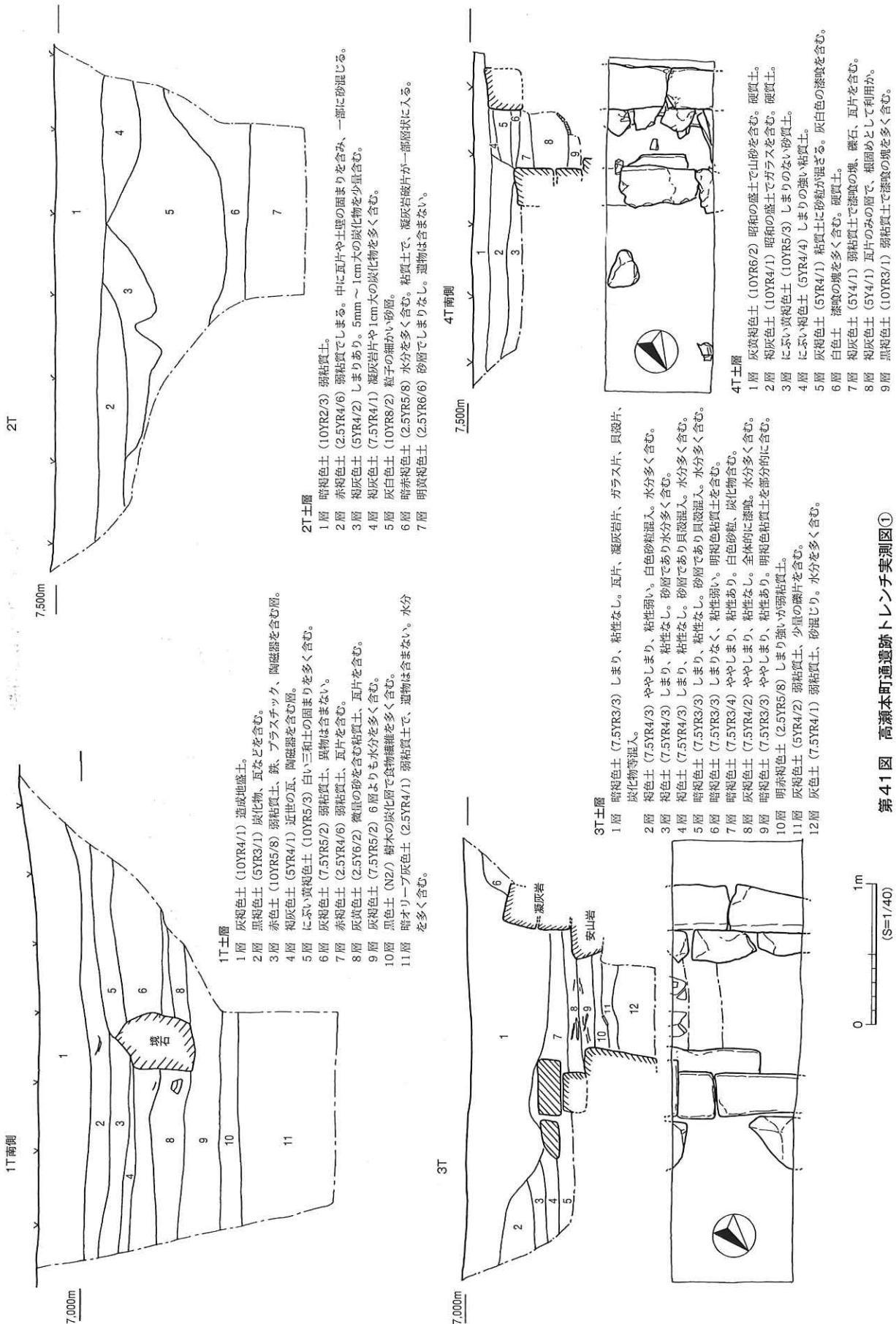
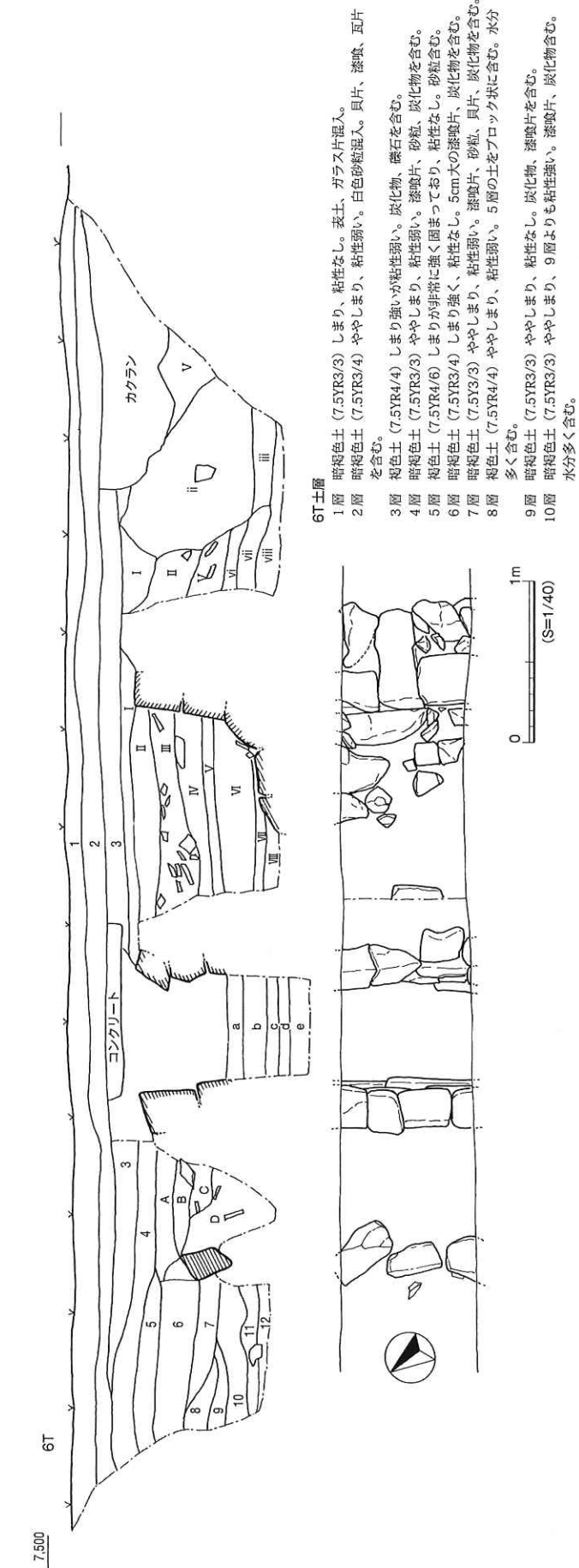
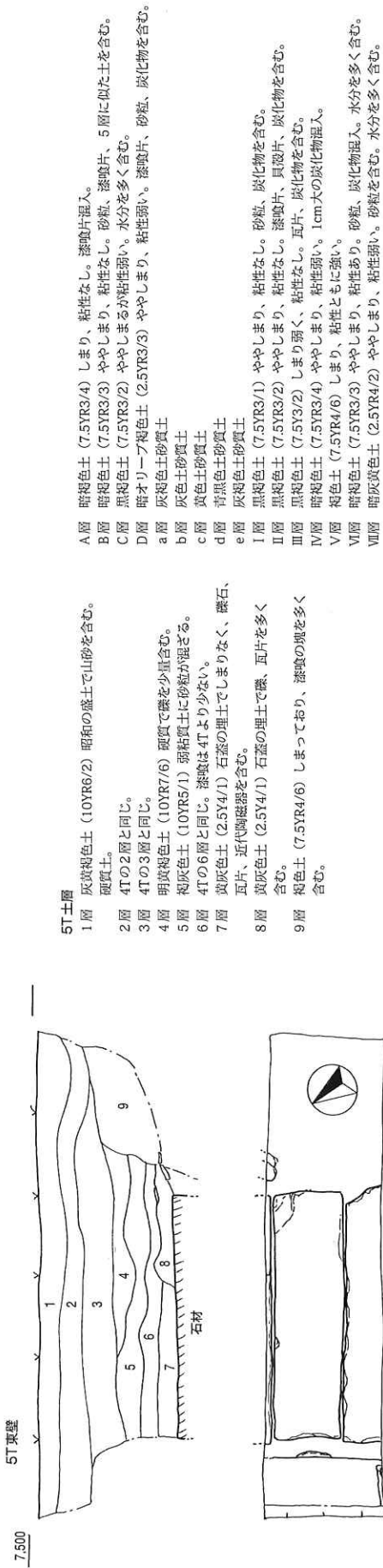


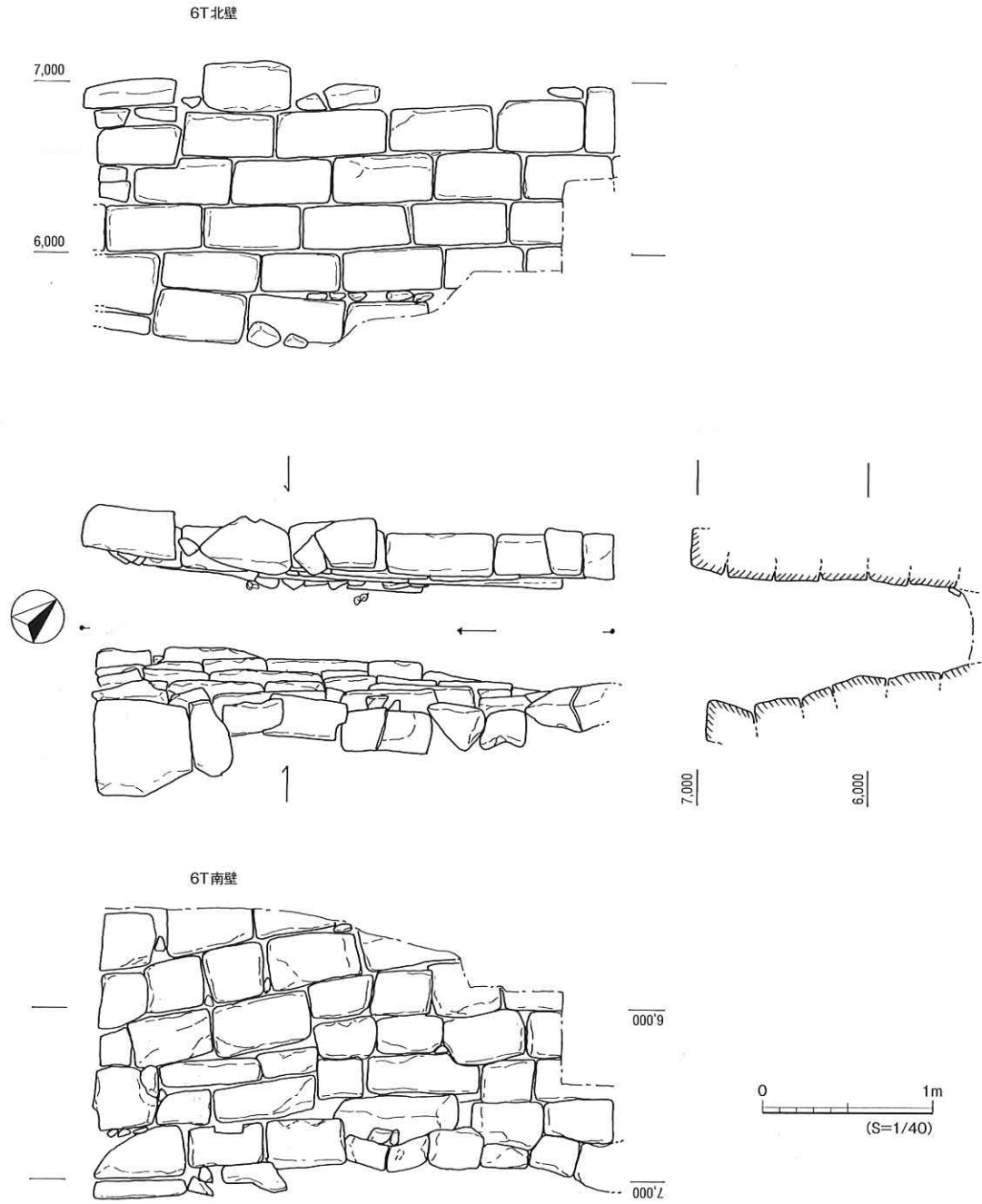
写真20 高瀬本町通遺跡5T石積出土状況



第 41 図 高瀬本町通遺跡トレンチ手実測図①



第42図 高瀬本町通遺跡トレンチ実測図②



第43図 高瀬本町通遺跡トレンチ実測図③

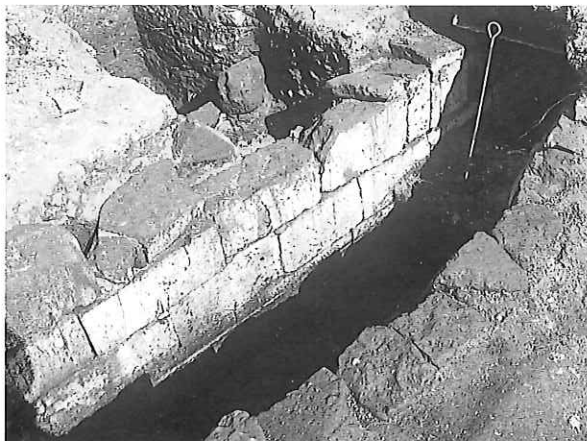


写真21 高瀬本町通遺跡6T北側石積出土状況

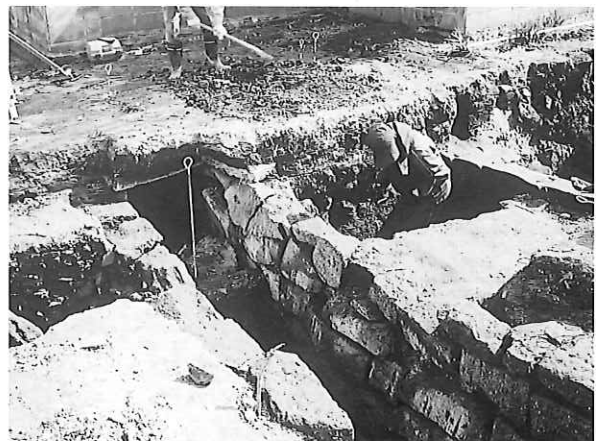


写真22 高瀬本町通遺跡6T南側石積出土状況



写真23 高瀬本町通遺跡出土遺物①（近世～近代の磁器）



写真24 高瀬本町通遺跡出土遺物②（近世～近代の陶器・ガラス製品）

11 繁根木遺跡群

所在地：繁根木84-7

調査原因：調査依頼

対象面積：148.68㎡

調査期間：平成23年3月15日

担当者：末永 崇

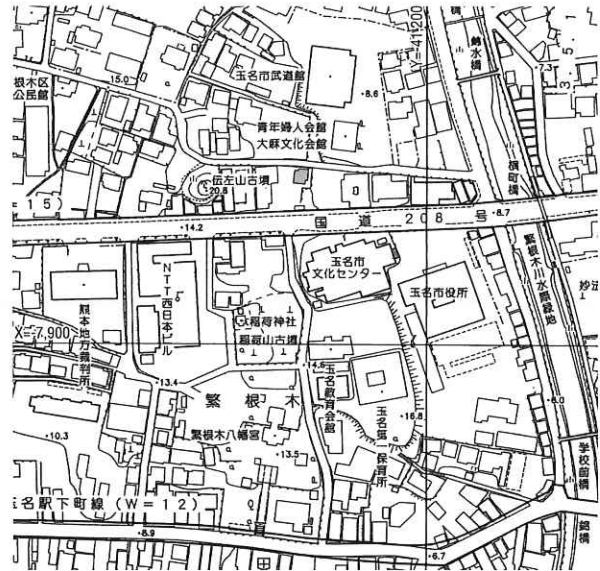
調査地は、繁根木川右岸の低丘陵上に位置する標高約12mの地点である。

西側には伝左山古墳が存在し、敷地周辺は、中世から近世にかけて所在した寿福寺の範囲であるが、遺跡内は国道208号線が開通しており、一帯は宅地化されている。

工事内容は、既存建物を解体後、敷地全体を切り下げる造成である。

調査では、対象地の2ヶ所にトレンチを設定した。層位はⅠ～Ⅲ層まで確認し、Ⅰ層が建物解体後の整地層及び旧表土、Ⅱ層が褐色ローム層、Ⅲ層がにぶい黄色を呈する砂質土であった。

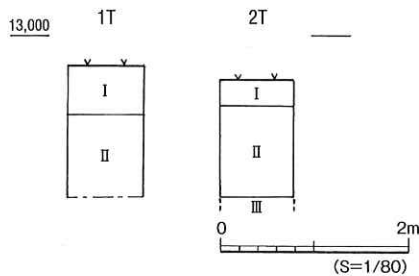
Ⅱ層以下は無遺物層であり、遺構及び遺物は確認されなかった。層位や周辺の状況などから、既に敷地及び周辺は削平されており、埋蔵文化財は存在しないと判断される。今後の措置は慎重工事である。



第44図 繁根木遺跡群位置図 S=1/5,000



第45図 繁根木遺跡群トレンチ位置図 S=1/600



土層注記

Ⅰ層 表土

Ⅱ層 褐色土 (2.5YR4/6) しまり、粘性あり。ローム風。

ⅠトレンチのⅡ層には、マンガン、砂質土を多く混入する。

Ⅲ層 にぶい黄褐色土 (2.5Y6/4) ややしまり、粘性なし。黒褐色砂質土が部分的に混入する。無遺物層。

第46図 繁根木遺跡群トレンチ実測図



写真25 繁根木遺跡群1T調査状況

12 松林寺山古墳（遺跡地図作成に伴う踏査）

所在地：向津留452地先

調査原因：遺跡地図作成

調査期間：平成22年3月29日～

平成23年4月1日

担当者：兵谷有利

市で独自の遺跡地図を作成することとなり、遺跡範囲を見直し、不明確な場所は現地踏査を行った。その踏査中、当古墳については石棺が露出していることを再確認した。

石棺は、破損、崩壊が著しいということで地権者の了解を得たうえ、現状を記録するため緊急的な実測作業を行った。

調査地は、菊池川左岸の丘陵上に位置する標高20m前後の地点である。古墳の形状は調査例がないため不明であるが、舟形石棺を主体とする円墳であったと考えられる。

同じ丘陵上には「飯塚古墳」がある。これら2基の古墳の間には亀頭迫遺跡という古墳時代の遺跡が広がっており、以前に土師器が採集されている。

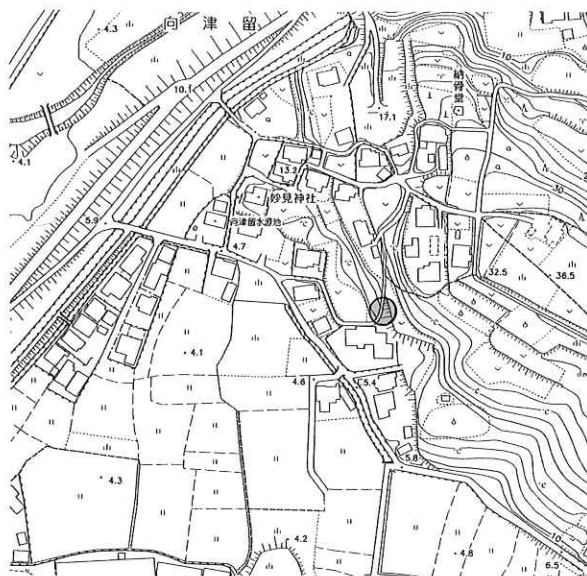
この東側に延びる別の丘陵突端部には、7基からなる「城ヶ辻古墳群」が存在し、発掘調査の結果、肥後地域特有の石障系横穴式石室や北部九州にみられる竪穴系横穴式石室などが確認されている。

本古墳の石棺は舟形石棺であり、城ヶ辻古墳群に先行する古墳と考えられるが、伊倉丘陵性台地から菊池川方面に突出するいくつもの尾根先には小規模な古墳が多く分布しており、これらの関連性が気になるところである。

松林寺山古墳は、昭和30年代に地権者が掘削中、石棺が露出したことにより発見され、副葬品などは不明である。

また、聞き取りの結果、現在石棺片がある地点と実際の石棺出土地点はやや異なるということであった。実際は、約20m北東側の斜面中である。

平成4年、高木恭二氏によって一度発表されている石棺であるが、当時は破片の一部であった。今回の踏査によって、さらに周辺より散乱した石棺片を数点採集し、なるべく現状のまま復元を試み、実測



第47図 松林寺山古墳位置図 S=1/5,000



写真26 松林寺山古墳周辺遠景（西から）

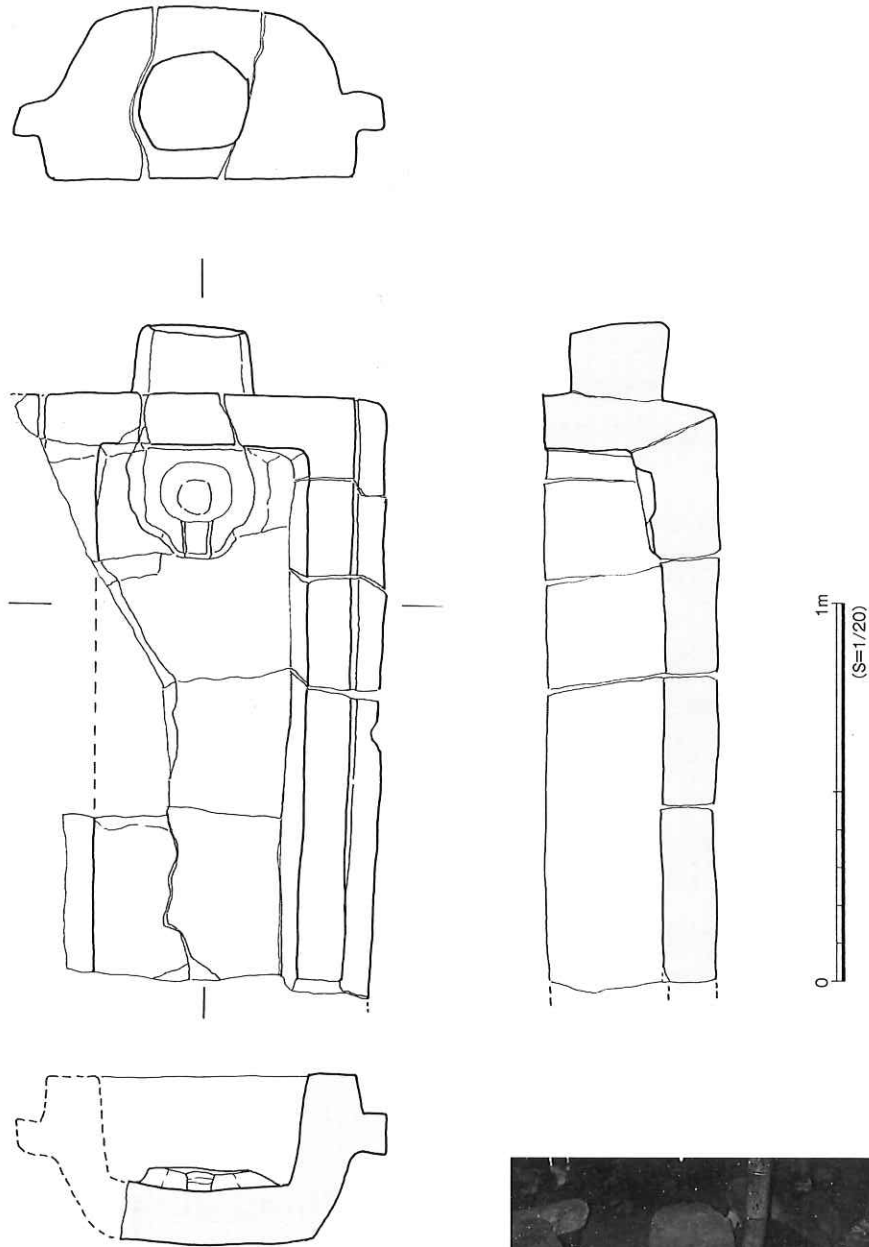
作業を行った。蓋についてはほぼ全体が把握できるようになった。

幅約1m、蓋の長さが約2.5mを測り、阿蘇凝灰岩製である。この形状の舟形石棺は玉名地域に多く、「北肥後I型」に分類される（高木1994）。

棺身に削り出しの枕、舟べり状突帯が付く形態は、「院塚古墳2号石棺」、天水町の「経塚古墳」などがあり、型式からすると4世紀中頃と推定される。

参考文献

- 高木恭二 1992 「九州地方」『刳抜式石棺研究の現状と課題』
古代学協会
高木恭二 1994 「九州の刳抜式石棺について」『古代文化』第46巻
第5号
中村安宏・古城史雄 2001 『大塚古墳』天水町文化財調査報告第2集
天水町教育委員会



第48図 松林寺山古墳 石棺実測図①(棺身)



写真27 松林寺山古墳舟形石棺(繩掛突起部分)



写真28 松林寺山古墳石棺(棺身)接合状況

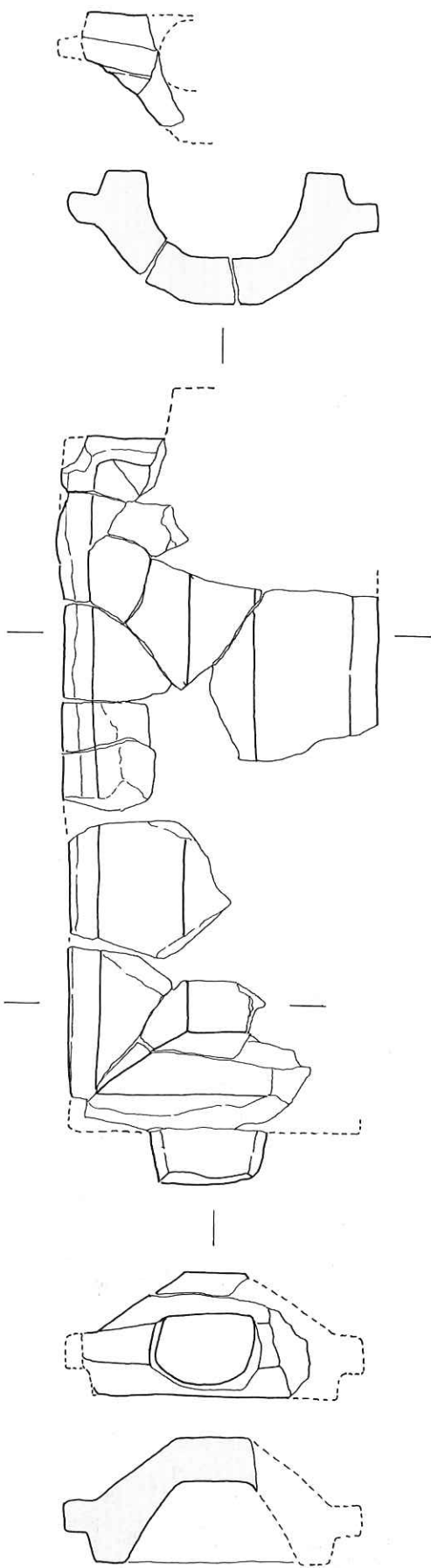


写真29 松林寺山古墳石棺（棺蓋）接合状況



第49図 松林寺山古墳 石棺実測図②（棺蓋）

13 石貫ナギノ横穴群（地形測量調査）

所在地：石貫字柳野原

調査原因：整備に伴う測量調査

対象面積：約30,000㎡

調査期間：平成22年6月21日～10月29日

担当者：末永 崇

国史跡である当横穴群の範囲確認及び今後の整備計画等の基礎資料とするため地形測量調査を行った。

平成20年度に石貫穴観音横穴群周辺の地形測量を行っている。

(1) 石貫ナギノ横穴群の概要

小岱山南麓に広がる低丘陵上の標高30m前後の地点に位置している。繁根木川右岸の丘陵東側に所在し、凝灰岩の崖面に南北約250mにわたって48基の横穴が確認されている。繁根木川流域は、その支流によって丘陵が開削され、阿蘇溶結凝灰岩の露頭が続く地域でもあり、装飾のある横穴墓群も多い。

当横穴群は位置などでいくつかのグループに区分され、部分的に崩落しているところもあることから、埋没しているものも多いと推定される。

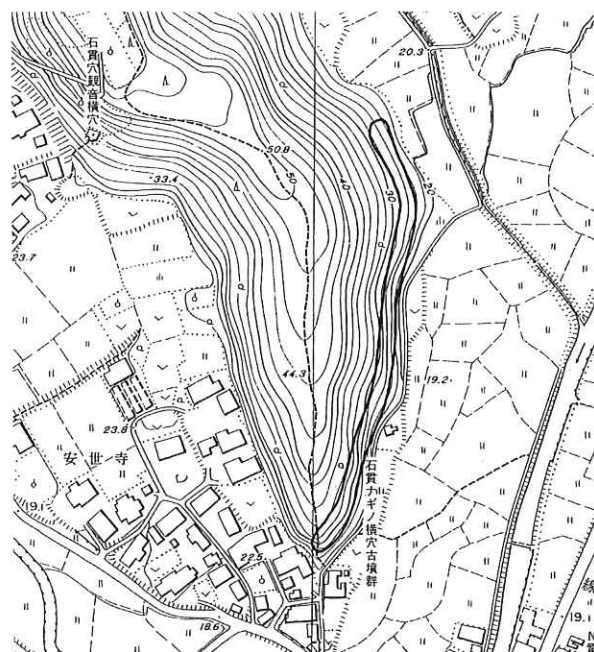
横穴墓入口の飾縁には線刻されているものや、赤色などで彩色されているものがある。特に6号墓と8号墓の彩色が最も保存状態が良く、飾縁に同心円文などが描かれている。

8号墓内部の石屋形には同心円文と連続三角文が線刻され、石屋形と側壁の間に大刀が浮き彫りされているなど多様性がある。

大正6年に京都帝国大学の浜田耕作・梅原末治氏によって調査され、その後横穴墓としての規模・内容も優れていることなどから、石貫穴観音横穴群と共に大正10年に国指定史跡となっている。

(2) 横穴群所在の地形について

同じ丘陵の西側には石貫穴観音横穴群がある。5基のうち、2号墓は飾縁に赤の円文と内部奥壁に千手観音像、3号墓は赤の彩色が施されている。2号墓が位置的、構成的に中心を成しており規模も大きく、屍床上部の庇には軒丸瓦状の円形突起が設けられていることも特徴である。形態などから6世紀中



第50図 石貫ナギノ横穴群位置図 S=1/5,000

頃の構造と考えられ、千手観音に関しては年代特定が困難であるが、作風などから平安時代頃の作と推定されている。横穴正面には拜殿が設置され、古くから信仰の対象となっていたことが窺える。

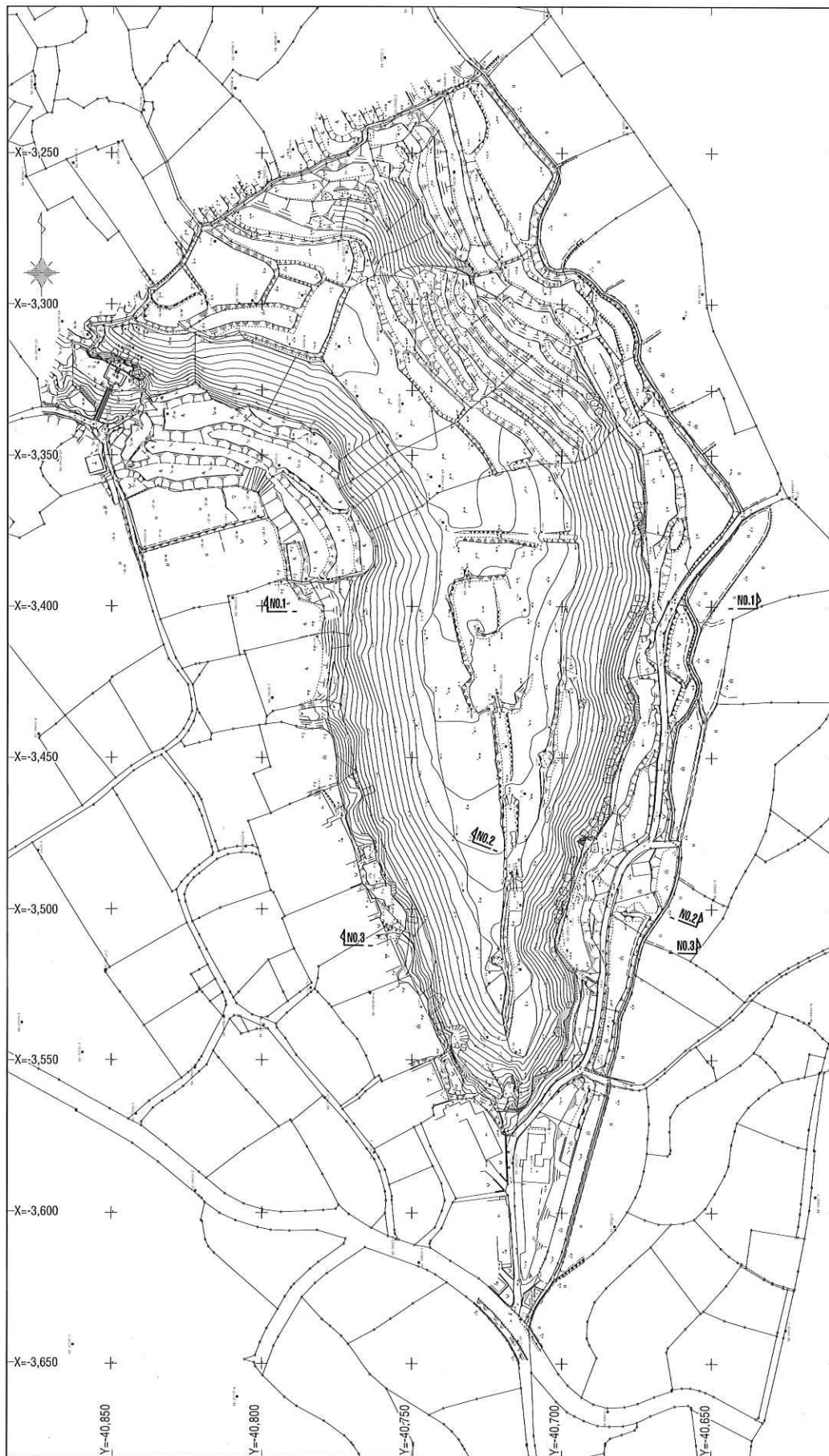
両横穴群は、同じ丘陵の西側と東側に所在し、その間の部分については、丘陵裾部と住宅敷地が接する部分に凝灰岩崖面が認められる。しかし、太平洋戦争中の防空壕とカライモ貯蔵穴が多くあり、横穴墓の存在の判断が非常に困難な状況である。

丘陵上には、他に後田古墳があり、舟形石棺のみが残存しているが、丘陵全体が後世に地形の改変を受けており、墳丘などの内容は不明である。

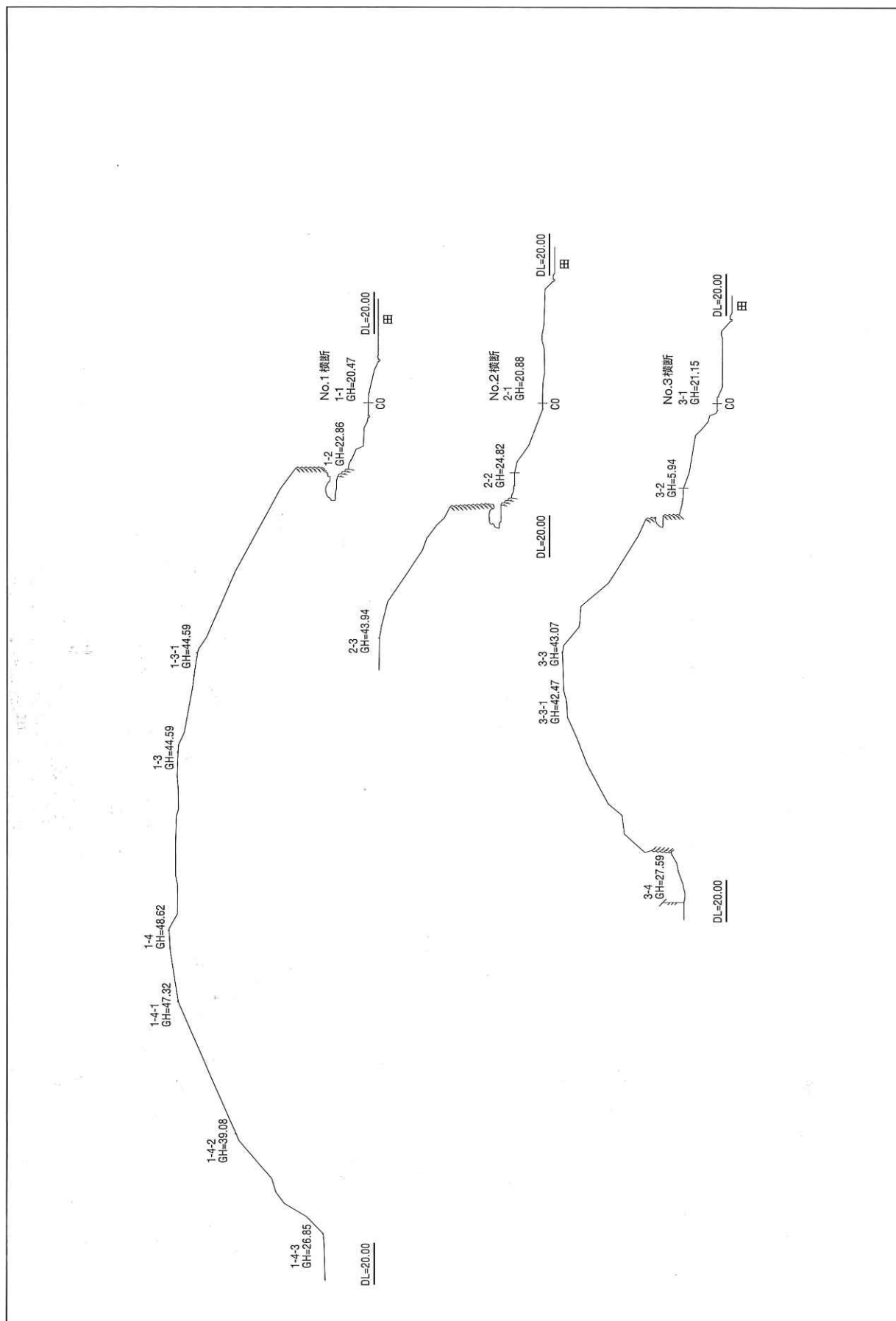
横穴群は古墳時代に築造されて以後、周辺には寺院及び神社が建立され、横穴が寺院の一部となっていた時期もあったと考えられる。

穴観音横穴群の麓には、中世寺院である安世寺が開かれ、菊池一族が創建したと伝えられている。現在、寺院はないが、周辺には歴代住職の墓地（安世寺第一世墓・第二世墓）が残っている。

また、丘陵上にはかつて石貫熊野座神社があったが昭和初期に火災に遭い、その後繁根木川左岸に移築されている。現在、跡地は測量図でも明確のように本殿や参道の痕跡がある。以前は丘陵南側の突端部から参道が伸びていたようである。その他、杉の植林地として地形が改変された部分もある。



第51図 石貫ナギノ横穴群地形測量図 (S=1/2,000)



第52図 石貫ナギノ横穴群横断面図(西一東) S=1/600



写真30 石貫ナギノ横穴群 遠景



写真31 石貫ナギノ横穴群 8号墓付近



写真32 石貫ナギノ横穴群 8号墓



写真33 石貫ナギノ横穴群 44~46号墓



写真34 石貫ナギノ横穴群 8号墓内部の石屋形

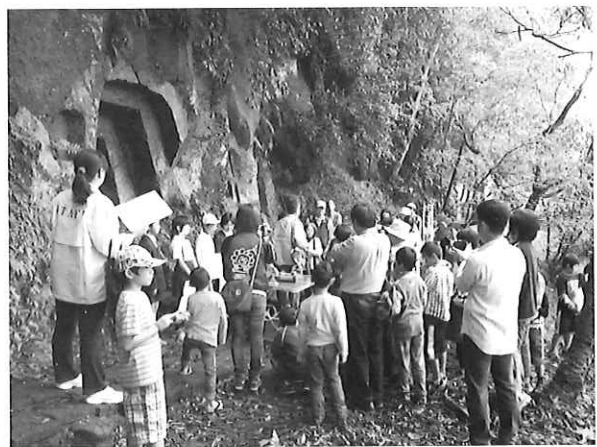


写真35 石貫ナギノ横穴群 見学風景

Ⅲ 平成23年度の調査



調査前の山田松尾平遺跡

1 玉名平野条里跡（玉名平野遺跡群・C地点）

所在地：玉名字中無田1507-1他17筆

調査原因：調査依頼（店舗）

対象面積：14,861㎡

調査期間：平成23年5月12日～24日

担当者：中村安宏

調査地は、菊池川右岸の玉名平野に位置する標高約5mの地点である。北東側に新玉名駅がある。

これまで周辺で行われた調査例を挙げると、両迫間日渡遺跡で、弥生時代中後期の水田跡（畦畔及び杭列）、古墳時代中期の石製模造品を使用した祭祀跡などが確認されている。

また、柳町遺跡からは古墳時代前期の集落跡より文字が残存していた木製短甲を含む多量の木製品及び鏡片などが出土している。

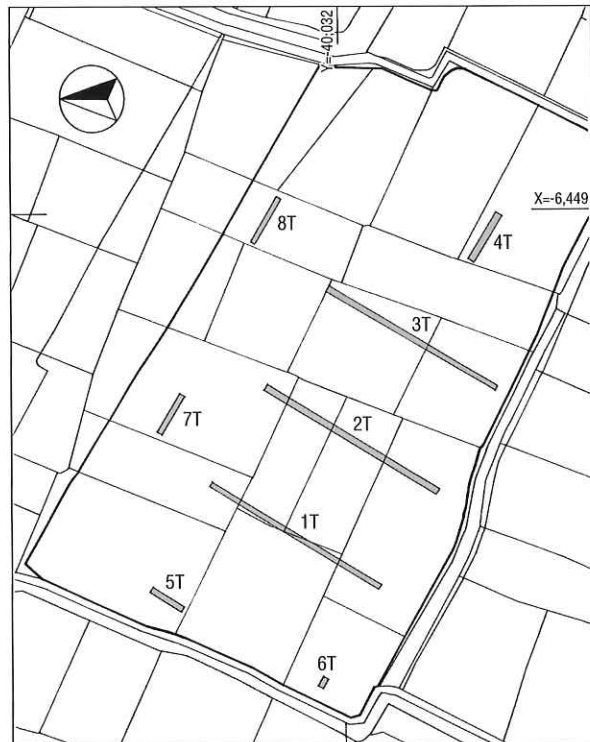
当地の状況は水田となっており、建物予定地に6本、駐車場予定地に2本の計8本のトレンチを設定して確認調査を行った。

その結果、北側駐車場予定地にあたる8トレンチにおいて土器小片が1点出土したのみで、他遺構等の明確な埋蔵文化財は確認できなかった。

今回の工事は、店舗の新築工事であるが、敷地全体において盛土が行われ、埋蔵文化財は確認されなかったことから慎重工事となった。



第53図 玉名平野条里跡C地点位置図 S=1/5,000



第54図 玉名平野条里跡C地点トレンチ位置図 S=1/2,000

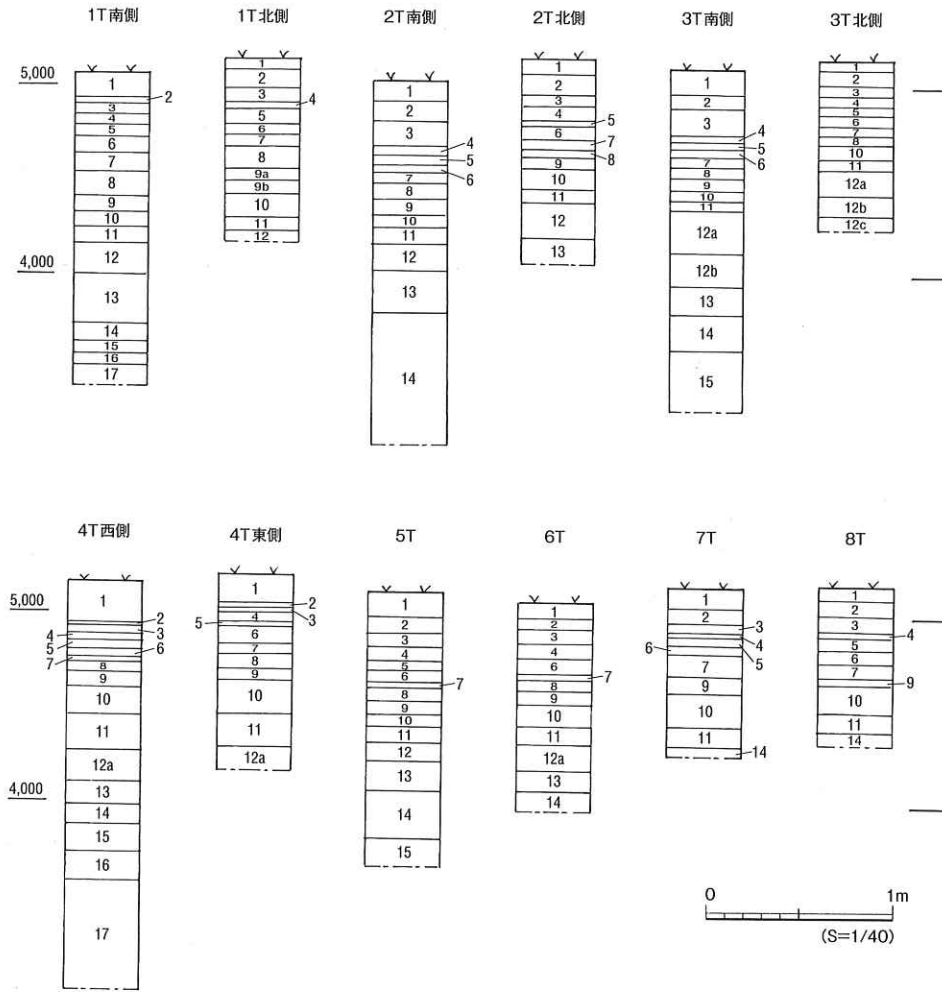


写真36 玉名平野条里跡C地点調査前状況



写真37 玉名平野条里跡C地点確認調査状況

III 平成23年度の調査



土層説明

- 1層 現耕作土
- 2層 オリーブ黒色 (5Y3/2) ややしまり、粘性強い。
- 3層 灰オリーブ色 (5Y4/2) しまりが強く、粘性強い。
- 4層 暗オリーブ色 (5Y4/4) しまりが強く、粘性強い。
- 5層 暗オリーブ色 (5Y4/4) しまりが強く、粘性強い。黒色マンガン含む。
- 6層 暗オリーブ色 (5Y4/4) しまりが強く、粘性強い。黒色マンガン含む。5層よりも硬い。
- 7層 暗オリーブ色 (5Y4/3) しまりが強く、粘性強い。マンガンの含み方が少ない。
- 8層 灰オリーブ色 (5Y4/2) しまりが強く、粘性強い。マンガンを全体的に含む。
- 9層 灰オリーブ色 (5Y4/2) しまりが強く、粘性強い。8層よりもしまり、マンガンを全体的に含む。
- 10層 灰色 (5Y4/1) しまりが強く、粘性強い。マンガンを全体的に含む。
- 11層 オリーブ黒色 (5Y3/2) しまりが強く、粘性強い。マンガン含む。
- 12層 オリーブ黒色 (5Y3/2) しまりが強く、粘性強い。ややシルト質。
- 13層 オリーブ黒色 (5Y3/1) しまりが強く、粘性強い。
- 14層 オリーブ黒色 (5Y3/1) しまりが強く、粘性強い。
- 15層 オリーブ黒色 (5Y3/2) しまりが非常に強く、粘性強い。14層よりも黒く硬い。
- 16層 オリーブ黒色 (5Y3/2) しまりが15層よりも強く、粘性強い。15層よりも白っぽい。
- 17層 オリーブ黒色 (5Y4/1) しまりが強く、粘性強い。シルト質で、16層よりも白っぽい。

第55図 玉名平野条里跡C地点トレンチ実測図

2 平町遺跡

所在地：築地64番1、64番5、65番2

調査原因：特別養護老人ホーム

対象面積：1,368.52㎡

調査期間：平成23年6月21日～23日

担当者：中村安宏

調査地は、境川右岸の玉名台地上に位置する標高約16mの地点である。

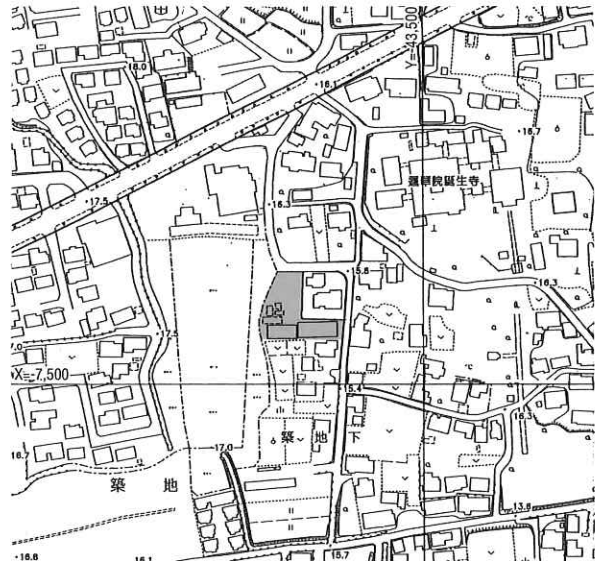
周辺は、蓮華遺跡、南大門遺跡などが広がっており、弥生時代後期～古墳時代にかけての集落跡、中世寺院である浄光寺跡が確認されている。

既存建物の解体後に、基礎が入る部分を中心に計8本のトレンチを設定して、確認調査を行った。

その結果、1a層は既存建物の解体整地層、1b層は砂利、1c層は山砂による盛土層、2層は黒褐色土、3層以下は無遺物層である。

6～8トレンチにかけては、1から6層の間にI～V層を確認したが、8トレンチのIV層下部においてビニール片が混入しており、このI～V層は造成盛土と考えられる。特に北側の低い部分に盛土されているようである。

今回の調査によって、埋蔵文化財は確認されなかったため、慎重工事となった。



第56図 平町遺跡位置図 S=1/5,000



第57図 平町遺跡トレンチ位置図 S=1/1,000



写真38 平町遺跡調査前状況

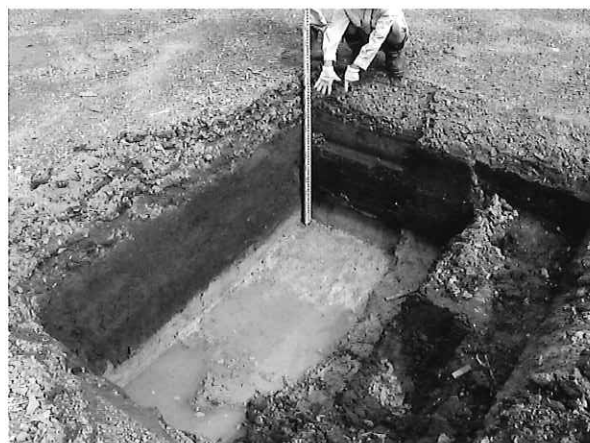
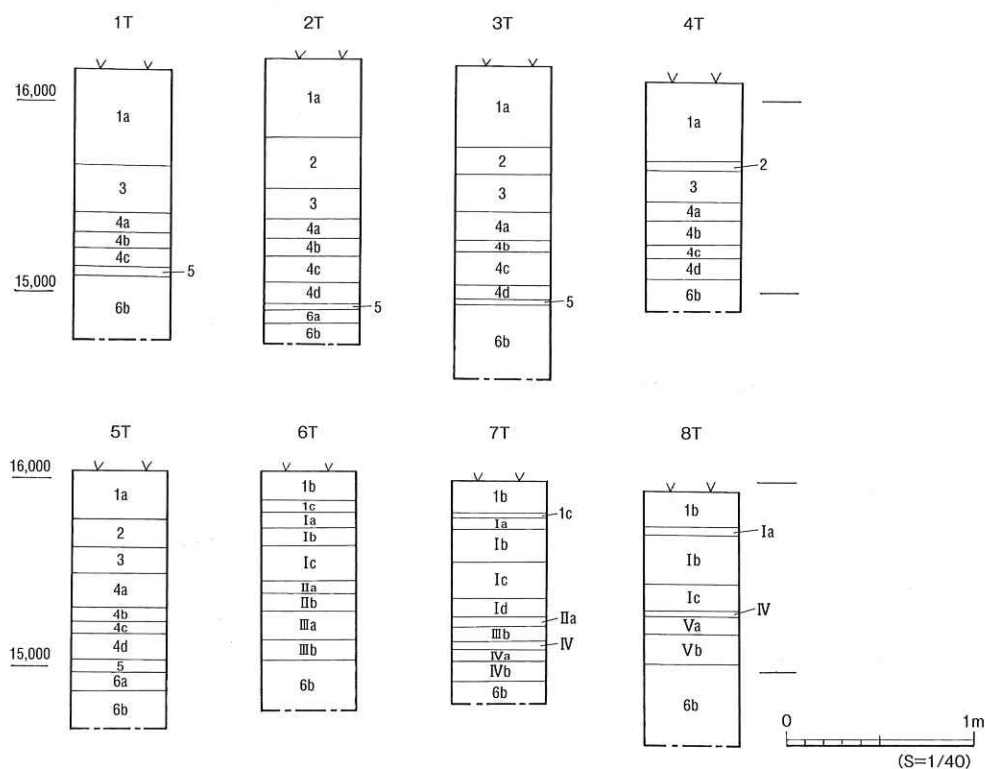


写真39 平町遺跡 6T土層堆積状況

III 平成23年度の調査



土層説明

- 1a 黒褐色土 (7.5YR2/3) 既存建物解体土
- 1b 砂利
- 1c 山砂
- 2d 黒褐色土 (7.5YR3/2) ややしまり、やや粘性ある。
- 3 明褐色土 (7.5YR5/6) しまりが強く、粘性強い。0.5mm大の白石粒含む。
- 4a にぶい黄色褐色土 (10YR5/4) しまりなく、粘性弱い。砂質。
- 4b にぶい黄色褐色土 (10YR5/4) しまりなく、粘性弱い。④aよりも黄色。
- 4c にぶい黄色褐色土 (10YR5/4) しまりなく、粘性弱い。④a、④bよりも黒色。
- 4d 黄色褐色土 (10YR5/6) しまりが弱く、粘性弱い。やや赤色。
- 5 にぶい赤褐色土 (5YR4/3) しまりなく、粘性ない。鉄分集中。
- 6a 浅黄色土 (2.5YR7/4) しまりが強く、粘性なし。
- 6b 浅黄色土 (2.5YR7/4) しまりが強く、粘性なし。⑥aよりもしまりが強い

- I a 黒褐色土 (7.5YR3/2) しまりが強く、粘性なし。0.1～2mm大の黒色、橙色、白色石粒を含む。下部にビニール片混入。
- I b 暗褐色土 (7.5YR3/3) しまりが強く、粘性なし。0.1～3mm大の黒色、橙色、白色石粒を含む。
- I c 暗褐色土 (7.5YR3/4) しまりが強く、やや粘性あり。4～1.5mm大の土器の粒を含む。1mm～1cm大の白石粒を含む。
- I d 暗褐色土 (7.5YR3/4) しまりが強く、やや粘性あり。4～1.5mm大の土器の粒を含む。1mm～1cm大の白石粒を含む。I cよりも明るい。
- II a 暗赤褐色土 (5YR3/2) ややしまり、粘性は弱い。鉄分II bよりも赤色。
- II b にぶい赤褐色土 (5YR4/4) ややしまり、粘性は弱い。鉄分II aよりも黄色。下部にビニール片混入。
- III a オリーブ黒色 (5Y3/1) しまりがあり、粘性強い。III bよりも黄色くなく青黒い。下部にビニール片混入。
- III b オリーブ黒色 (5Y3/2) しまりがあり、粘性強い。III aよりも黄色。
- IV にぶい赤褐色土 (5YR4/3) しまりがあり、粘性ない。
- V a にぶい赤褐色土 (10YR4/3) ややしまり、粘性強い。0.1～3mm大の白石粒含む。1cm大の⑥bをブロック状に含む。
- V b 暗褐色土 (10YR3/3) ややしまり、粘性強い。V aよりもしまりが強く、暗い色をしており、⑥bをブロック状に含む割合が少ない。

第58図 平町遺跡トレンチ実測図

3 山田神社門前遺跡

所在地：山田字地藏前1702-10
 調査原因：調査依頼（専用住宅）
 対象面積：368.23㎡
 調査期間：平成23年6月23日
 担当者：兵谷有利

調査地は、小岱山南麓の低丘陵上に位置する標高約24mの地点である。

当遺跡は、山田日吉神社を中心として中世に栄えた遺跡群であり、神社へ続く道路の両側に「白山十二坊」といわれる修験道に伴う各施設跡があったと考えられ、各坊跡に石造物が残されている。

ここは「宝泉坊」の近辺であるが、その範囲がどこまで広がっていたかなど明確ではない。

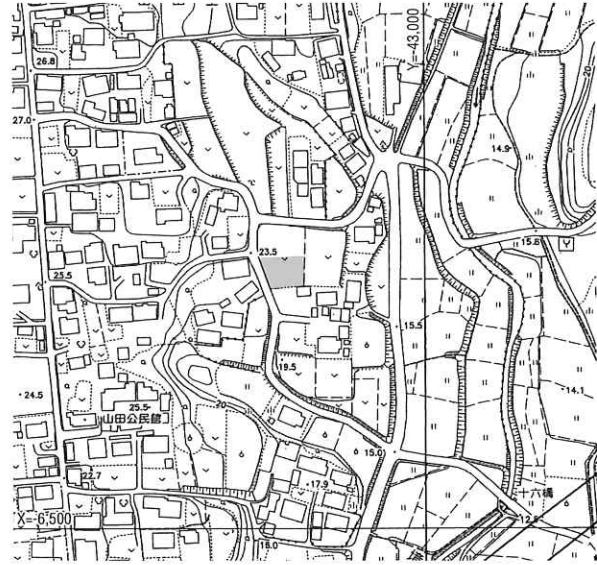
敷地周辺は、東側谷部を下る傾斜地であり、調査地も土地利用の過程で平坦に造成されている。その時期は不明であるが、近世以降に畑として開墾されたものと思われる。

調査依頼が提出されたため、今回、敷地内に計4本のトレンチを設定し確認調査を行った。

その結果、Ⅰ～Ⅳ層を確認したが明確な埋蔵文化財は確認されなかった。

耕作土中に土器小片を少量含む他は、遺物は確認できず、耕作土下位に、小礫を含む無遺物層が検出された。

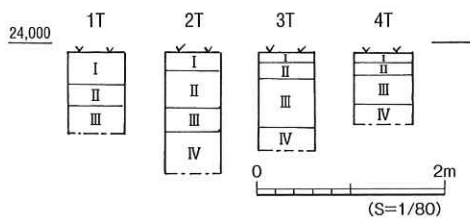
今後の措置は、慎重工事である。



第59図 山田神社門前遺跡位置図 S=1/5,000



第60図 山田神社門前遺跡トレンチ位置図 S=1/1,000



土層注記

- Ⅰ層 ぶい黄褐色土 (10YR6/3) 表土。
- Ⅱ層 暗褐色土 (10YR3/3) しまり強く、粘性なし。2cm大までの小礫を含む。旧耕作土。
- Ⅲ層 暗褐色土 (10YR3/4) しまり強く、粘性なし。3cm大までの小礫を含む。土器小片混入。
- Ⅳ層 褐色土 (10YR4/4) しまり強く、粘性なし。Ⅲ層に近いが、10cm大の礫含む。無遺物層。

第61図 山田神社門前遺跡トレンチ実測図

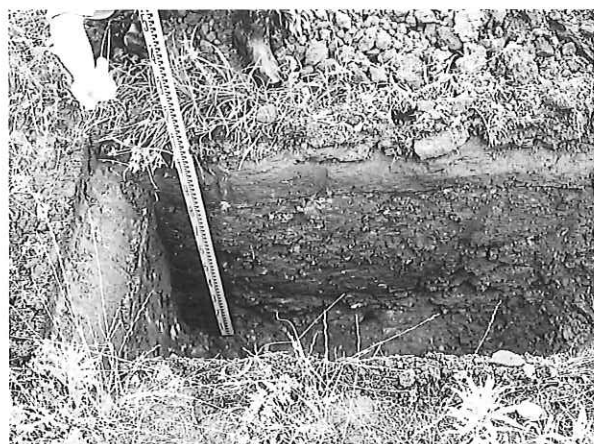


写真40 山田神社門前遺跡土層堆積状況

4 宮原土井の内遺跡 (伊倉城跡・B地点)

所在地：宮原字屋敷752

調査原因：資材置場

対象面積：1,514m²

調査期間：平成23年7月5日～15日

担当者：中村安宏

調査地は、菊池川左岸の伊倉丘陵性台地上に位置する標高約26mの地点である。現況は梅畑であった。

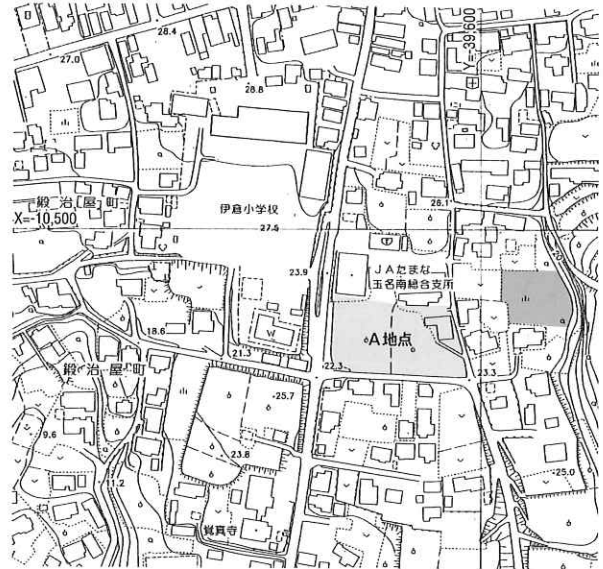
当遺跡一帯は、伊倉氏の居城とされる伊倉城跡の範囲であり、敷地は中心部からすると北東部端にあたる。平成10年度から6次にわたり実施した玉名市立博物館による範囲確認調査等で、多数の柱穴群や堀状遺構などが検出されている。

今回、調査依頼を受けて、8本のトレンチを設定し調査を行った。

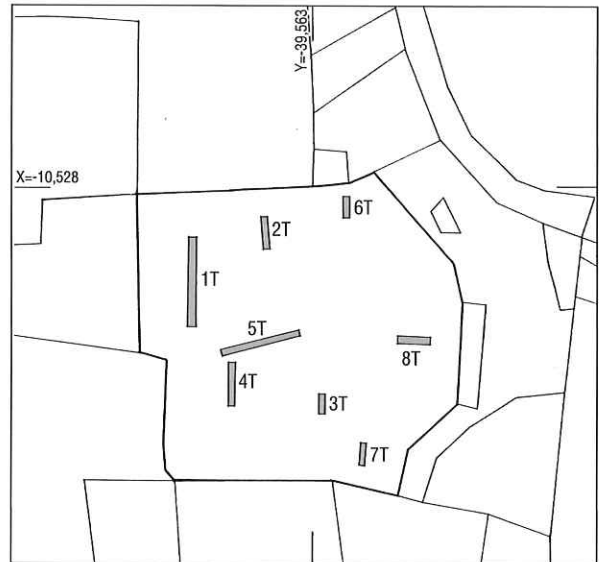
その結果、5トレンチにおいて南北方向に延びる堀状遺構を検出した。伊倉城に伴う遺構と考えられ、東端部の堀跡とすれば城跡の範囲、規模を示すものとなる。

今回の工事内容は、資材置場にするために梅の木を抜根し、更に現地表面から20cmの切土を行うものである。

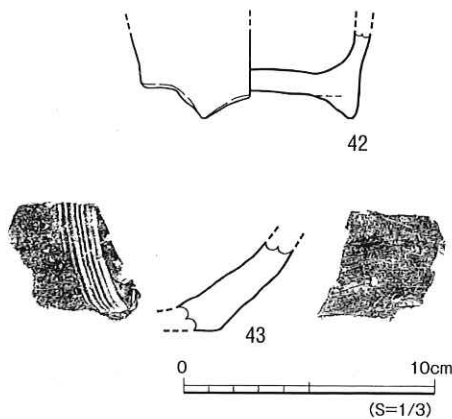
切土の深度は20cmであり、堀状遺構の検出面には達しないが、梅の木が数十本抜根されるため、今後の措置は、工事立会となった。



第62図 宮原土井の内遺跡B地点位置図 S=1/5,000



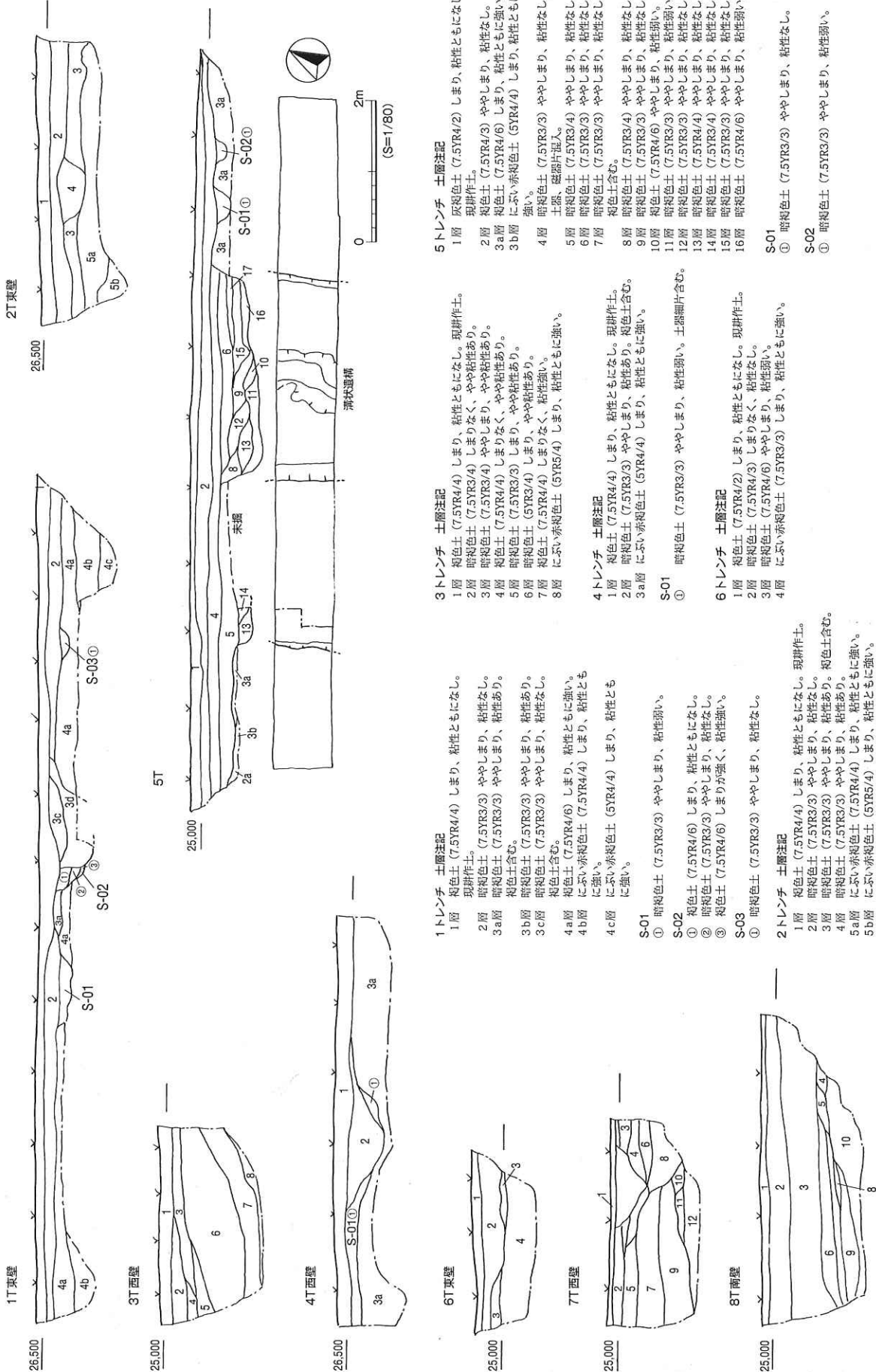
第63図 宮原土井の内遺跡トレンチ位置図 S=1/1,000



第64図 宮原土井の内遺跡出土遺物実測図



写真41 5トレンチ溝状遺構検出状況



5 トレンチ 土層注記
 1層 灰褐色土 (7.5YR4/2) しまり、粘性ともになし。
 2層 現耕作土。
 3a層 褐色土 (7.5YR4/3) ややしまり、粘性なし。
 3b層 褐色土 (7.5YR4/6) しまり、粘性ともに強い。
 4層 土層、磁器片混入。
 5層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ややしまり、粘性なし。
 6層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性なし。
 7層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性なし。
 8層 褐色土を含む。
 9層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ややしまり、粘性なし。
 10層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性弱い。
 11層 暗褐色土 (7.5YR3/6) ややしまり、粘性強い。
 12層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性なし。
 13層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性なし。
 14層 暗褐色土 (7.5YR4/4) ややしまり、粘性なし。
 15層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ややしまり、粘性なし。
 16層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性なし。
 17層 暗褐色土 (7.5YR4/6) ややしまり、粘性強い。
 S-01 ① 暗褐色土 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性なし。
 S-02 ① 暗褐色土 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性弱い。

3 トレンチ 土層注記
 1層 褐色土 (7.5YR4/4) しまり、粘性ともになし。現耕作土。
 2層 暗褐色土 (7.5YR3/4) しまりなく、やや粘性あり。
 3層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ややしまり、やや粘性あり。
 4層 暗褐色土 (7.5YR4/4) しまりなく、やや粘性あり。
 5層 暗褐色土 (7.5YR3/3) しまり、やや粘性あり。
 6層 暗褐色土 (5YR3/4) しまり、やや粘性あり。
 7層 褐色土 (7.5YR4/4) しまりなく、粘性強い。
 8層 にぶい赤褐色土 (5YR5/4) しまり、粘性ともに強い。
4 トレンチ 土層注記
 1層 褐色土 (7.5YR4/4) しまり、粘性ともになし。現耕作土。
 2層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性あり。褐色土を含む。
 3a層 にぶい赤褐色土 (5YR4/4) しまり、粘性ともに強い。
 S-01 ① 暗褐色土 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性弱い。土器碎片含む。
6 トレンチ 土層注記
 1層 褐色土 (7.5YR4/2) しまり、粘性ともになし。現耕作土。
 2層 暗褐色土 (7.5YR4/3) しまりなく、粘性なし。
 3層 暗褐色土 (7.5YR4/6) ややしまり、粘性強い。
 4層 にぶい赤褐色土 (7.5YR3/3) しまり、粘性ともに強い。

1 トレンチ 土層注記
 1層 褐色土 (7.5YR4/4) しまり、粘性ともになし。
 2層 現耕作土。
 3a層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性なし。
 3b層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性あり。
 3c層 褐色土を含む。
 4a層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性あり。
 4b層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性なし。
 4c層 褐色土を含む。
 4d層 暗褐色土 (7.5YR4/6) しまり、粘性ともに強い。
 4e層 にぶい赤褐色土 (7.5YR4/4) しまり、粘性ともに強い。
 4f層 に強い。
 4g層 に強い。
 S-01 ① 暗褐色土 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性弱い。
 S-02 ① 褐色土 (7.5YR4/6) しまり、粘性ともになし。
 ② 暗褐色土 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性なし。
 ③ 褐色土 (7.5YR4/6) しまりが強く、粘性強い。
 S-03 ① 暗褐色土 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性なし。
2 トレンチ 土層注記
 1層 褐色土 (7.5YR4/4) しまり、粘性ともになし。現耕作土。
 2層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性なし。
 3層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性あり。
 4層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性あり。
 5a層 にぶい赤褐色土 (7.5YR4/4) しまり、粘性ともに強い。
 5b層 に強い。

第65図 宮原土井の内遺跡B地点トレンチ実測図

5 木船東遺跡

所在地：岱明町野口字上河原223番

調査原因：通信用鉄塔

対象面積：382㎡

調査期間：平成23年7月12日

担当者：兵谷有利

調査地は、境川の右岸に位置する標高約7mの地点である。

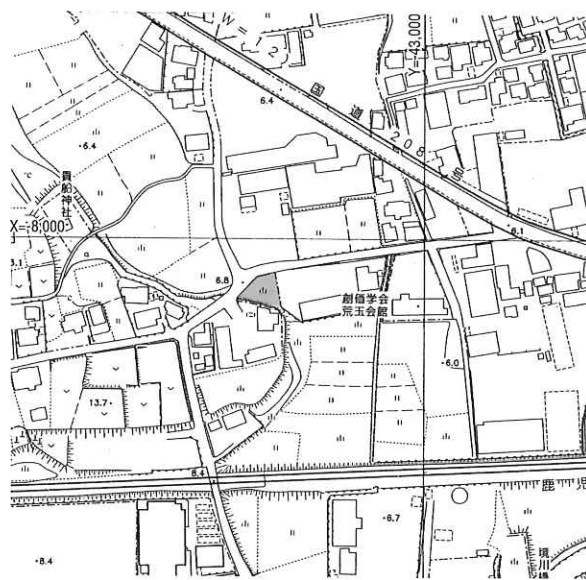
西側の丘陵上には大原遺跡、木船西遺跡があり近年、市道建設に伴う発掘調査が行われ、弥生時代後期から古墳時代前期を中心とする大規模な集落跡であったことがわかってきている。

南側の専大玉名高校付近は、縄文時代中期の尾崎貝塚の範囲となっているが、現在も残存しているかは明確ではない。

当遺跡は、貴船神社一帯に広がっており、中世を中心とした包蔵地とされ、五輪塔なども残存している地点もある。調査地点は、これらの遺跡が存在する丘陵の東側突端部にあたる。

今回、敷地内に2本のトレンチを設定して確認調査を行った。

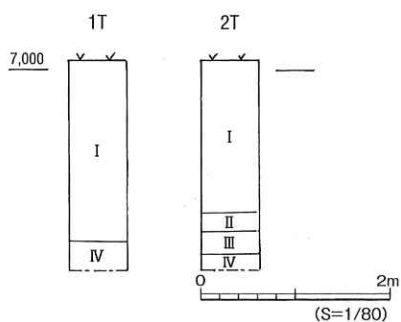
その結果、I～IV層（無遺物層）を確認したが、埋蔵文化財は確認されなかった。よって、今後の措置は慎重工事である。



第66図 木船東遺跡位置図 S=1/5,000



第67図 木船東遺跡トレンチ位置図 S=1/1,000



土層注記

- I層 現代盛土。
- II層 青灰色土 (5B5/1) 弱粘質土層でしまりなし。旧河川の氾濫時堆積層か。
- III層 明黄褐色土 (2.5Y7/6) 粘質土でしまる。水分多い。
- IV層 黒色土 (N2/) 粘質土で砂及び、III層に近い層を粒状に含む。

第68図 木船東遺跡トレンチ実測図

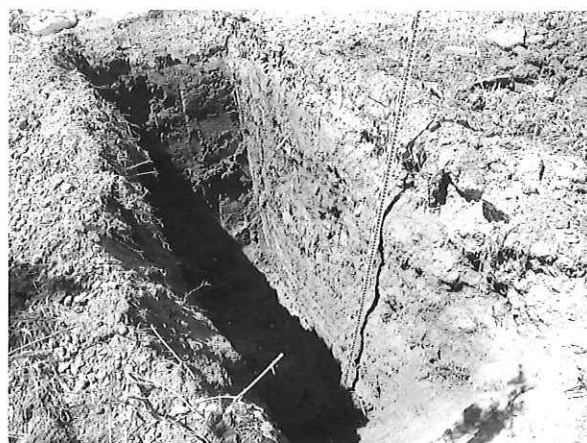


写真42 木船東遺跡2トレンチ土層堆積状況

6 山田松尾平遺跡 (A地点)

所在地：山田字平1539番1

調査原因：調査依頼（不動産売買）

対象面積：1,674㎡

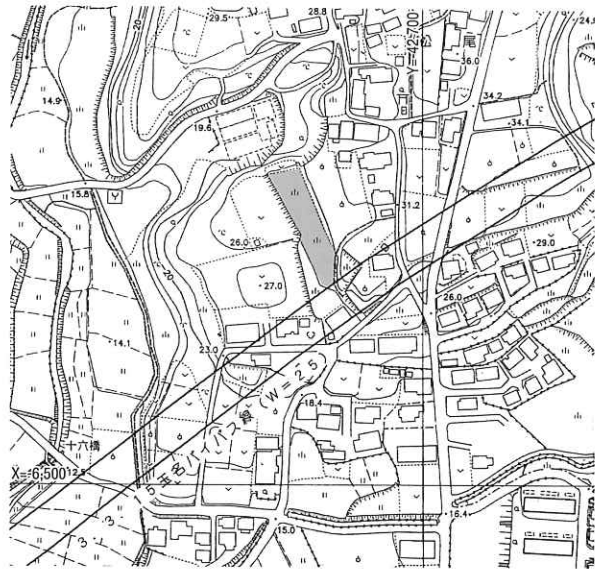
調査期間：平成23年7月27日～28日

担当者：中村安宏

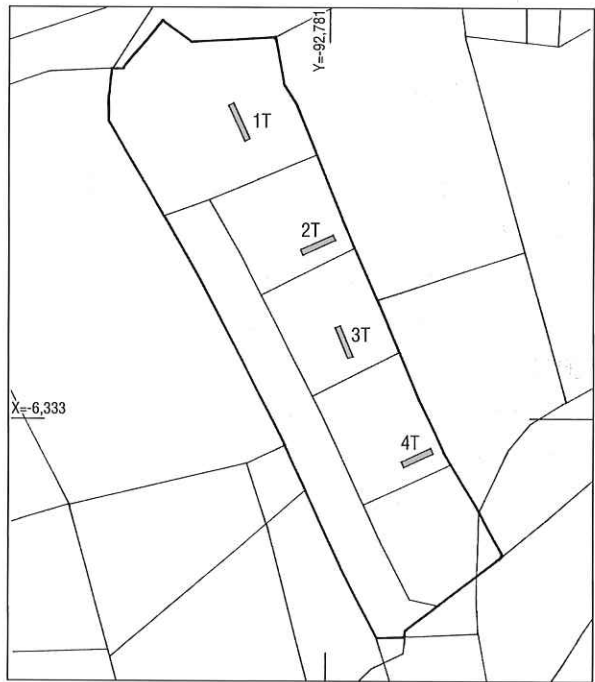
調査地は、小岱山から南へ延びる丘陵上に位置しており、標高約33mの地点である。西側は谷部となっており、境川が流れている。敷地の約200m南西側の低地においては、玉名バイパス建設に伴い県文化課により発掘調査が行われている。

今回、事前に調査依頼が提出されたため確認調査を実施した。4～5区画の分譲地が計画されていたため、各区画に合せて4本のトレンチを設定した。

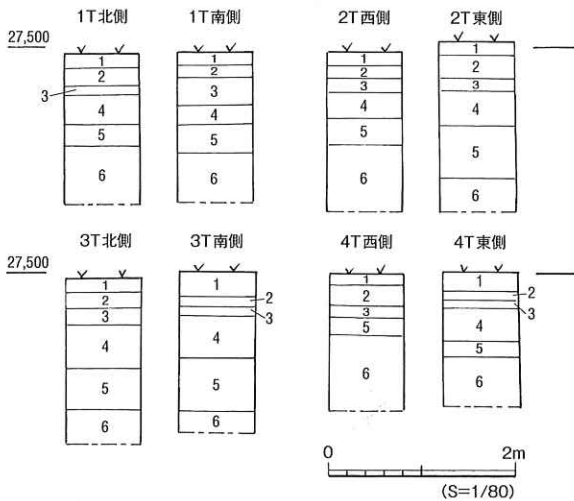
調査の結果、現代の耕作土の下位も砂粒を含む旧耕作土と考えられる層（2～5層）が堆積しており、埋蔵文化財は確認されなかった。



第69図 山田松尾平遺跡A地点位置図 S=1/5,000



第70図 山田松尾平遺跡トレンチ位置図 S=1/1,000



土層注記

- 1層 灰褐色土 (7.5YR5/2) しまり、粘性なし。現耕作土。
- 2層 灰褐色土 (7.5YR4/3) しまり、粘性なし。砂粒含む。
- 3層 褐色土 (7.5YR4/3) しまり強く、粘性なし。旧水田床土。
- 4層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性なし。砂粒含む。
- 5層 黒褐色土 (7.5YR3/2) ややしまり、粘性弱い。砂粒含む。
- 6層 褐色土 (7.5YR4/6) しまり、粘性とも強い。

第71図 山田松尾平遺跡トレンチ実測図



写真43 山田松尾平遺跡調査状況

7 山田松尾平遺跡 (B地点)

所在地：山田字平1570番1
 調査原因：調査依頼（専用住宅）
 対象面積：91.28㎡
 調査期間：平成23年8月30日
 担当者：中村安宏

調査地は、小岱山から南へ延びる丘陵上に位置しており、標高約33mの地点である。

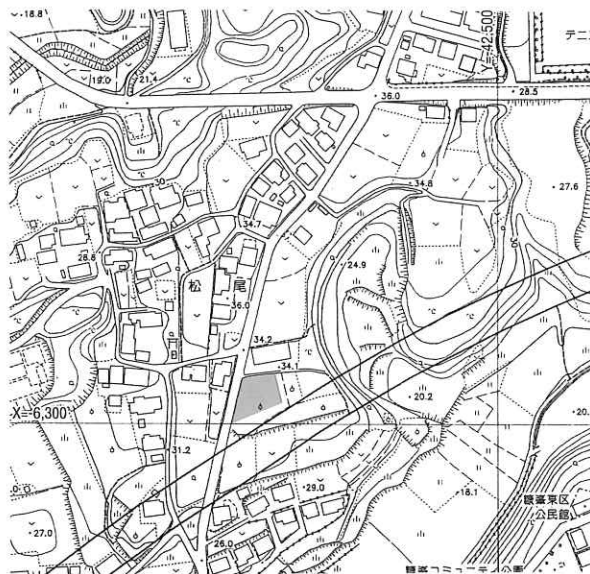
平成20年度に県文化課によって行われた発掘調査では、弥生時代中期～古墳時代前期頃の集落跡が確認され、全体で竪穴住居跡が40軒以上検出されている。また、古代～中世の製鉄炉壁が廃棄された土坑が出土しており、付近に製鉄炉や工房跡があったと考えられている。

今回、調査依頼に伴い、建物予定地に4本のトレンチを設定して確認調査を行った。

その結果、表土及び以前の耕作土以下は、花崗岩が風化した砂が自然堆積しており、埋蔵文化財等は確認できなかった。

玉名バイパス建設に伴う県の発掘調査地は、当地から約300m南西側である。A地点の調査結果からも、北東側まで遺跡の広がりはなかった可能性も考えられる。

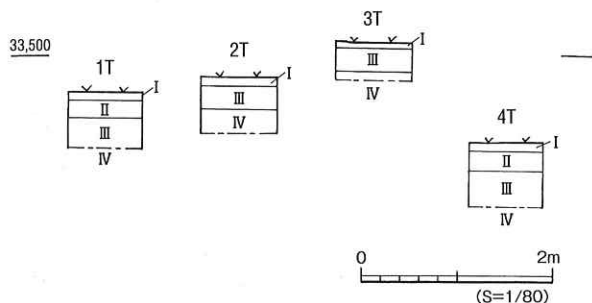
埋蔵文化財は確認されなかったことから、今後の措置は、慎重工事である。



第72図 山田松尾平遺跡B地点位置図 S=1/5,000



第73図 山田神社門前遺跡トレンチ位置図 S=1/1,000



土層注記

- I層 黒褐色土 (7.5YR3/2) しまり、粘性なし。表土。
- II層 暗褐色土 (7.5YR3/4) しまり、粘性なし。
- III層 褐色土 (7.5YR4/4) しまり強く、粘性なし。
- IV層 暗褐色土 (7.5YR4/6) しまり、粘性ともにあり。

第74図 山田松尾平遺跡B地点トレンチ実測図

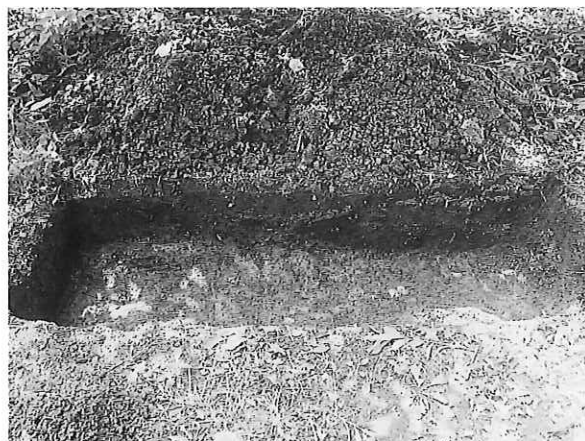


写真44 山田松尾平遺跡B地点1T調査状況

8 店舗建設予定地試掘

所在地：中池尻1061-1他14筆
 調査原因：店舗建設（ヤマダデンキ）
 対象面積：9,440.34㎡
 調査期間：平成23年10月20日
 担当者：田中康雄

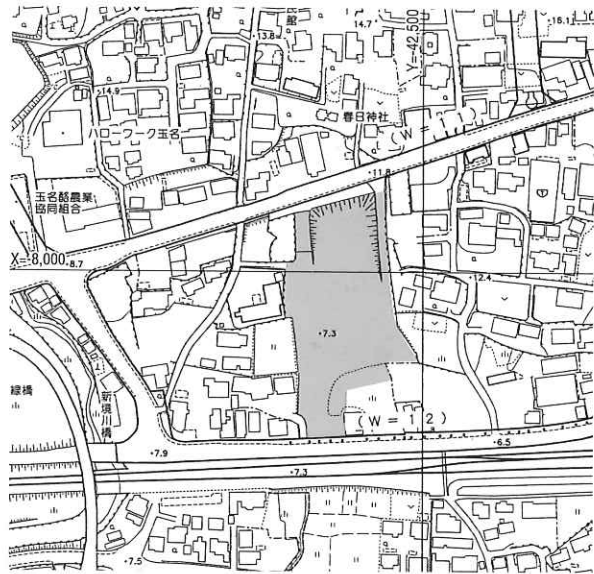
調査地は、境川左岸の低地に位置する標高約7.3 mの地点である。境川の氾濫原に近い立地と考えられ、周辺は以前から湿地帯であった。

敷地内は、周知の埋蔵文化財包蔵地には含まれていなかったが、事業面積が広がったため試掘調査を行った。

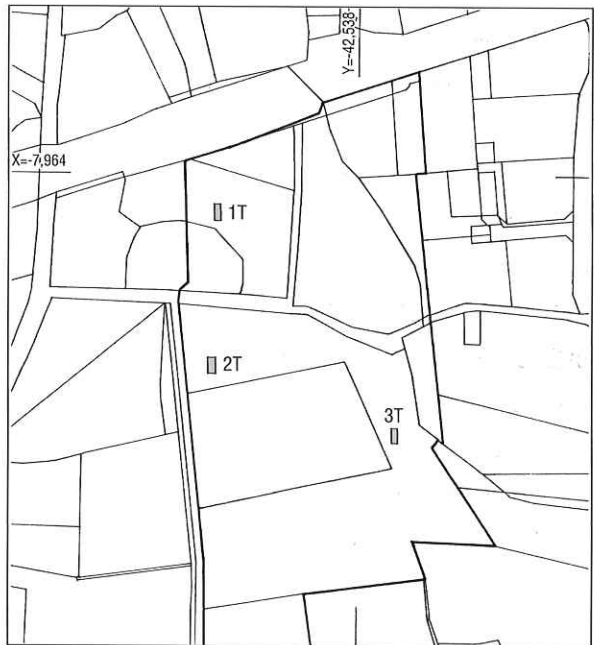
今回、事業用地内に計3ヶ所のトレンチを設定して埋蔵文化財の有無を確認した。

その結果、いずれのトレンチにおいても客土による盛土がなされており、その下層においても埋蔵文化財は確認されなかった。

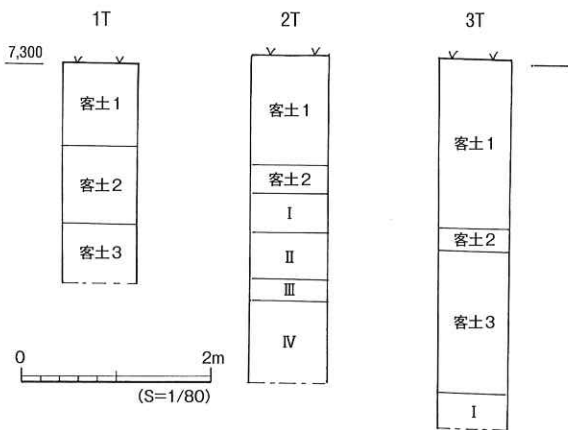
今後の措置は、慎重工事である。



第75図 店舗建設予定地調査位置図 S=1/5,000



第76図 店舗建設予定地トレンチ位置図 S=1/2,000



- 1T土層**
 客土1 褐色土（10YR4/4）礫混入。造成時の盛土。
 客土2 褐色土（10YR4/4）礫多く混入。Iよりもしまり強い。造成時の盛土。
 客土3 灰色土（5Y4/1）礫混入。しまり強い。造成時の盛土。
- 2T土層**
 客土1 山砂
 客土2 山砂
 I層 褐色土（10YR4/4）しまり、粘性ともにあり。
 II層 黒褐色土（10YR3/1）しまりあり、粘性強い。
 III層 褐色土（10YR4/4）しまり、粘性ともにあり。I層に類似。
 IV層 黒褐色土（10YR3/1）しまりあり、粘性強い。II層に類似。
- 3T土層**
 客土1 山砂
 客土2 山砂
 客土3 緑黒色土（10GY2/1）とオリーブ色土（5Y5/6）の混合土。10cm大の礫を少量含む。
 I層 黄褐色土（10YR5/8）しまりあり、粘性強い。

第77図 店舗建設予定地トレンチ実測図



写真45 店舗建設予定地調査前状況

9 糠峯遺跡

所在地：山田字糠峯 1913-4

調査原因：保育所

対象面積：608.8㎡

調査期間：平成23年11月4日

担当者：田中康雄

調査地は、小岱山から南へ広がる丘陵斜面部の標高約30mの地点である。現況は客土により造成されているが、旧状は畑地であった。

当遺跡は、弥生時代から中世までの包蔵地として知られているが、昭和50年代に団地として造成が行われ、大部分消滅したものと考えられる。

その造成時に、古墳もあったとされ、現在は石棺と思われる一部が団地の端へ移転されている。

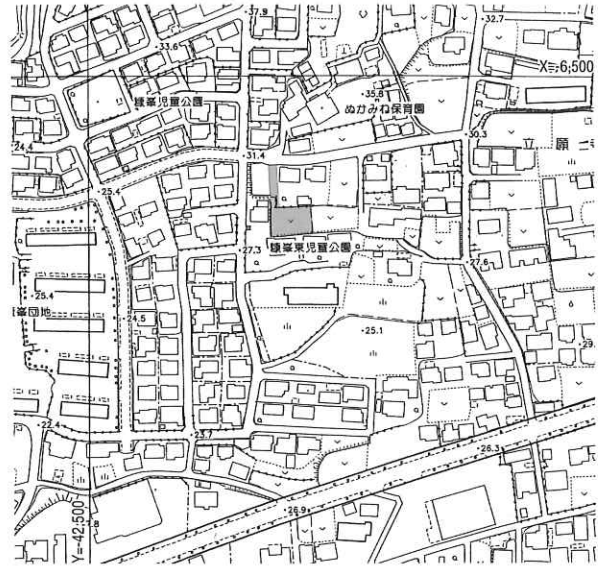
また、平成13年度における近辺の発掘調査では、甕棺墓が2基と溝状遺構、旧石器時代の尖頭器が1点出土している。

今回の工事は、基礎、地中梁とも掘削深度が深く、基礎部に9mを超える地盤改良杭が設置されることから事前に確認調査を行った。

調査では、基礎の一部に3ヶ所のトレンチを設定した。

各トレンチとも、80cm～1mの客土（山砂）、旧耕作土以下に無遺物層に相当するⅠ層、及び遺構面に相当する層（Ⅲ層）を確認したが、遺構、遺物とも確認できなかった。おそらく丘陵斜面部という立地にもよると考えられる。

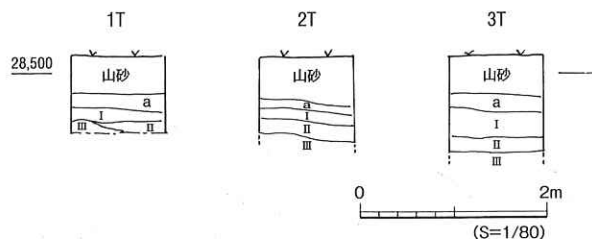
今後の措置は、慎重工事である。



第78図 糠峯遺跡位置図 S=1/5,000



第79図 糠峯遺跡トレンチ位置図 S=1/1,000



土層注記

- Ⅰ層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性あり。遺物包含層に相当と考えられるが、遺物無し。
- Ⅱ層 褐色土 (7.5YR4/3) しまりあり、粘性強い。Ⅲ層よりも色調暗い。Ⅰ、Ⅲ層の漸移層か。
- Ⅲ層 褐色土 (7.5YR4/3) しまり、粘性ともにあり遺構検出面に相当と考えられるが、遺構なし。

第80図 糠峯遺跡トレンチ実測図



写真46 糠峯遺跡調査地状況

10 松尾遺跡 (B地点)

所在地：立願寺字松尾1392-1

調査原因：事務所

対象面積：372.93㎡

調査期間：平成23年12月6日

担当者：田中康雄

調査地は、小岱山から南に延びる低丘陵上の標高約39mの地点に位置しており、調査前の状況は畑であった。前掲のとおり、平成22年度に南側隣接地で確認調査を行っており、遺構・遺物が確認されている(16頁参照)。

今回の工事は、事務所の建設であり地盤改良杭(8m)及び地中梁(1m)が設置されることから基礎設置部で掘削可能な2ヶ所にトレンチを設定した。

1トレンチでは、遺物包含層(IV層)の一部で遺物(古代の土師器・須恵器)が集中する部分が確認されたが、遺構は確認されなかった。この遺物集中部以外は小片がわずかに含まれるのみであった。

2トレンチでは、遺構が3基検出され、それぞれS-01～03とした。また、1トレンチと同様に小片がわずかに含まれる包含層を確認した。

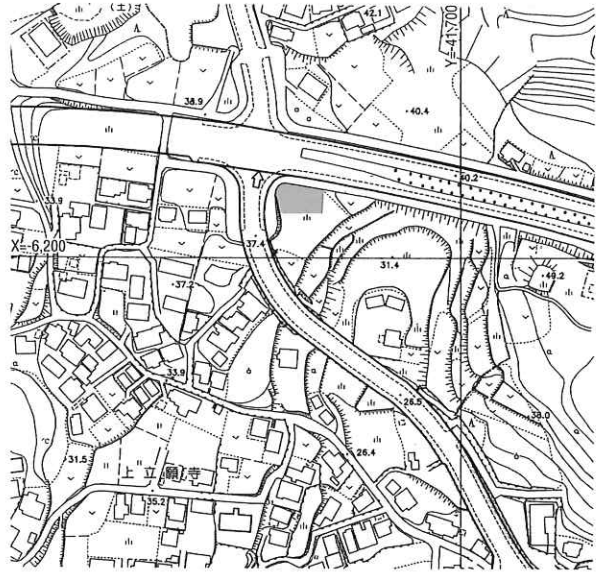
今回の調査で確認した遺構については、時期等を明確にするため完掘を行っている。

1トレンチの包含層(IV層)から出土した遺物は、44が土師器の坏、45が須恵器の坏である。46は大型の甕である。48は鬼面文軒丸瓦で立願寺廃寺でも同類型が出土している。

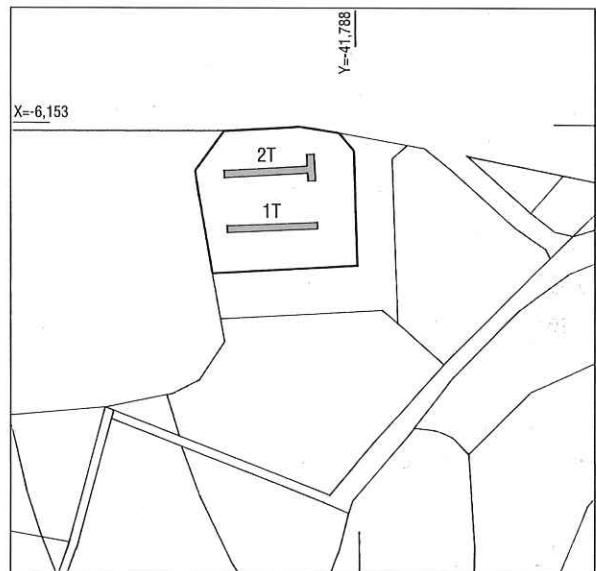
これらの遺物は南側のA地点及び西側に隣接する県調査区(立願寺大塚遺跡Ⅲ区)と同様に、玉名郡衙との関連が想定される。

今後の措置については、工事により掘削される部分の遺構は、完掘して調査が完了していることから慎重工事となった。

参考文献：熊本県教育委員会 2003『立願寺大塚遺跡』
熊本県文化財調査報告第210集



第81図 松尾遺跡B地点位置図 S=1/5,000

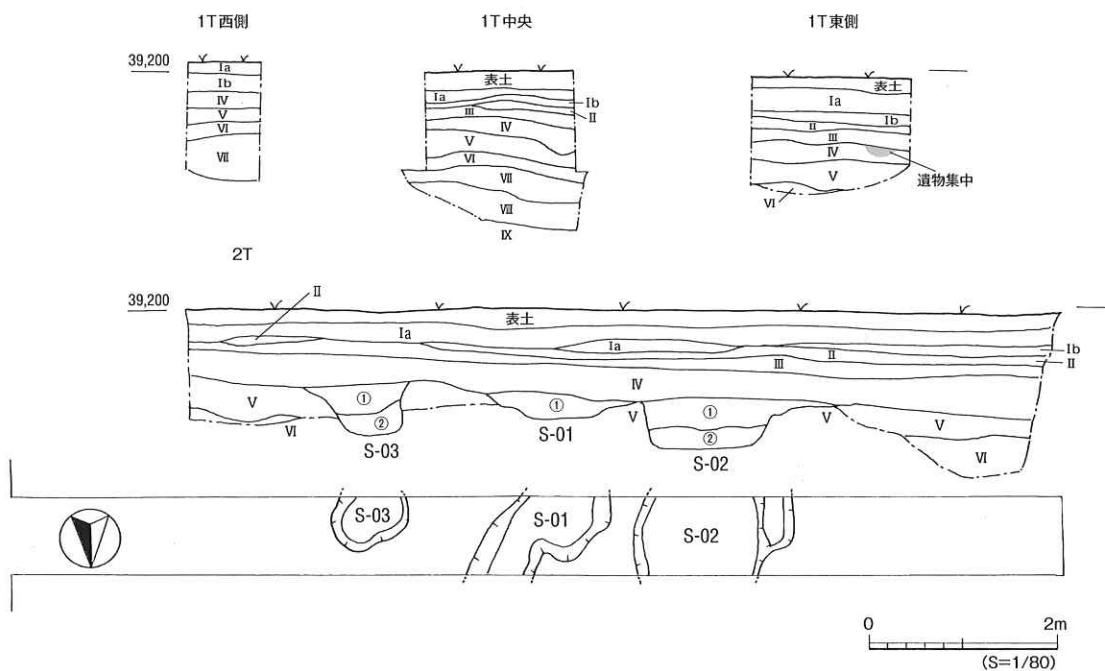


第82図 松尾遺跡B地点トレンチ位置図 S=1/1,000



写真47 松尾遺跡B地点調査地遠景

III 平成23年度の調査



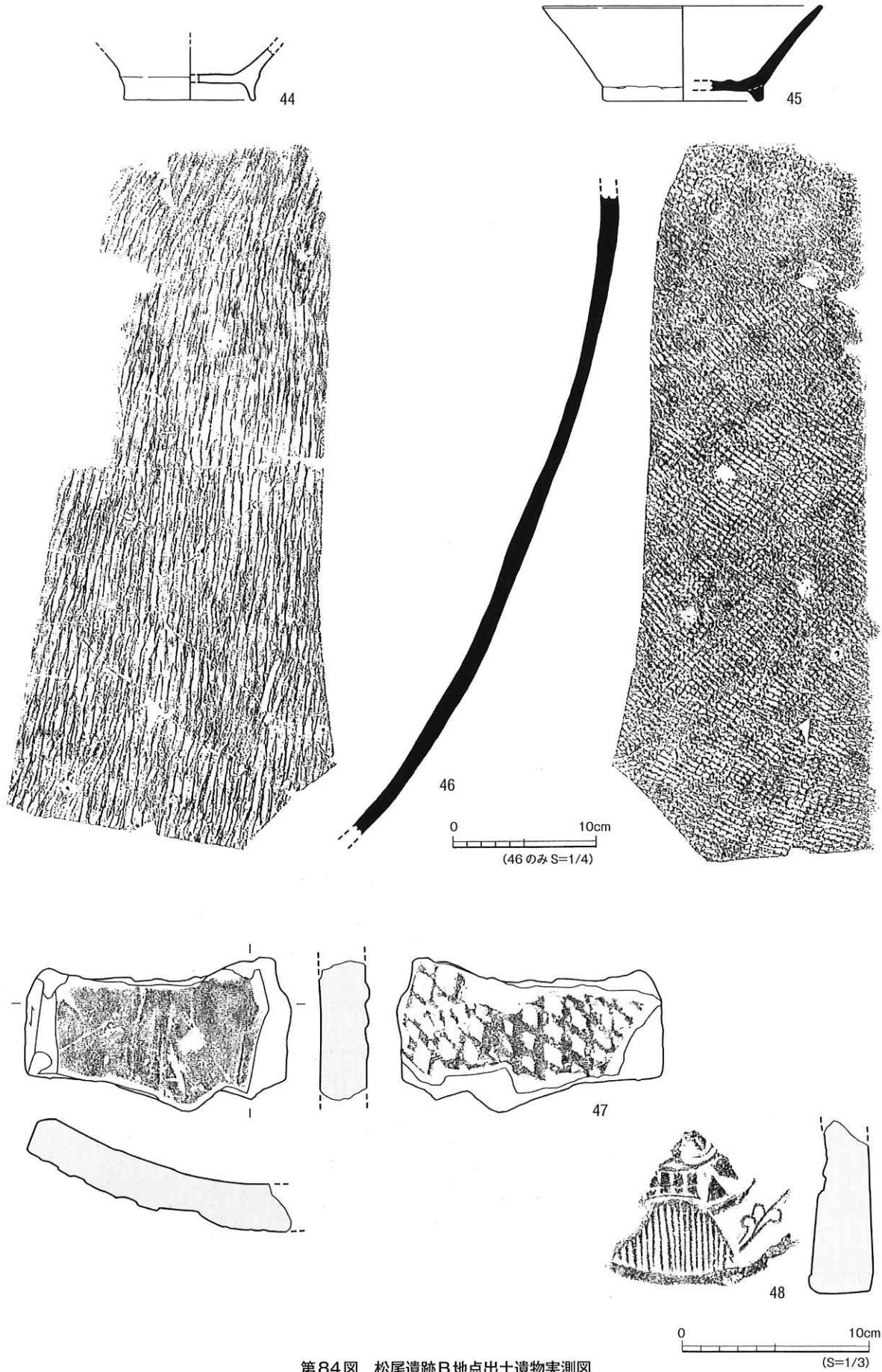
土層注記

- Ia層 黒褐色土 (7.5YR3/2) 旧表土・旧耕作土。
 - Ib層 黒褐色土 (7.5YR3/2) 旧耕作土か。
 - II層 黒褐色土 (7.5YR3/2) ややしまり、粘性弱い。褐色粒、炭化物を含む。
 - III層 黒褐色土 (7.5YR3/1) ややしまりがあり、粘性弱い。褐色粒、炭化物を含む。遺物小片をわずかに含む。
 - IV層 黒褐色土 (7.5YR3/2) ややしまり、粘性あり。炭化物、遺物小片を少量含む。トレンチ西端部で遺物(主に須恵器)の集中部分あり。
 - V層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性あり。遺構検出面に相当するが、大半は根穴等による攪乱を受けている。
 - VI層 黒褐色土 (7.5YR2/2) ややしまり、粘性あり。無遺物層。
 - VII層 黒褐色土 (7.5YR2/2) ややしまり、粘性あり。IVよりやや暗い。無遺物層。
 - VIII層 黒褐色土 (10YR2/2) しまり弱い、粘性強い。無遺物層。
 - IX層 暗褐色土 (7.5YR3/4) しまり、粘性ともにあり。地山と思われる層。
- S-01土層
 - ①層 黒褐色土 (7.5YR3/2) ややしまり、粘性あり。黒褐色土を粒状に含む。
 - S-01土層
 - ①層 黒褐色土 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性あり。褐色土をブロック状に含む。
 - ②層 黒褐色土 (7.5YR3/2) しまりなく、粘性あり。黒褐色土を粒状に含む。S-01の①層に酷似する。
 - S-01土層
 - ①層 黒褐色土 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性強い。黒褐色土を粒状に含む。
 - ②層 暗褐色土 (7.5YR3/3) しまり弱い、粘性あり。黒褐色土をブロック状に含む。

第83図 松尾遺跡B地点トレンチ実測図



写真48 松尾遺跡B地点出土遺物



第84図 松尾遺跡B地点出土遺物実測図

11 市道岱明玉名線建設予定地

所在地：岱明町野口3-1他

調査原因：市道建設

対象面積：925.41㎡

調査期間：平成24年1月12日

担当者：田中康雄

調査地は、友田川左岸の丘陵上に位置する標高約14mの地点である。JR鹿児島本線南側沿いで以前は建物があったが、解体後に試掘調査を実施した。

この南側には塚原遺跡が広がっており、同じく市道建設に伴って発掘調査を行っている。

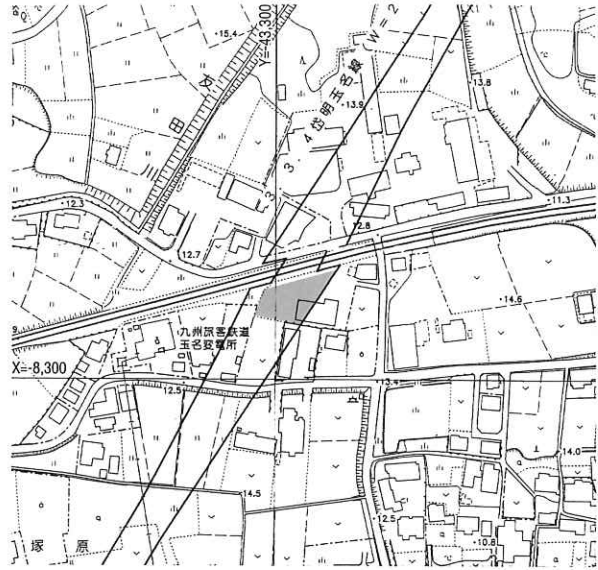
その結果、弥生時代中期から古墳時代前期にかけての集落跡が確認され、県内最大級の大型円形竪穴建物跡、環濠の一部と考えられる溝、甕棺墓、石棺系石室をもつ古墳などが出土している。

敷地の南側は、平成21年度に確認調査を行っており、今回設定したトレンチに最も近い18・19トレンチでは、弥生時代中期と考えられる遺構が数基確認されたことから、その後に発掘調査を実施している。

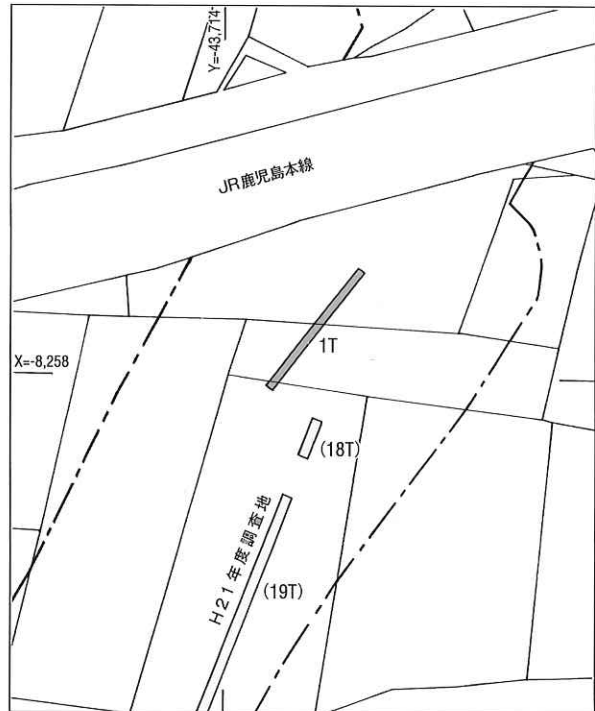
この南側隣接地とは、現状で約50cmの比高差がある。一段低くなっているものの、IV・V層は南側から同じく堆積しており、V層及びVII層上面において幅が約20～80cmの溝状遺構を2条確認した。

V層は黒褐色土を呈しているが、VII層は灰黄褐色土の強い粘性土であり地山（無遺物層）と考えられる。

遺構が検出され、一帯も南側と同じく遺跡が残存している可能性があることから、その後の措置は発掘調査となった。



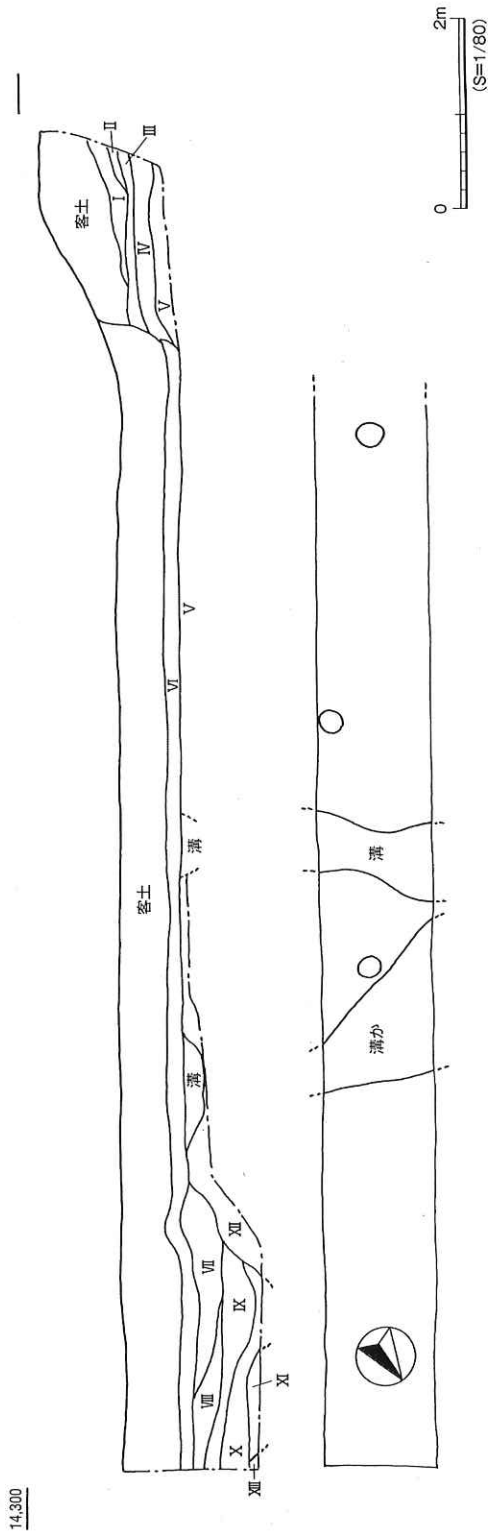
第85図 市道岱明玉名線建設予定地調査位置図 S=1/5,000



第86図 市道岱明玉名線建設予定地トレンチ位置図 S=1/1,000



写真49 市道岱明玉名線建設予定地状況



14,300

- 土層注記
- I 黒褐色土 (7.5YR3/2) かくくしまり、粘性を有しない。混入物多い。
 - II 黒褐色土 (10YR3/2) かくくしまり、粘性を有しない。混入物多い。
 - III 黒褐色土 (7.5YR3/2) しまりがあり、わずかに粘性を有する。混入物多い。
 - IV 黒褐色土 (5YR3/1) しまりがあり、わずかに粘性を有する。土層小片をわずかに含む。
 - V 黒褐色土 (10YR3/2) しまりがあり、わずかに粘性を有する。運納検出面と思われる。
 - VI 黒褐色土 (10YR3/1) 多少しまりがあり、わずかに粘性を有する。旧耕作土か。
 - VII 黒褐色土 (10YR3/1) ややしまりがあり、多少粘性を有する。白色砂粒、褐色粒を含む。近世末と思われる磁器片を含む。
 - VIII 黒褐色土 (10YR3/1) ややしまり、粘性を有する。白色砂粒、褐色粒を含む。Ⅶよりやや暗い。
 - IX 黒褐色土 (10YR3/2) あまりしまりがなく、強い粘性を有する。
 - X 黒褐色土 (10YR3/2) しまりがあり、多少粘性を有する。細砂粒を多く含む。
 - XI にぶい黄褐色土 (10YR4/3) しまりがあり、粘性を有する。粒子が細かい。地山と思われる。
 - XII 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりがあり、強い粘性を有する。粒子が細かい。地山と思われる。
 - XIII にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ややしまり、粘性を有する。粒子が細かい。地山と思われる。

第87図 市道岱明玉名線建設予定地トレンチ実測図

12 伊倉宮の後遺跡（2次調査）

所在地：伊倉北方字宮ノ後2625番、2636番
外2筆

調査原因：体育館建設

対象面積：22,060.00㎡

調査期間：平成24年1月25日～3月30日

担当者：田中康雄

調査地は、菊池川左岸の伊倉丘陵性台地上に位置しており、標高36mの地点である。学校用地内では以前は校舎が建っていたらしいが、駐車場として利用されていた。

調査は、基礎及び地中梁設置部の内、掘削可能な部分にトレンチを設定して実施した。遺物の出土状況に応じてV層若しくはVI層上面までを重機、それ以下を人力により掘削した。

結果、遺構・遺物ともに調査地の南東側を中心に確認された。層中からは、主に古代から中世にかけての遺物が出土したが、縄文及び弥生時代の遺物も多少混入している状況であった。V・VI層とも、耕作等の影響を受けていると考えられる。

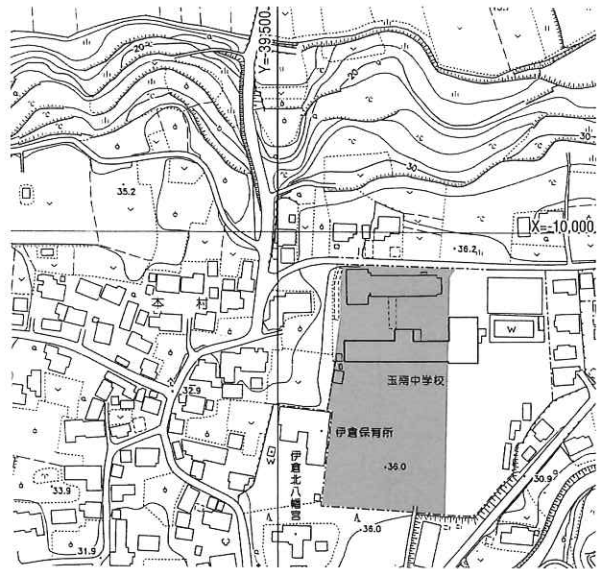
遺構については、大半をVII層上面で検出したが、一部VI層上面からの遺構も確認している。遺物の内容から、V層上面が中世期、VII層上面が古代末から中世初頭及びそれ以前と考えられる。遺構の内容は、大半がピットであるが、植物根等による攪乱が激しく、遺構との判別が困難であったため、すべて掘削を行って確認した。主な遺構としては、溝（S-01・S-02）や土坑、縄文期の埋設土器（下半部のみ）がある。特に、S-02については、幅約4m、検出面からの深度約1.2mで、調査地のほぼ中央部を南北に横断する大型の溝であるが、その性格は明確でない。

遺構の大半は、耕作等の影響により上部を削平されていると思われる。調査地の中央から西側は地形が落ち込んでいる状況で、遺構・遺物ともほぼ所在しない状況であり、また調査地の北側は、旧建物に伴う攪乱を受けており、遺構はほぼ消失していた。

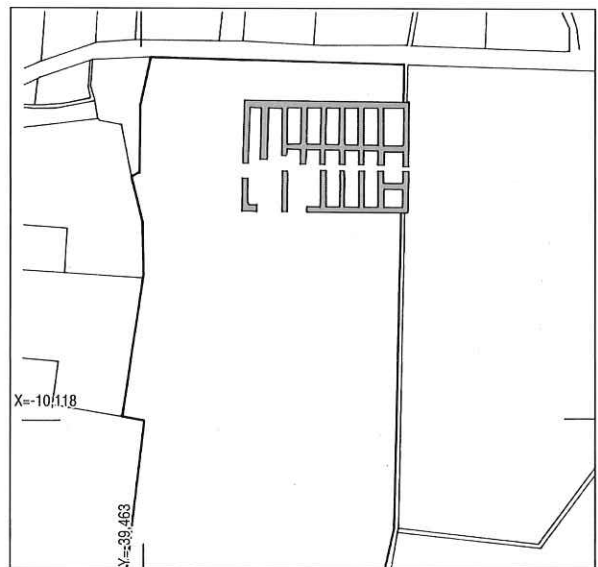
遺物としては、縄文時代と考えられる石器が多く、掲載分以外でも特に磨石の割合が多い。縄文時代の集落が周辺に広がっていた可能性がある。

調査の結果、調査範囲の約1/3程度で複数期にわたる遺構・遺物が確認されたが、確認した遺構の大

半は調査を完了している。しかし、地下埋設物により一部未調査部が残存しているため、今後の措置は工事立会となった。



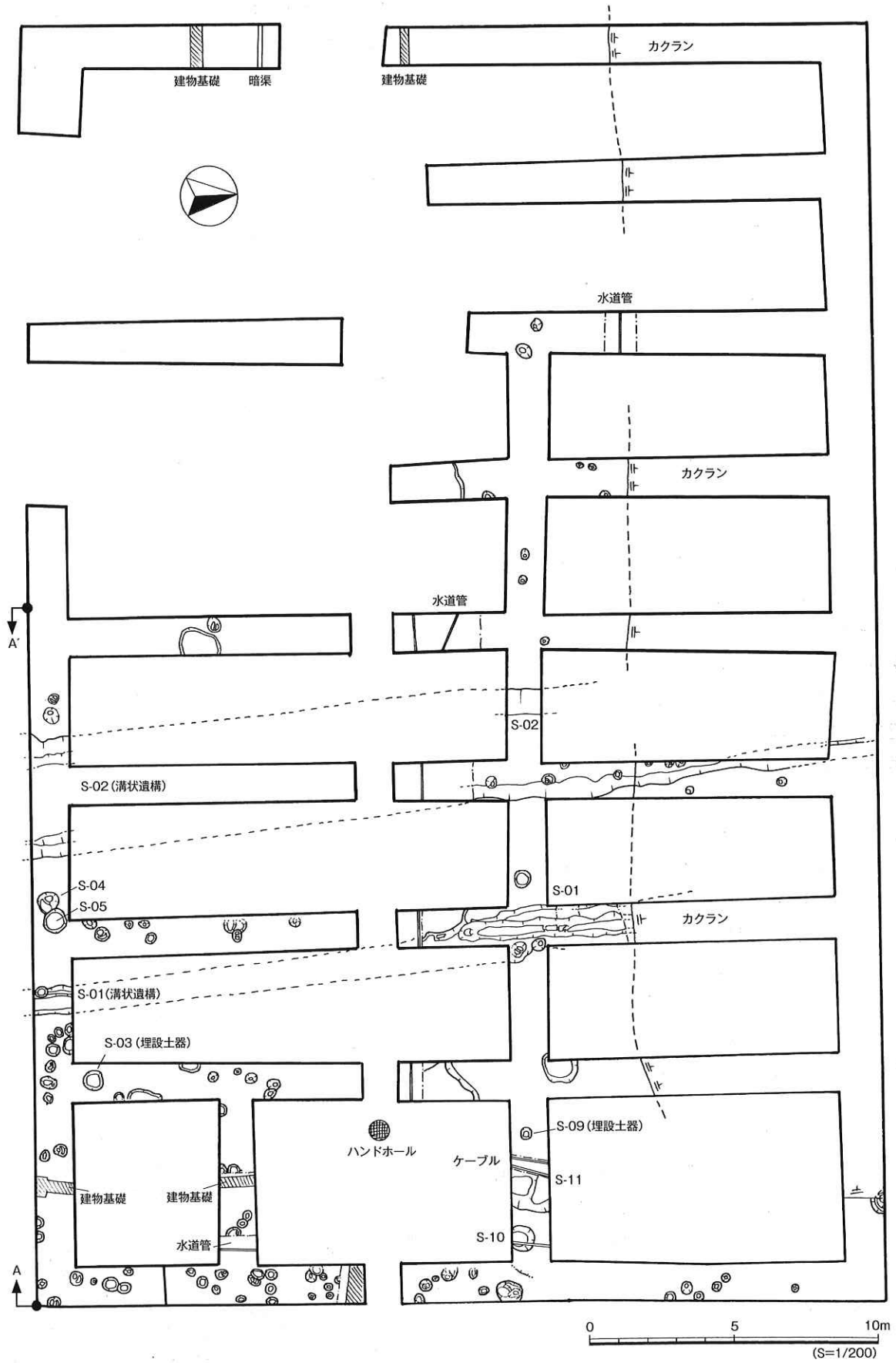
第88図 伊倉宮の後遺跡位置図 S=1/5,000



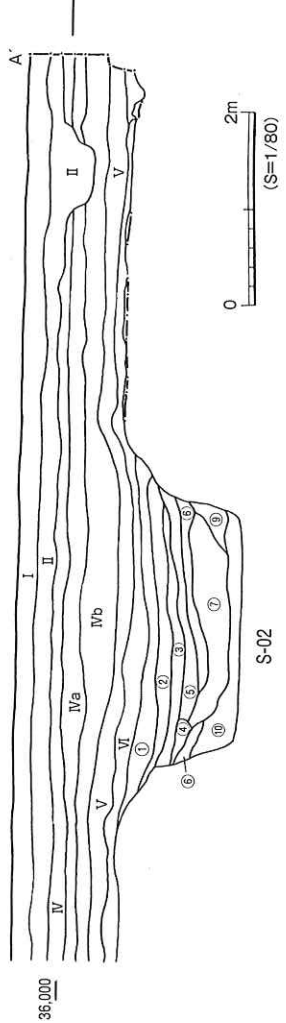
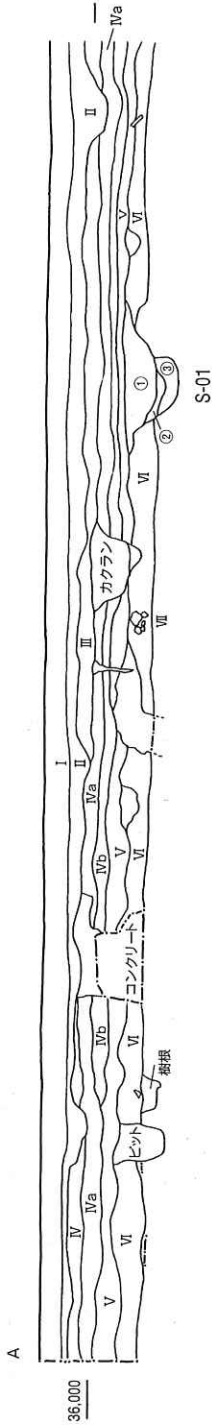
第89図 伊倉宮の後遺跡トレンチ位置図 S=1/2,000



写真50 伊倉宮の後遺跡調査状況



第90図 伊倉宮の後遺跡遺構配置図



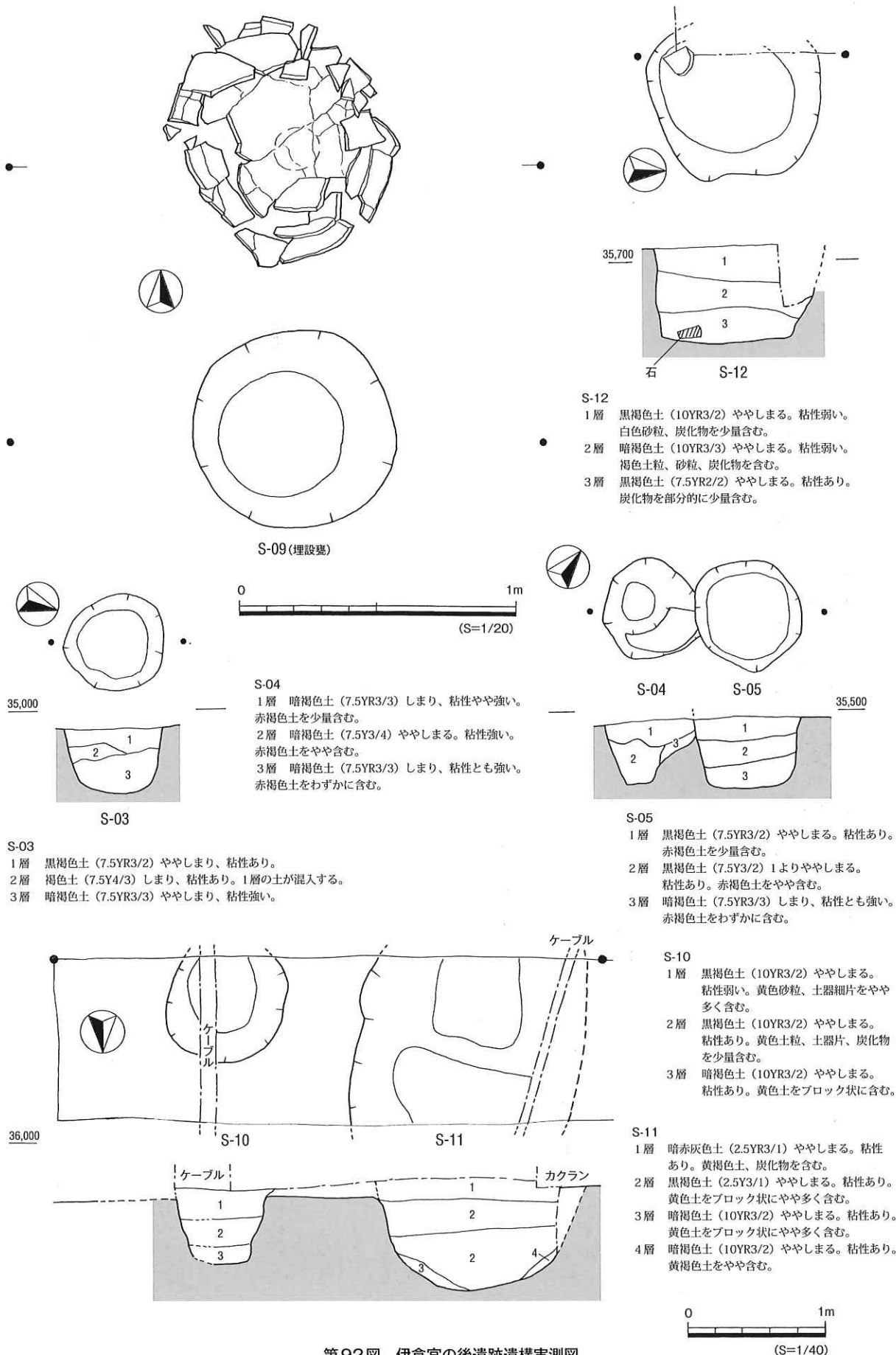
第91図 伊倉宮の後遺跡トレンチ実測図 (A-A')

- S-01 土層注記**
- ① 黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりが有り、わずかに粘性を有する。白色砂粒、土器細片を含む。
 - ② 黒褐色土 (10YR3/2) しまりが有り、多少粘性を有する。VII層土を粒状に含む。
 - ③ 黒褐色土 (10YR2/3) ややしまりがあり、粘性を有する。白色砂粒をわずかに含む、土器細片を含む。VII層土を粒状に含む。

- S-02 土層注記**
- ① 黒褐色土 (10YR3/2) ややしまりがあり、粘性を有する。VII層土を粒状に多く含む。
 - ② 黒褐色土 (5YR3/1) ややしまりがあり、粘性を有する。VII層土を粒状に多く含む。
 - ③ 暗褐色土 (10YR3/3) ややしまりがあり、粘性を有する。VII層土を粒状に多く含む。
 - ④ 黒褐色土 (7.5YR3/2) ややしまりがあり、強い粘性を有する。VII層土を粒状に多く含む。
 - ⑤ 黒褐色土 (7.5YR3/2) しまりが有り、粘性を有する。VII層土を粒状に含む。
 - ⑥ 黒褐色土 (7.5YR3/2) 多少しまりが有り、粘性を有する。VII層土を粒状に含む。
 - ⑦ 黒褐色土 (7.5YR3/2) 多少しまりが有り、強い粘性を有する。VII層土を粒状に含む。
 - ⑧ 暗褐色土 (7.5YR3/3) 多少しまりが有り、強い粘性を有する。VII層土を粒状に含む。
 - ⑨ 暗褐色土 (7.5YR3/3) あまりしまりがなく、強い粘性を有する。粒子がやや荒い。VII層土を粒状に含む。
 - ⑩ 暗赤褐色土 (5YR3/2) あまりしまりがなく、強い粘性を有する。粒子がやや荒い。VII層土を粒状に含む。

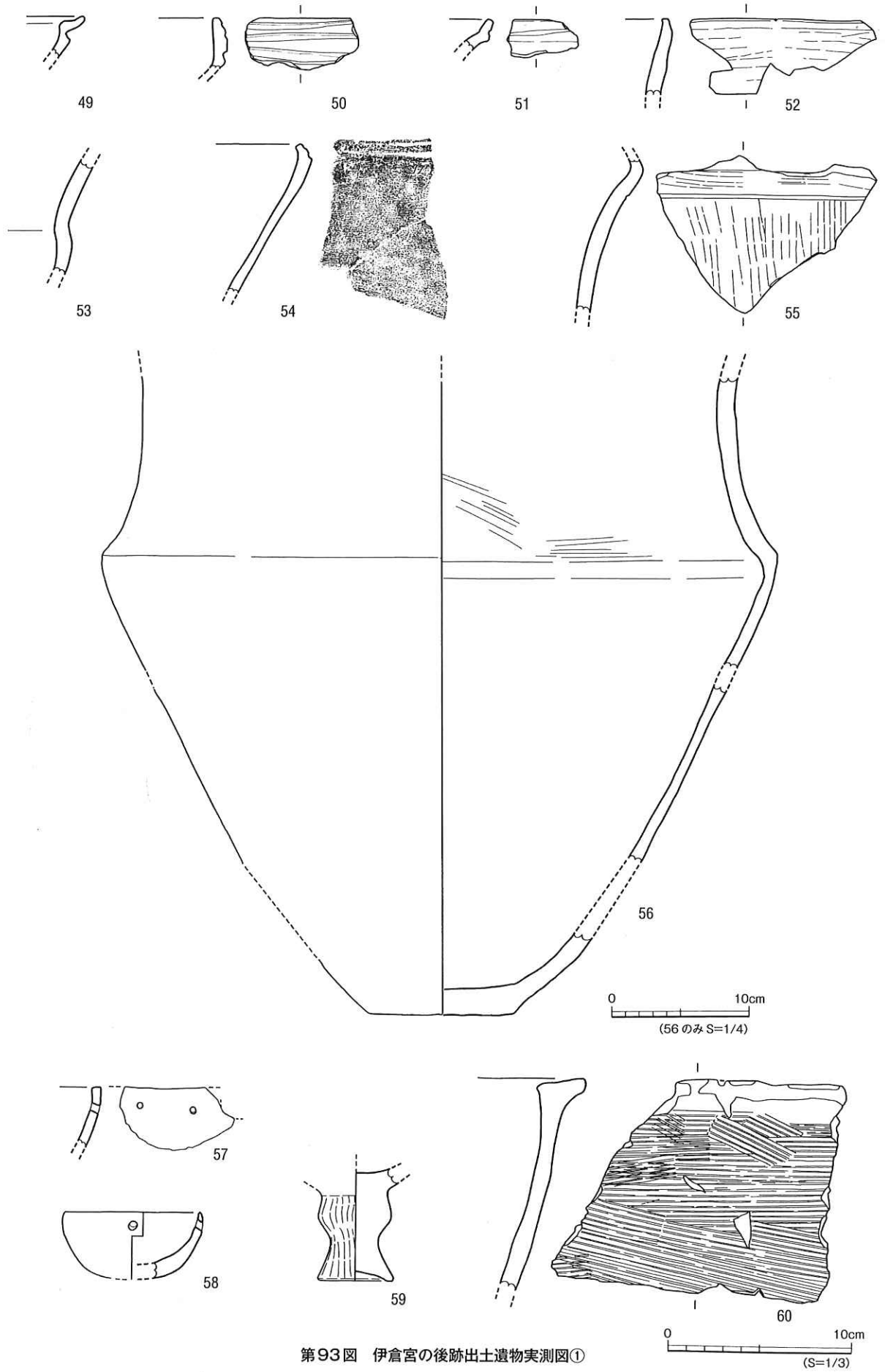
土層注記

I アスファルト・碎石・山砂
 II 旧建物に伴う雑乱及び客土
 III 黒褐色土 (7.5YR3/2) しまりが有り、粘性を有しない。粒子が細かく、土器と思われる小細片 (ほぼ粒状) を含む。旧耕作土と思われる。
 IVa 黒褐色土 (10YR3/2) しまりが有り、わずかに粘性を有する。粒子が細かく、土器と思われる小細片 (ほぼ粒状) 及び白色砂粒を含む。旧耕作土と思われる。
 IVb 黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりが有り、わずかに粘性を有する。粒子が細かく、土器と思われる小細片 (ほぼ粒状) 及び白色砂粒を含む。旧耕作土と思われる。
 V 黒褐色土 (10YR3/2) しまりが有り、多少粘性を有する。粒子が細かく白色砂粒を含む古代から近世の遺物を多少含む。近世もしくはそれ以降の旧耕作土と思われる。
 VI 黒褐色土 (10YR3/2) ややしまりがあり、粘性を有する。古代及び中世の遺物 (主に小片) を含む。粒子が細かく白色砂粒をわずかに含む。中世期の旧耕作土と思われる。上面で中世期の遺物がわずかに検出される。
 VII 深い赤褐色土 (5YR4/3) しまりが有り、強い粘性を有する。地山面で、古代及びそれ以前の遺物検出面である。樹根等によりかなり攪乱を受けている。



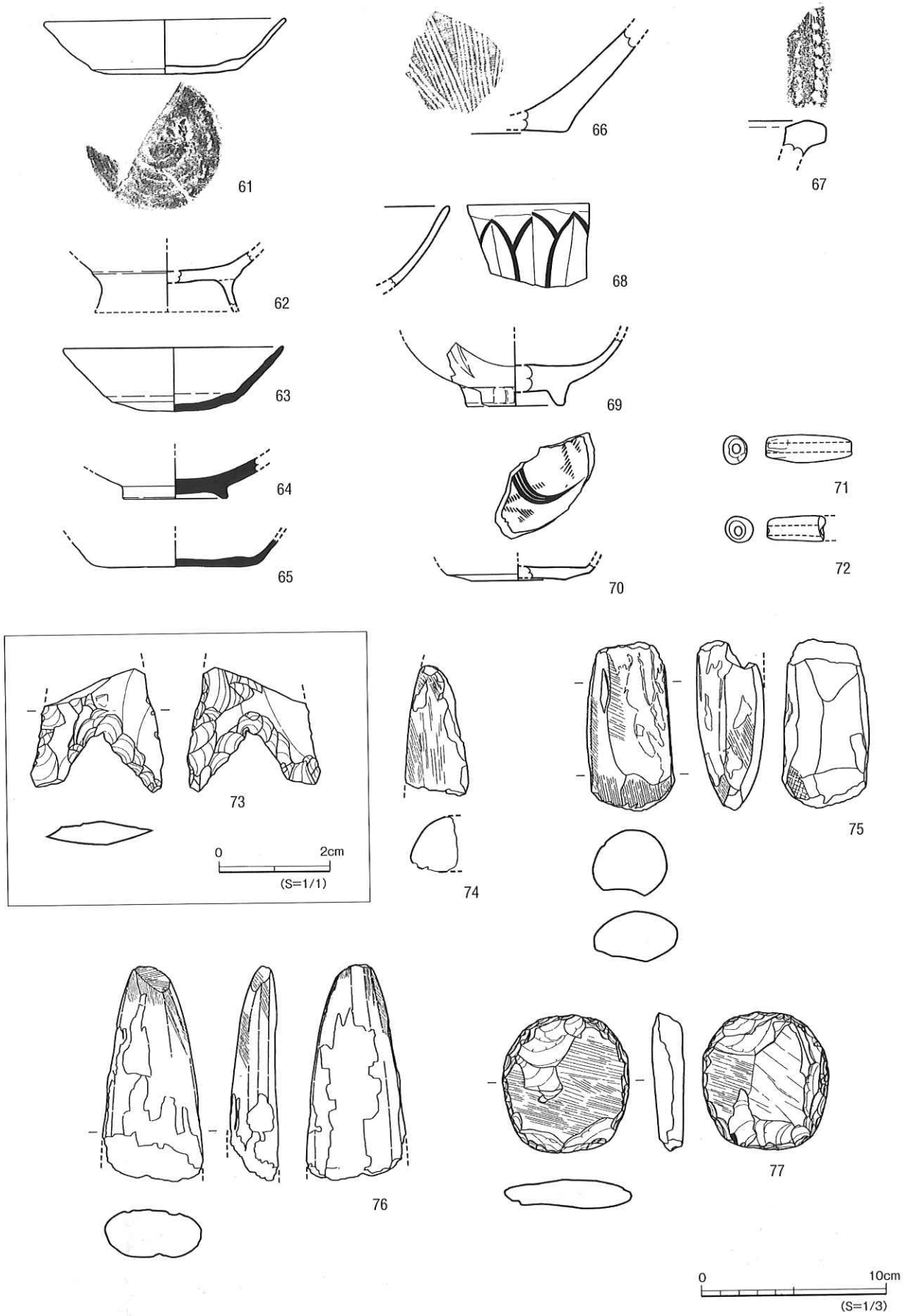
第92図 伊倉宮の後遺跡遺構実測図

III 平成23年度の調査



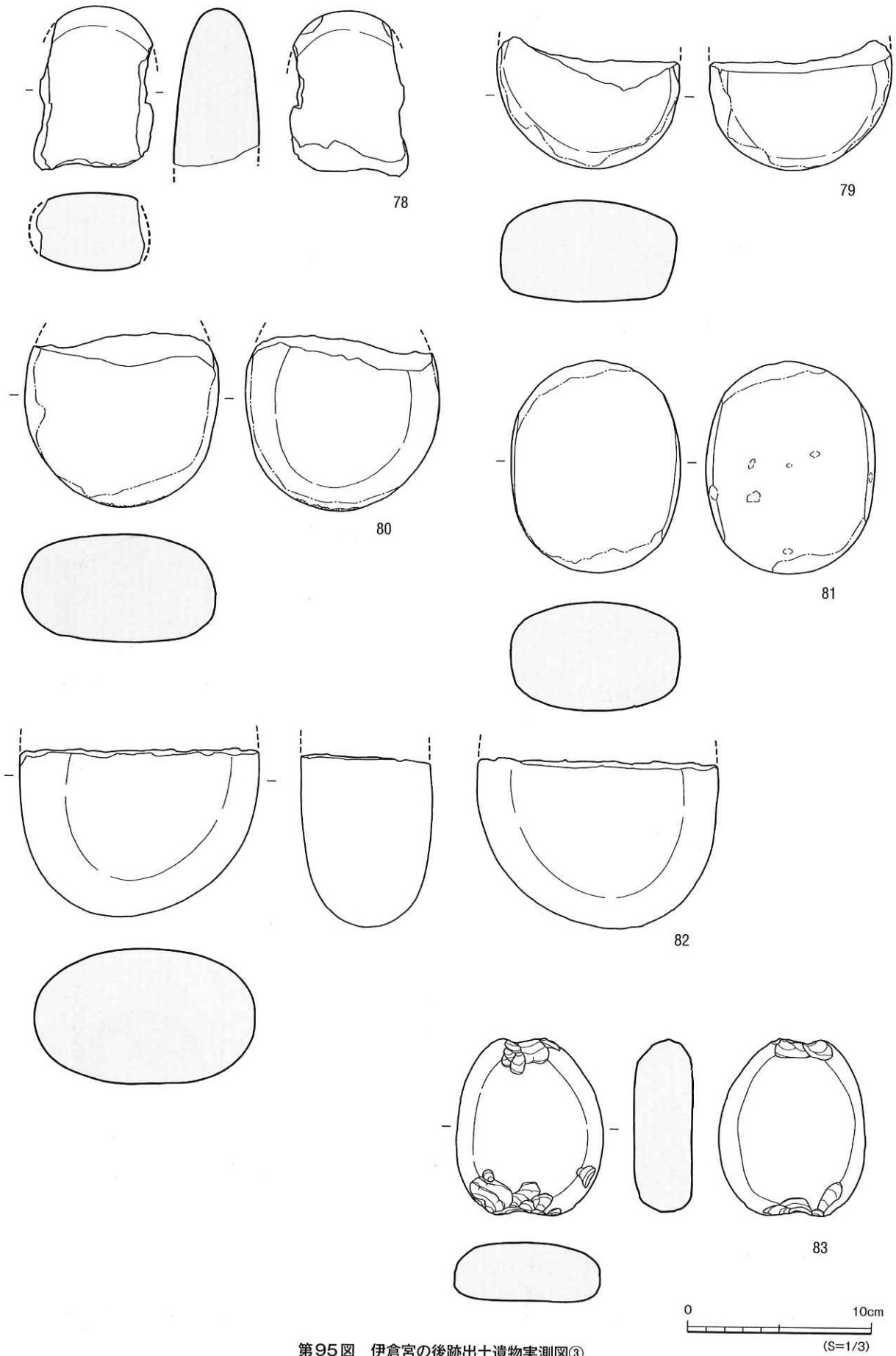
第93図 伊倉宮の後跡出土遺物実測図①

III 平成23年度の調査



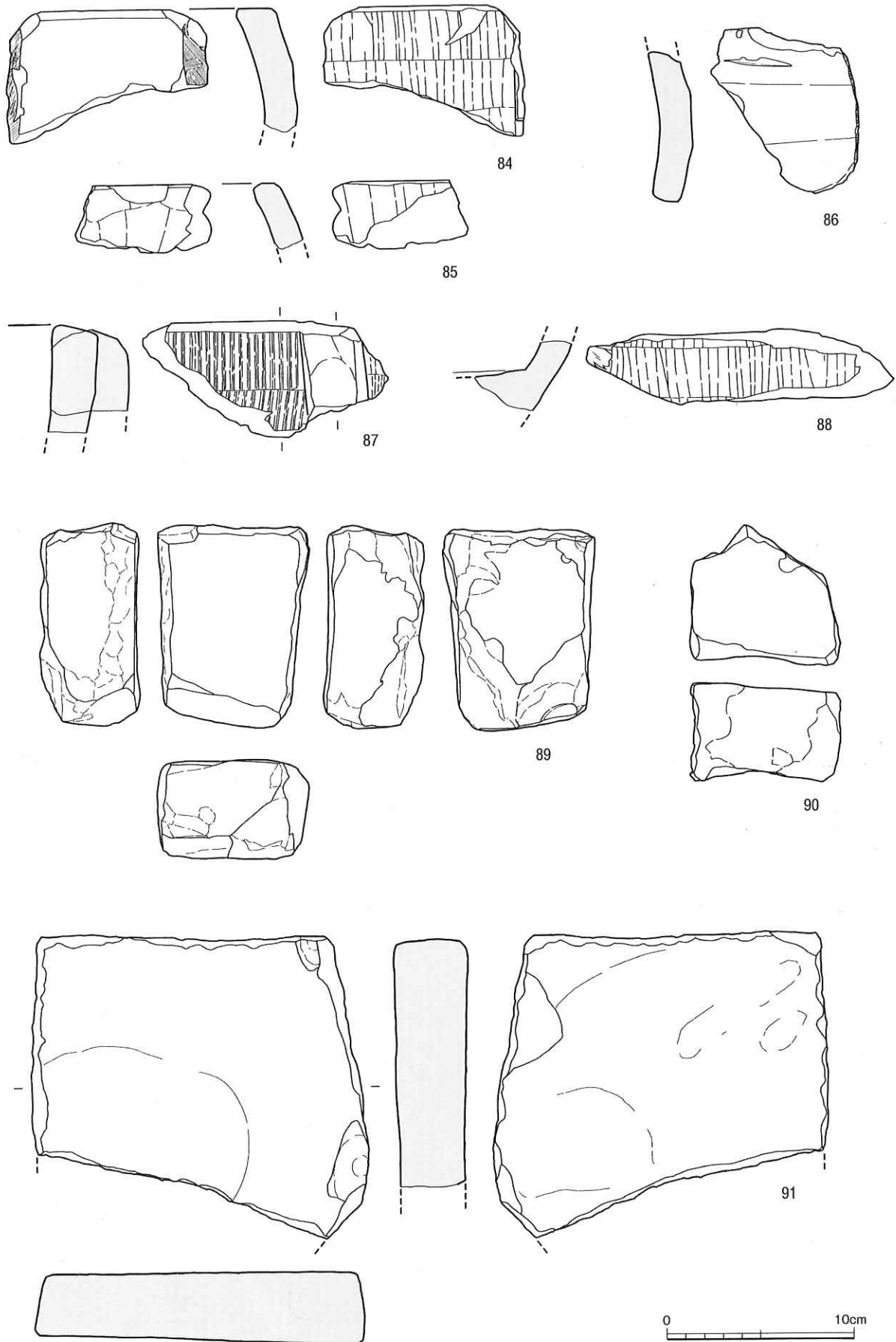
第94図 伊倉宮の後跡出土遺物実測図②

III 平成23年度の調査



第95図 伊倉宮の後跡出土遺物実測図③

Ⅲ 平成23年度の調査



第96図 伊倉宮の後跡出土遺物実測図④

III 平成23年度の調査

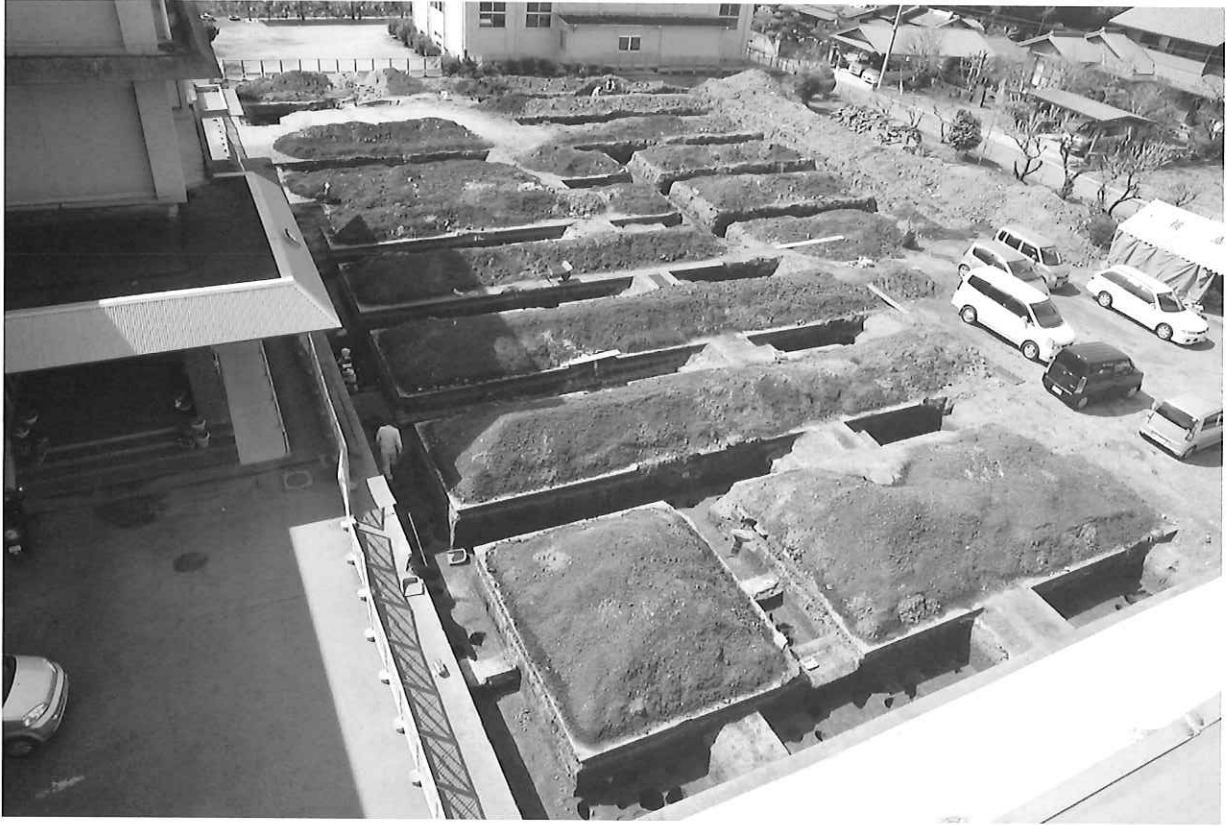


写真51 伊倉宮の後遺跡調査地全景（南東→北西）



写真52 伊倉宮の後遺跡調査地全景（南西→北東）



写真53 伊倉宮の後遺跡S-01 検出状況（南→北）



写真54 伊倉宮の後遺跡S-01 検出状況（北→南）



写真55 伊倉宮の後遺跡S-01 検出状況（北→南）



写真56 伊倉宮の後遺跡埋設土器検出状況 1 (南→北)

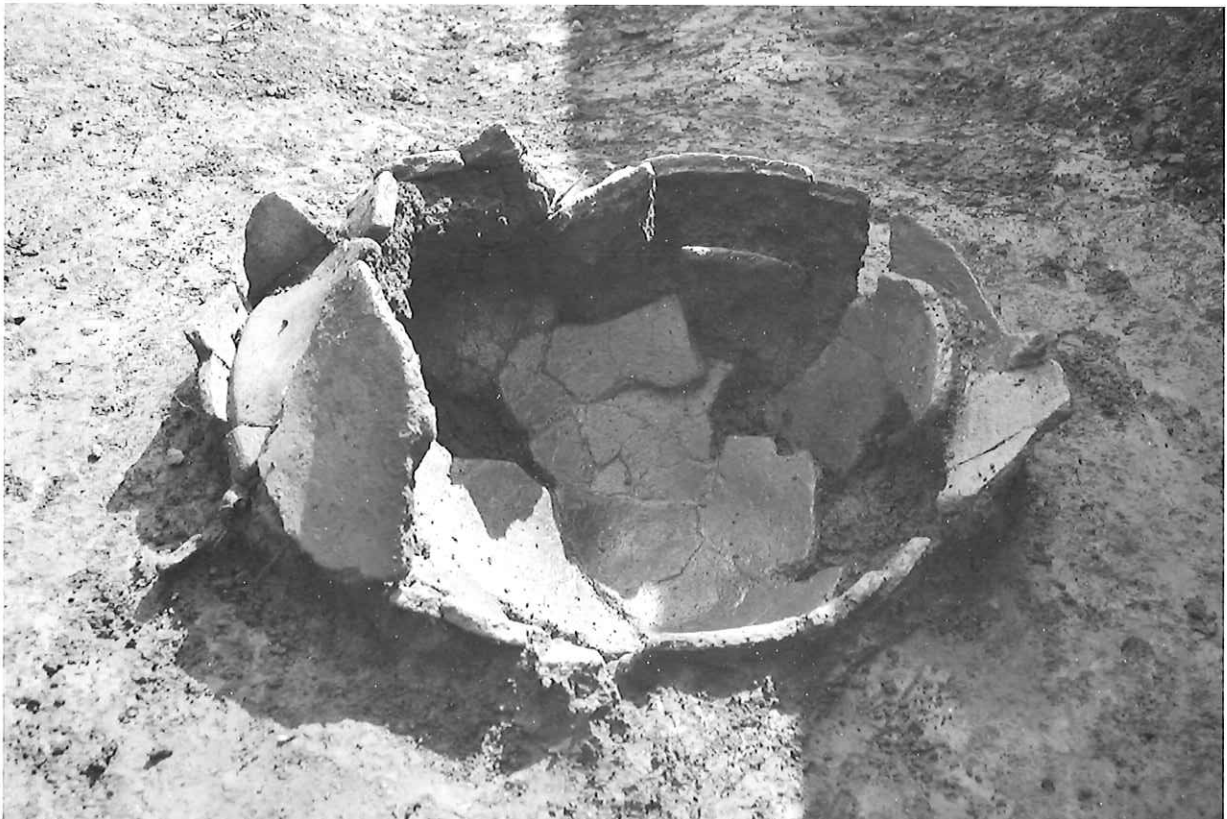


写真57 伊倉宮の後遺跡埋設土器検出状況 (西→東)

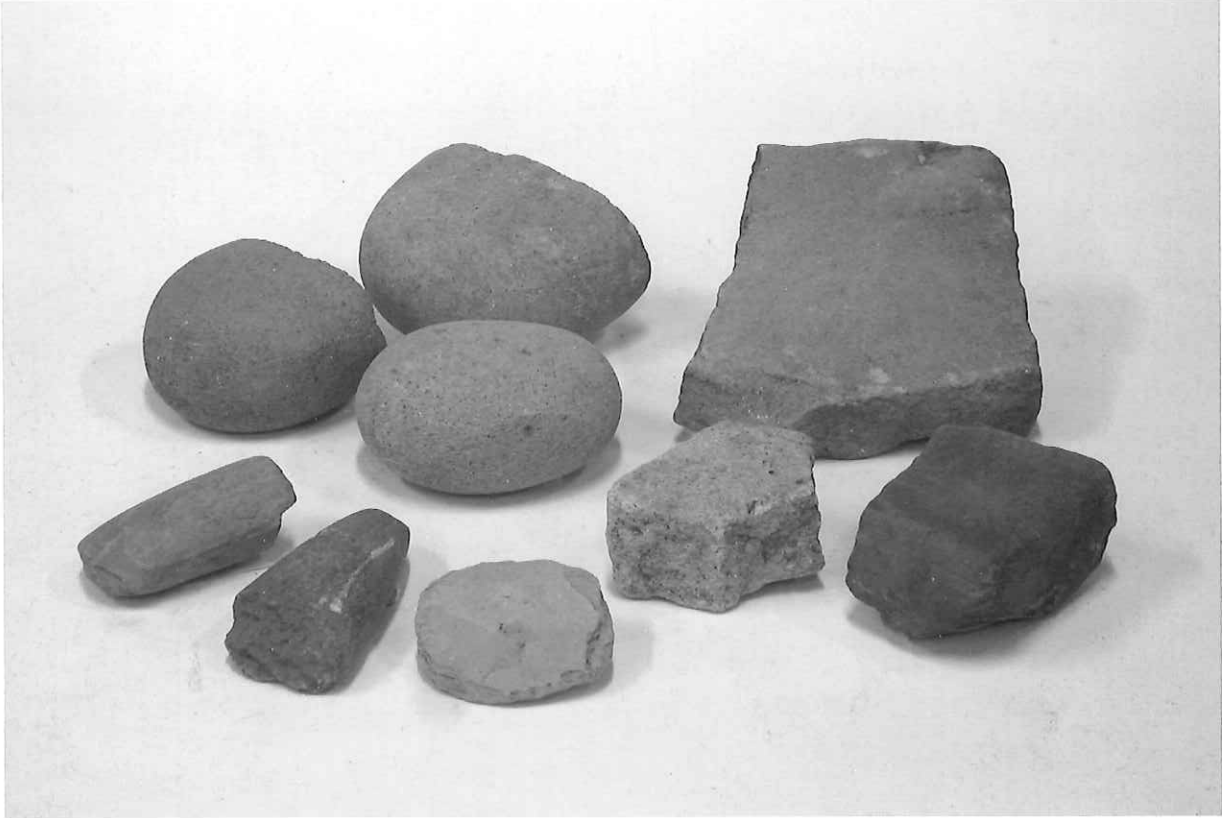


写真58 伊倉宮の後遺跡出土遺物（石製品）

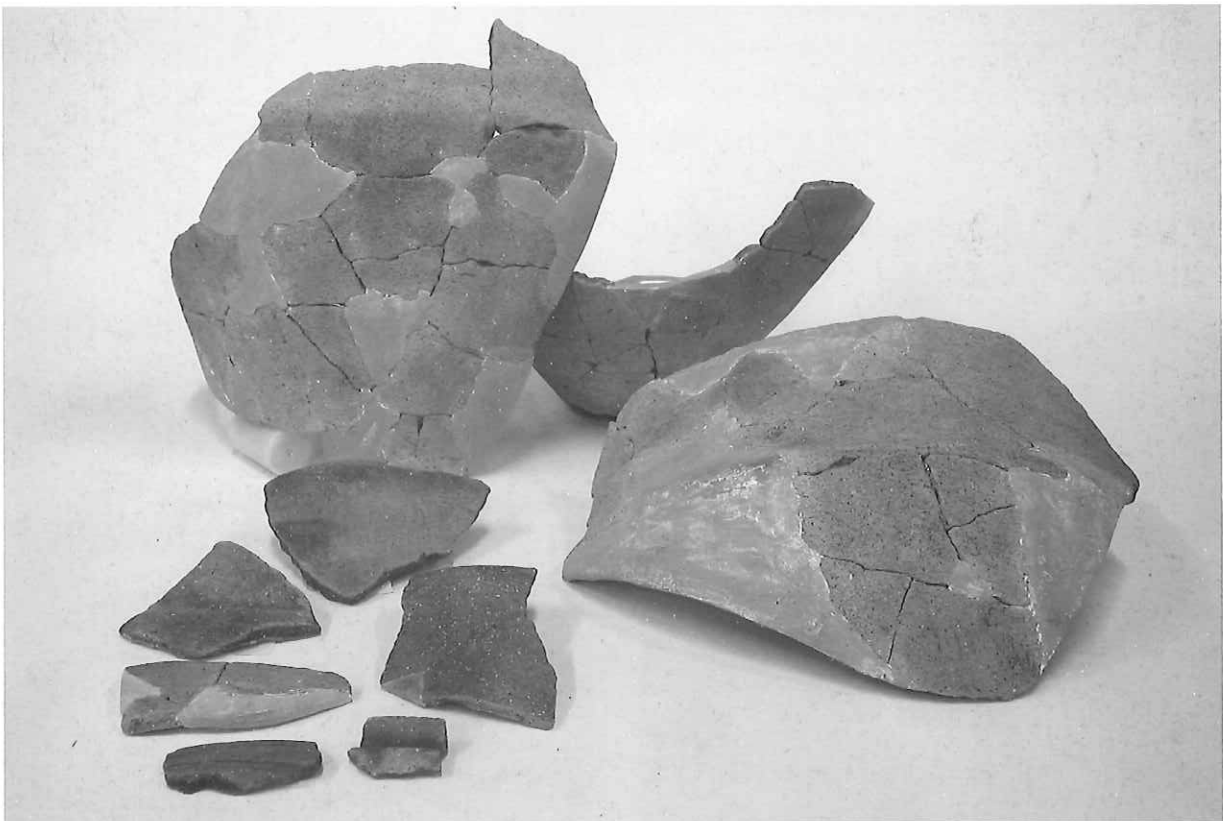


写真59 伊倉宮の後遺跡出土遺物（縄文土器）

13 吉丸前遺跡

所在地：寺田字吉丸前1365-1,1365-2外3筆

調査原因：調査依頼（店舗建設予定地）

対象面積：2,503.53㎡

調査期間：平成24年2月8日～9日

担当者：蟹父雅史

調査地は、菊池川左岸の丘陵上に位置する標高約46mの地点である。

事業予定地内に3ヶ所のトレンチを設定して調査を行った。特に1トレンチは、字図をみても明確であるように、現状で堀が埋没した痕跡がわかることからそれを切るように東西方向へトレンチを設定した。

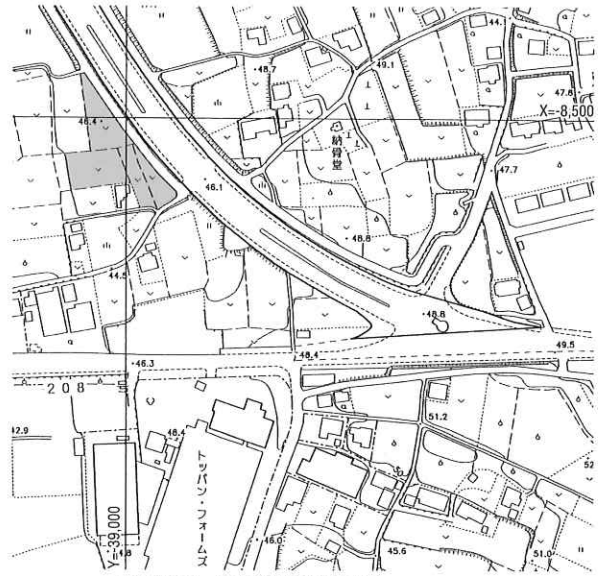
その結果、中世の堀状遺構が1条とその他のトレンチでピット等を数基確認した。遺構は浅い所で約20cm下から検出される。

隣接する玉名バイパス建設に伴う発掘調査でも、一帯は「日」の字状をした堀に囲まれた中世の居館跡が確認されており、1トレンチの遺構はこれとつながる堀の一部と考えられる。

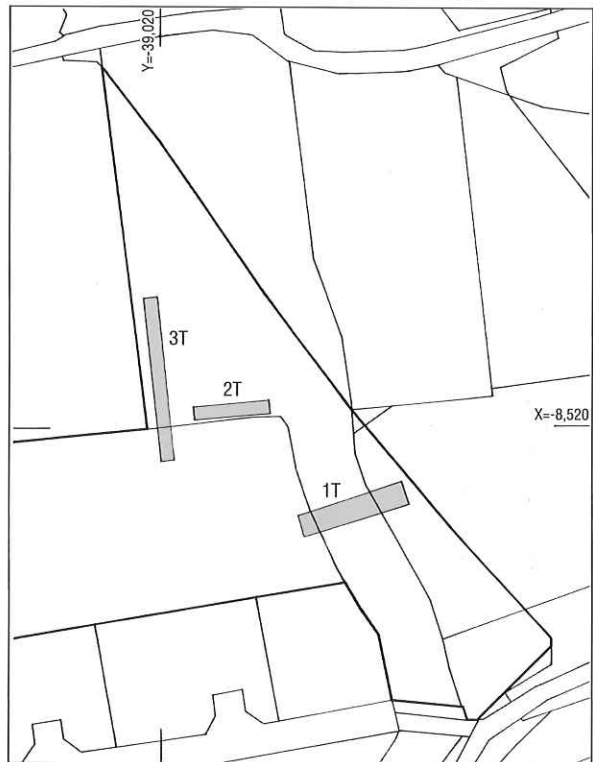
この堀状遺構は、幅約11m、深さ約2.5mであり覆土中から遺物はほとんど出土しなかった。

中位から上層は、ほぼ近世以降の耕作を受けているものと考えられ、8層から下位が近世以前の覆土と思われる。

周辺の調査区では、他に縄文時代の遺構・遺物も出土しており、今回確認したピット等も明確な時期は不明である。



第97図 吉丸前遺跡位置図 S=1/5,000



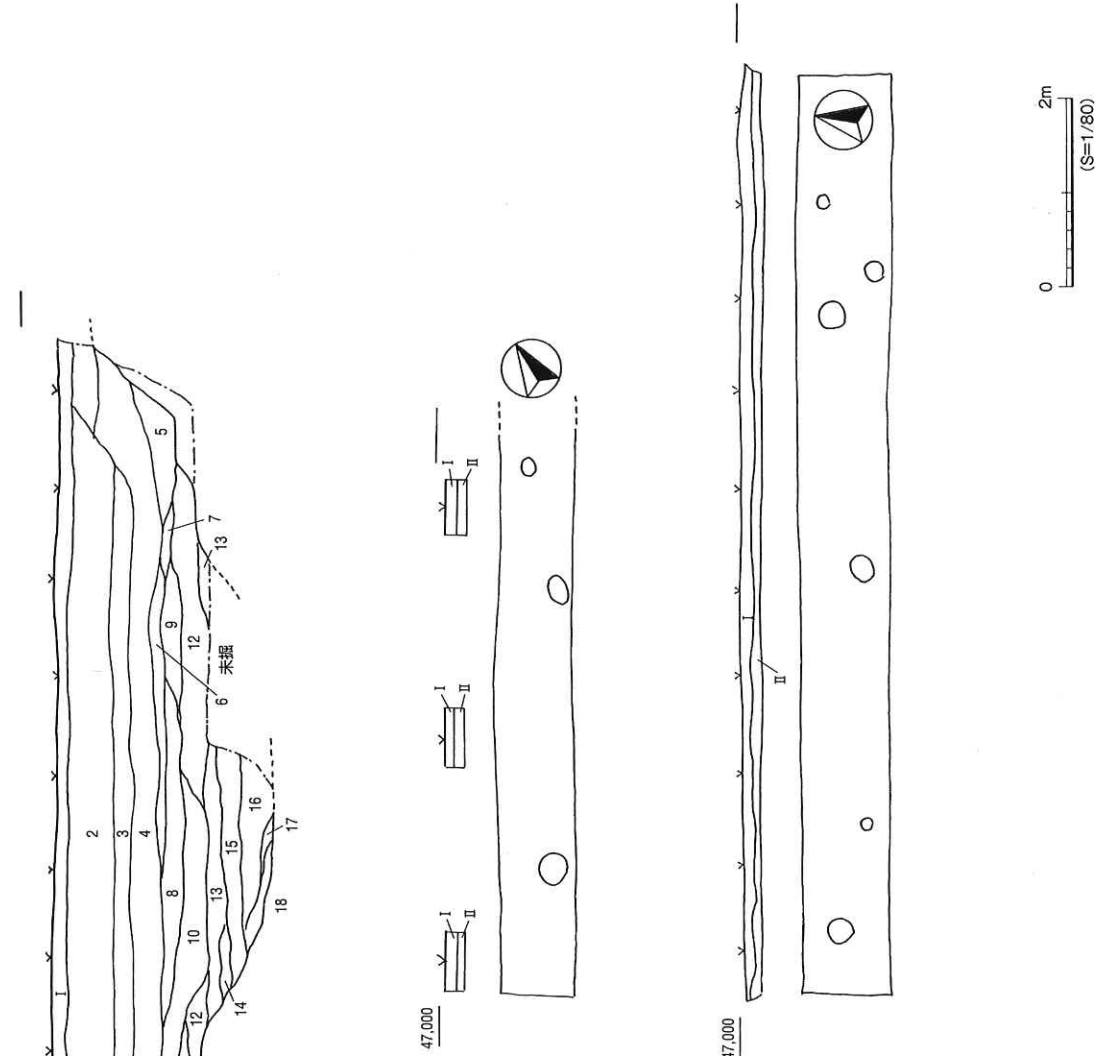
第98図 吉丸前遺跡トレンチ位置図 S=1/1,000



写真60 吉丸前遺跡調査前状況（堀跡）



写真61 吉丸前遺跡トレンチ堀状遺構



第99図 吉丸前遺跡トレンチ実測図

土層注記

- I層 黒褐色 (7.5YR3/2) しまり、粘性なし。砂粒多量に含む。現代の耕作土。
- II層 暗褐色 (7.5YR3/3) しまりなく、やや粘性あり。砂粒やや多く含む。旧耕作土。
- III層 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりなく、やや粘性あり。部分的にIV層の土を粒状に少量含む炭化物微重混入遺物はほとんど含まない。
- IV層 褐色 (7.5YR4/6) しまり、粘性なし。現代の擾乱か。
- 1層 黒褐色 (10YR3/2) しまり、粘性やや強い。炭化物、遺物小片
- 2層 褐色 (5YR6/6) しまり、粘性強い。ややピンク色を呈した粘質土で現代の盛土 (細砂を埋めた?)。
- 3層 褐灰色 (10YR4/1) しまり弱く、やや粘性あり。砂粒をやや多く含む。陶磁器片含むため近世の耕作土か。
- 4層 灰黄褐色 (10YR4/2) しまり弱いが、やや粘性強い。砂粒をやや多く含む。炭化物混入する。3層に近いため、近世の耕作土か。蹴跡をやや拡張した痕跡あり。
- 5層 黒褐色 (10YR3/2) しまり弱く、4層より粘性弱い。砂粒をやや多く含む。4層以前の耕作土か。
- 6層 黒褐色 (10YR3/2) しまりなく、やや粘性弱い。4層に近いが、IV層の土をやや多く含む。近世の耕作土か。
- 7層 暗褐色 (10YR3/3) しまりなく、6層よりやや粘性あり。黄褐色土を粒状に少量含む。ここまで近世か。
- 8層 におい黄褐色 (10YR4/3) しまり、粘性やや強い。炭化物を微量混入。ここから下位は細の覆土。
- 9層 褐色 (10YR4/4) しまり、粘性やや強い。黄褐色土を粒状に少量含む。
- 10層 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) しまり強く、粘性あり。IV層土を約3cm大まで少量混入する。炭化物微量混入。
- 11層 黒褐色 (2.5Y3/2) しまり弱く、やや粘性あり。IV層の土をやや多く含む。砂粒を少量混入。
- 12層 オリーブ褐色 (2.5YR4/3) しまり弱く、やや粘性強い。全体にIV層の土を多く含む。砂粒を少量混入。
- 13層 黒褐色 (10YR2/2) しまり、粘性やや強い。IV層の土を3cm大まで含む。砂粒少量混入。
- 14層 褐色 (7.5YR4/4) しまり弱く、粘性も13層より弱い。砂粒・炭化物を少量混入。全体にIV層土を含む。
- 15層 黒褐色 (7.5YR2/2) しまり弱く、粘性やや強い。IV層の土、炭化物を部分的にやや多く含む。
- 16層 褐色 (7.5Y4/3) しまり強く、粘性あり。全体にIV層土を混入する。
- 17層 黒褐色 (7.5Y2/1) しまりなく、粘性弱い。IV層の土、炭化物を少量含む。
- 18層 におい褐色 (7.5YR5/4) しまりなく、やや粘性強い。ややピンク色を呈す。

14 中土西遺跡（中土遺跡）

所在地：岱明町山下字清水尾 1099-5

調査原因：事務所兼作業場

対象面積：1279.79m²

調査期間：平成24年2月16日

担当者：蟹父雅史

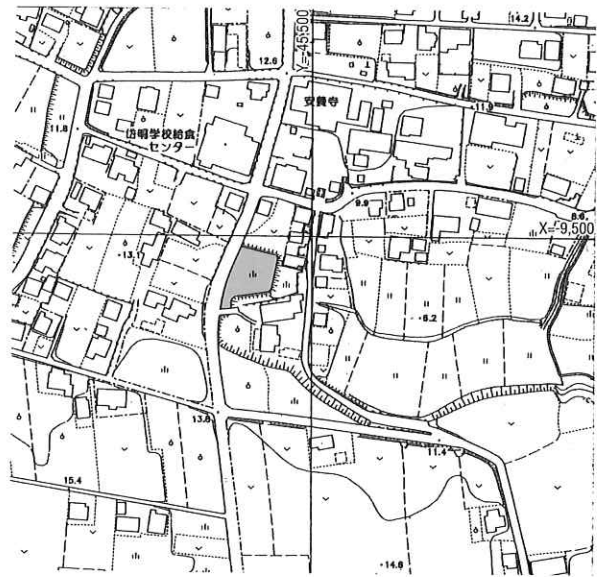
調査地は、境川右岸の台地上に位置する標高約13mの地点である。南東側の隣接地とは約1～3mの高低差があり、この斜面は以前からミカン畑となっていた。その後、盛土が行われ整地されている状況である。

今回、基礎が入る部分を中心に7ヶ所トレンチを設定して調査を行った。

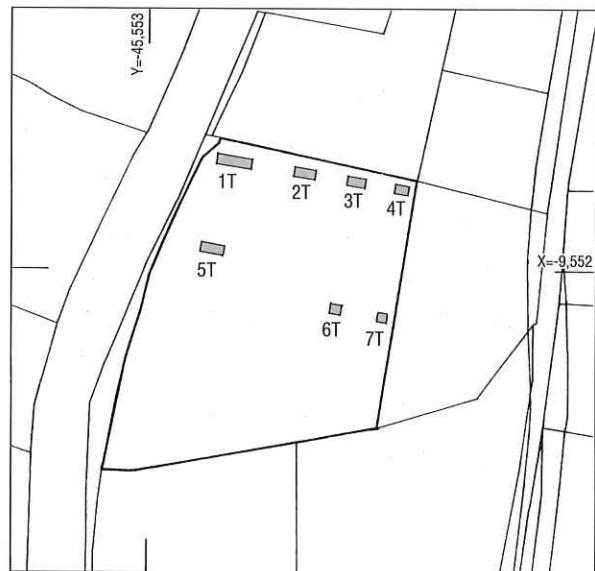
その結果、いずれのトレンチにおいても傾斜地を埋め立てた現代の客土層が約1m確認された。

また、西側の1トレンチ及び5トレンチにおいては地表面から約1.4～1.8mの深さでローム層（無遺物層）を確認し、その上層に約50cmの暗褐色土層が堆積している状況であった。この層には、土器細片が微量に混入しているが、以前のミカン畑に伴う耕作土と考えられ、明確な埋蔵文化財は確認されなかった。

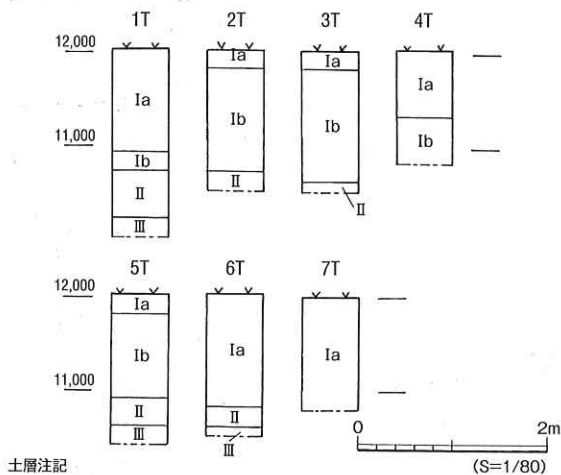
今後の措置は、基礎の掘削が盛土内に収まるため、慎重工事となった。



第100図 中土西遺跡位置図 S=1/5,000



第101図 中土西遺跡トレンチ位置図 S=1/1,000



- 土層注記
- I a層 客土
客土 現代の埋土層。赤土混入、現代の瓦礫等を含む。
 - I b層 砂層（盛土）
客土。礫石混入。かなり固めである（転圧か）。
 - II層 暗褐色土（7.5YR3/3）しまり弱い。粘性やや強い。炭化物、土器細片を少量混入。遺物が少ないが、包含層に相当する層と考えられる。
 - III層 褐色土（7.5YR4/4）ややしまり、部分的に粘性強い。砂層を部分的に含む。無遺物層。

第102図 中土西遺跡トレンチ実測図



写真62 中土西遺跡トレンチ掘削状況

15 稲荷山古墳 (工事立会)

所在地：繁根木字北73-1

調査原因：階段改築工事

対象面積：434㎡

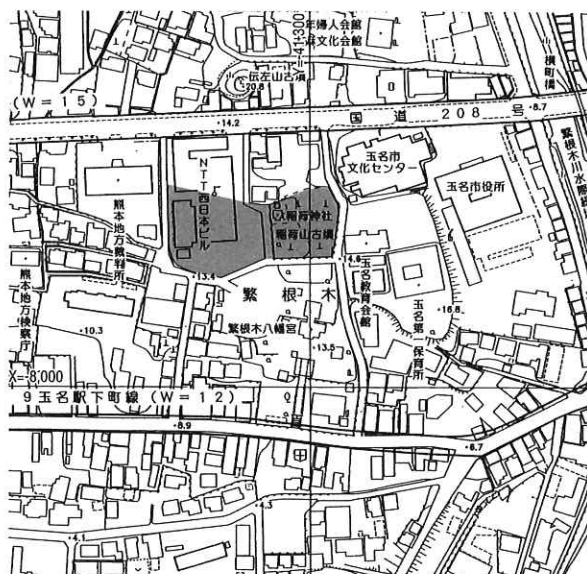
調査期間：平成23年8月23日

担当者：中村安宏

当古墳は、繁根木川右岸の低丘陵上に位置する標高約15mの地点である。国道208号線を挟んだ北側には伝左山古墳が存在している。

稲荷山古墳は、全長約110mの前方後円墳(5世紀後半)と推定され、西側の前方部は既に消失しているが、後円部は現在墓地となり、墳丘北側には稲荷神社が建っている。昭和34年、開発に伴い緊急的な調査が行われた際には、葺石及び円筒埴輪列が確認されている。また、平成14年の工事立会の際にも周辺から円筒埴輪片等が採集された。

今回の工事は、稲荷神社の参道となっている一部と既存の階段を撤去して新設するもので、工事に支障のあるクスノキの伐採等が行われるため、工事立会となった。その際に、円筒埴輪片が数点採集された。92は、頸部破片であるが、形状などから朝顔型埴輪と考えられる。93は、底部であり、外面は縦方向の刷毛目調整がある。底径については、破片から復元しているため、やや大きくなる可能性がある。



第103図 稲荷山古墳工事立会位置図 S=1/5,000



第104図 稲荷山古墳位置図 S=1/1,000

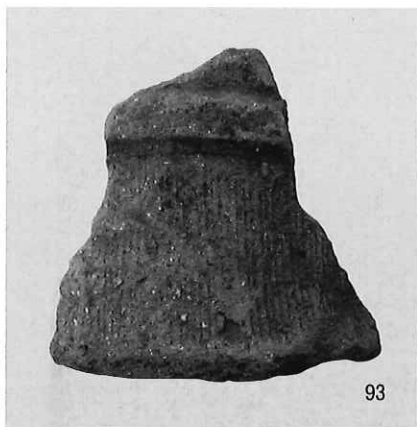
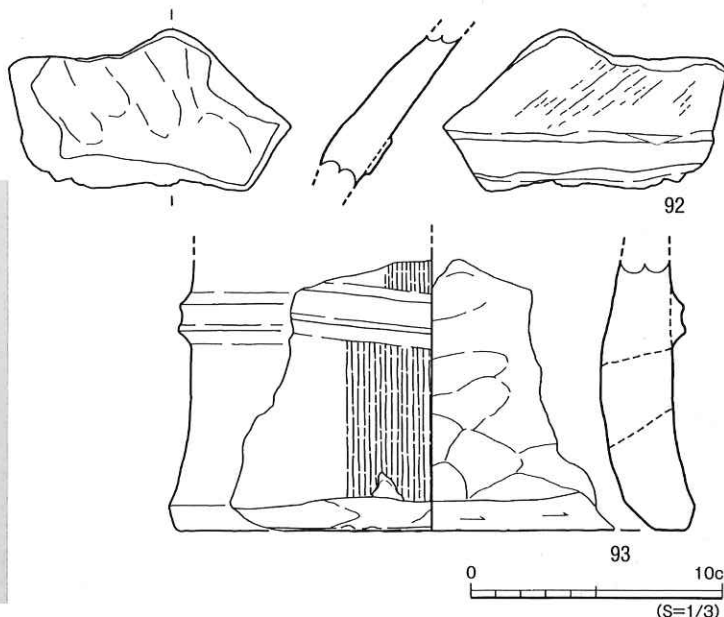


写真63 稲荷山古墳採集遺物



第105図 稲荷山古墳出土遺物実測図

16 塚の神古墳（測量調査）

所在地：天水町部田見1526-7,1526-8外7筆

調査原因：保存・範囲内容確認

対象面積：約7,600㎡

調査期間：平成23年7月20日～8月31日

担当者：中村安宏

当古墳は、唐人川左岸の丘陵上に位置し、標高約34m前後の地点にあたる。干拓が行われる以前は、この丘陵裾まで海岸であったと想定される。

同じ尾根上には、県指定史跡である「経塚・大塚古墳群」が存在する。これは、大塚・小塚・経塚・経塚西古墳の4基からなり、4～5世紀の築造と考えられている。

大塚古墳は、円墳とされていたが、平成11年の発掘調査で墳丘に接続するくびれ部が確認され、推定約100mの前方後円墳と判明した。

経塚古墳は、直径約50mの円墳とされ、舟形石棺から成人男性の人骨一体と、短剣や鏡、碧玉製管玉3点が出土している。

小塚古墳は、平成9年の発掘調査によって、二重の周溝が巡る直径33mの円墳の可能性があるとわかっている。

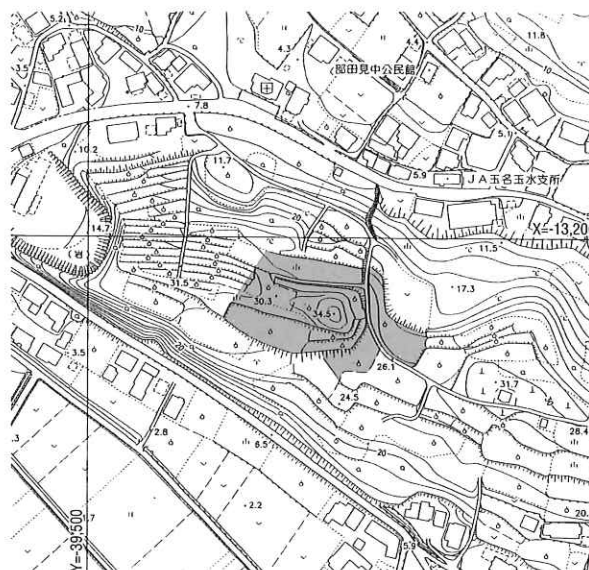
経塚西古墳は、現況で直径約26mの円墳状を呈しており、墳頂部に安山岩板石材が散乱していることなどから、主体部は箱式石棺と考えられる。

これら4基の古墳群は、未調査の古墳もあり、規模の実態はすべてが明確ではないが、100m級の前方後円墳（大塚古墳）を中心としている。

この塚の神古墳は、これらの古墳群と同じ尾根上に築造されているが、約1km離れた位置にある。

約200m西側には、別に箱式石棺を有する「塚の神西古墳」があったされるが、現在は削平を受け消滅している。他に周辺で古墳は確認されていないが、大塚古墳群とやや離れているこの2基も含めて、同丘陵上の一つの古墳群とする見解もある。

これらの古墳群をとりまく周辺約1kmの範囲には、尾田貝塚や国内最古級の鉄斧が出土した斉藤山貝塚、中世の明人林均吾墓など重要な遺跡が分布している。



第106図 塚の神古墳位置図 S=1/5,000



第107図 塚の神古墳測量調査位置図 S=1/2,000



写真64 塚の神古墳遠景（東から）



第108図 塚の神古墳と経塚・大塚古墳群位置図 (S=1/10,000)

塚の神古墳は、本格的な発掘調査は行われていないため、古墳の規模や形状など詳細は不明であるが、これまで直径約15mの円墳と考えられ、主体部は箱式石棺との見方がされてきた。墳頂には現在、塚の神石祠が地権者によって祀られているが、その土台部分には周辺から採集されたと考えられる石材が利用されている。約20cm大の安山岩系自然礫や凝灰岩板石片が数個あり、これらは葺石や石棺材であった可能性もある。

墳丘は、以前からミカン畑として段状に造成を受けてはいるものの、墳丘北西側と南西側にくびれ部状のくぼみや、さらに西側方向へ延びる前方部状の貼り出しが現状で認められる。

これらの可能性を含めて、現墳丘の西側をやや延長した範囲で測量調査を実施している。

墳丘周辺では、これまでに台形状の突帯が付く円筒埴輪片等が採集されており、今回併せて報告する。

参考文献

中村安宏・古城史雄 2001『大塚古墳』天水町文化財調査報告第2集
西住欣一郎 2005『第四節 古墳時代』『天水町史』天水町

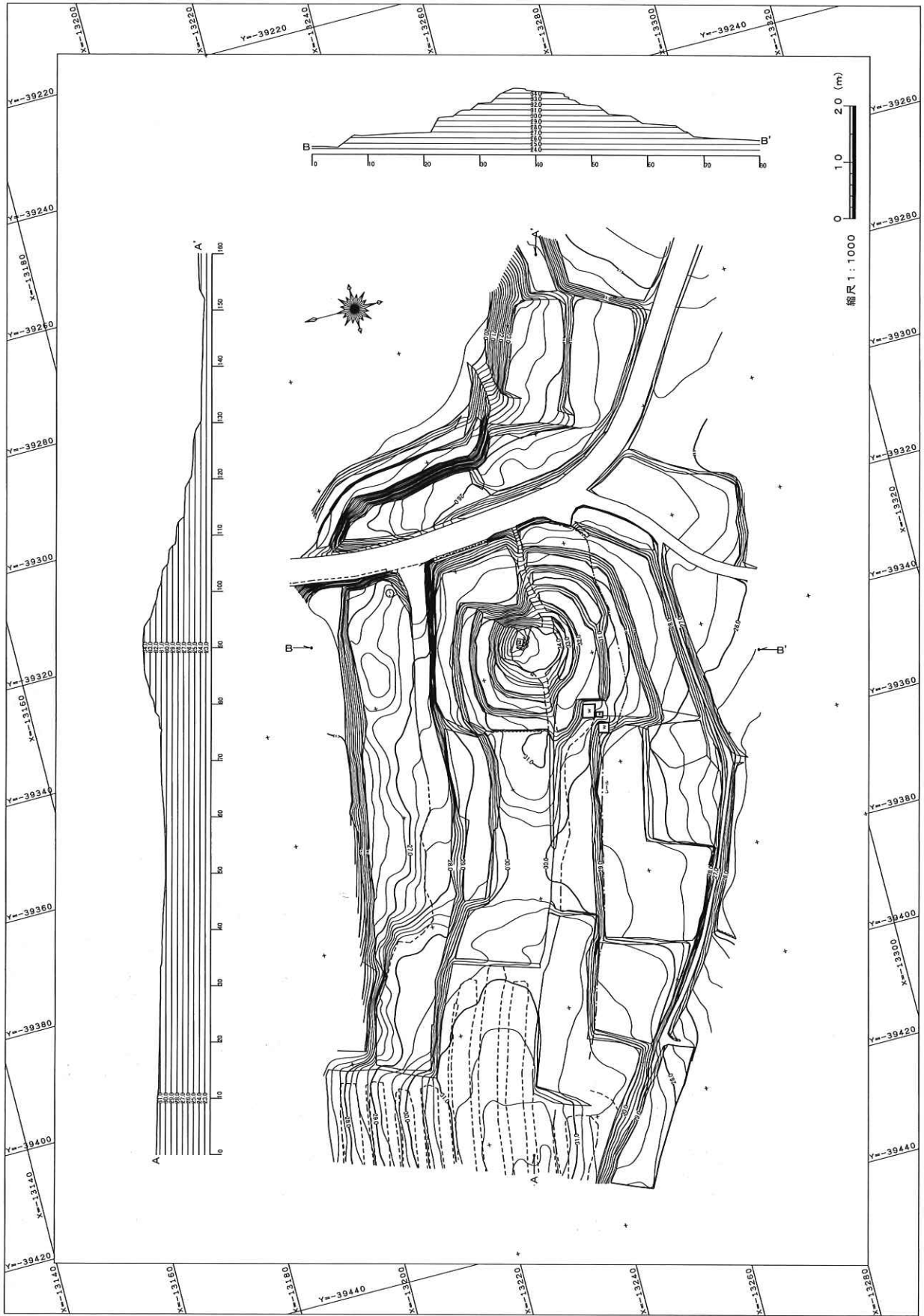


写真65 塚の神古墳 墳頂部にある石祠

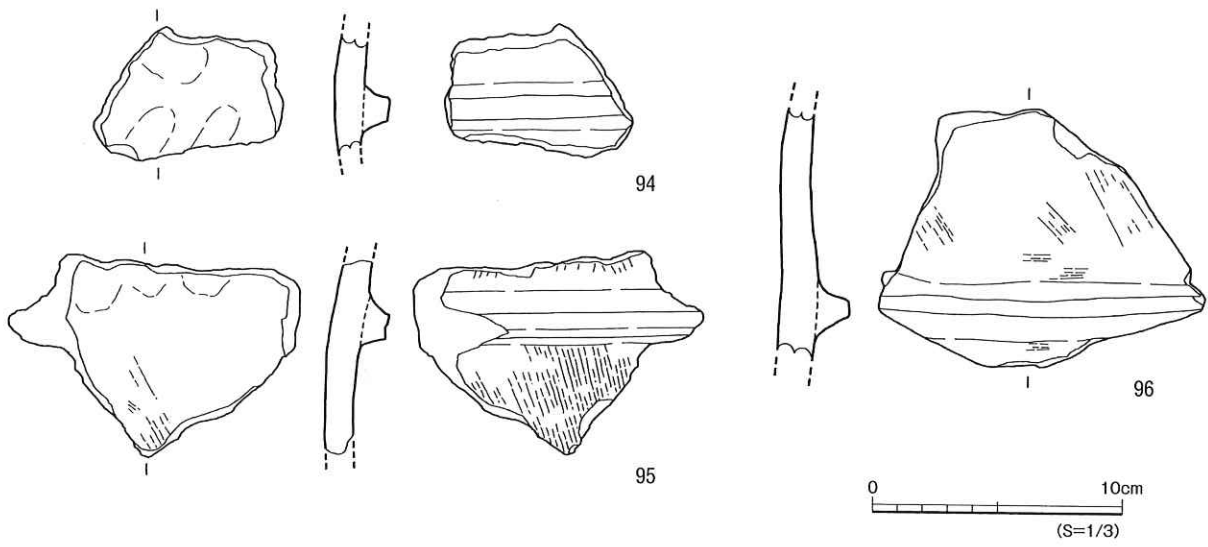


写真66 塚の神古墳に散布する円筒埴輪片

III 平成23年度の調査



第109図 塚の神古墳地形測量図



第110図 塚の神古墳出土遺物実測図

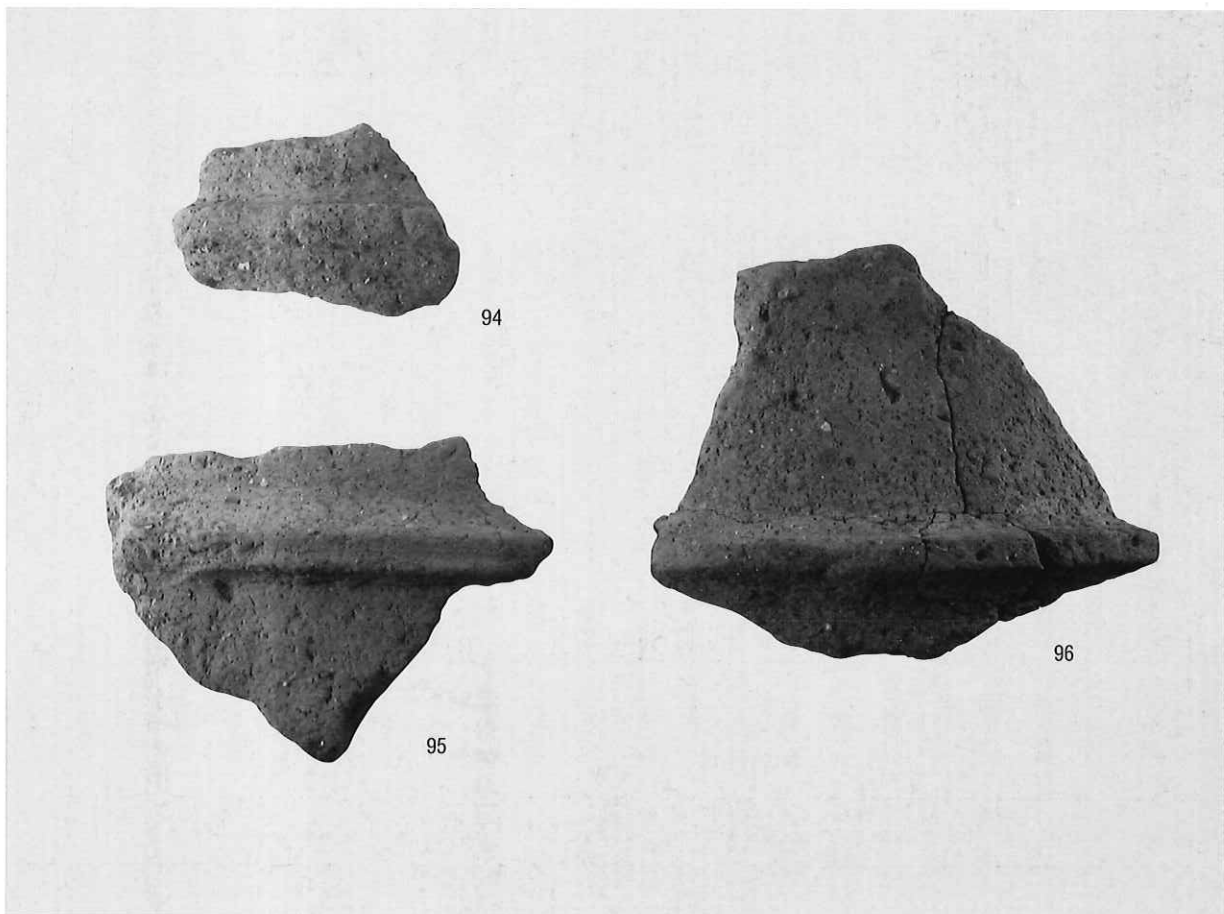


写真67 塚の神古墳採集円筒埴輪片

第2表 出土遺物観察表(土器)

図版 番号	遺跡名	出土地点	種別	器種・部位	法量(cm)		器面調整		色調		胎土	焼成	備考		
					口径	底径	器高	外面	内面	外面				内面	
1	宮原土井の 内遺跡A地点	立会時採集	土師器	皿	7	4.4	2.2	回転ナデ 底部分切	回転ナデ 底部分切	10YR7/3	10YR8/3	浅黄褐色	石英、角閃石含む	良	
2	宮原土井の 内遺跡A地点	立会時採集	土師器	皿	6.8	4.8	1.7	回転ナデ 底部分切	ナデ	7.5YR7/4	7.5YR7/6	橙色	石英、角閃石、赤色粒子含む	普通	
3	宮原土井の 内遺跡A地点	立会時採集	土師器	皿	7.4	6.4	1.4	回転ナデ 板目痕あり	回転ナデ 底部分切	2.5YR8/4	2.5YR8/2	灰白	石英、角閃石含む	良	
4	宮原土井の 内遺跡A地点	立会時採集	土師器	皿	7.9	6.5	1.5	回転ナデ 板目痕あり	回転ナデ 底部分切	10YR7/4	7.5YR7/4	にぶい橙色	石英わずかに含む	良	
5	宮原土井の 内遺跡A地点	立会時採集	土師器	皿	7.7	5.5	7.45	回転ナデ 板目痕あり	回転ナデ 底部分切	10YR8/3	10YR8/4	浅黄褐色	石英、角閃石含む	良	
6	宮原土井の 内遺跡A地点	立会時採集	土師器	皿	8.2	6.6	1.45	回転ナデ 板目痕あり	回転ナデ	10YR8/3	10YR8/3	浅黄褐色	石英、角閃石含む	良	
7	宮原土井の 内遺跡A地点	立会時採集	土師器	皿	4.5	6	1.7	回転ナデ 底部分切	回転ナデ	10YR8/2	10YR7/2	にぶい黄褐色	石英、角閃石をわずかに含む	普通	
8	宮原土井の 内遺跡A地点	立会時採集	土師器	皿	7.8	6.7	1.3	回転ナデ 底部分切	回転ナデ	10YR8/3	10YR8/3	浅黄褐色	石英、角閃石含む	良	
9	宮原土井の 内遺跡A地点	立会時採集	土師器	皿	9.5	5.7	1.5	底部分切 板目痕あり	不明	10YR8/3	10YR8/3	浅黄褐色	石英、角閃石含む	良	
10	宮原土井の 内遺跡A地点	立会時採集	土師器	皿	8.1	6.7	1.5	回転ナデ 底部分切	回転ナデ	10YR7/3	10YR7/3	浅黄褐色	石英、角閃石、雲母含む	良	
11	宮原土井の 内遺跡A地点	立会時採集	土師器	皿	7.6	6.4	1.25	底部分切 板目痕あり	回転ナデ 底部分切	10YR7/4	10YR8/3	浅黄褐色	石英、角閃石、赤色粒子含む	良	
12	宮原土井の 内遺跡A地点	立会時採集	土師器	皿	7.6	6.6	1.4	回転ナデ 板目痕あり	回転ナデ 底部分切	10YR8/3	10YR8/3	浅黄褐色	角閃石少量含む	良	
13	宮原土井の 内遺跡A地点	立会時採集	土師器	皿	8	5.4	1.9	底部分切	回転ナデ 底部分切	10YR8/3	10YR8/3	浅黄褐色	石英、角閃石含む	良	
14	宮原土井の 内遺跡A地点	立会時採集	土師器	皿	7.6	6.8	1.3	回転ナデ 底部分切	不明	10YR8/3	10YR8/3	浅黄褐色	石英、角閃石含む	良	
15	宮原土井の 内遺跡A地点	立会時採集	土師器	皿	8.7	6.8	1.5	底部分切 板目痕あり	不明	10YR7/3	10YR8/3	浅黄褐色	石英、角閃石含む	良	
16	宮原土井の 内遺跡A地点	立会時採集	土師器	皿	8.3	6.4	1.75	回転ナデ 系切・板目痕	回転ナデ 系切・板目痕	10YR8/4	10YR8/4	浅黄褐色	石英、角閃石含む	良	
17	宮原土井の 内遺跡A地点	立会時採集	土師器	皿	7.9	6.8	1.7	回転ナデ 系切・板目痕	回転ナデ 底部分切	10YR7/4	10YR7/4	にぶい黄褐色	角閃石わずかに含む	良	
18	宮原土井の 内遺跡A地点	立会時採集	土師器	皿	8.7	6.4	2.1	底部分切	不明	10YR8/4	10YR8/4	浅黄褐色	石英、角閃石含む	良	
19	宮原土井の 内遺跡A地点	立会時採集	土師器	皿	8.3	7.1	1.6	回転ナデ 底部分切	回転ナデ 底部分切	10YR8/3	10YR8/3	浅黄褐色	角閃石含む	良	
20	宮原土井の 内遺跡A地点	立会時採集	土師器	坏	10.6	6.3	2.8	回転ナデ 底部分切	不明	7.5YR7/4	10YR8/4	浅黄褐色	石英、角閃石、赤色粒子含む	良	
21	宮原土井の 内遺跡A地点	立会時採集	土師器	坏	11.2	8.6	3.3	回転ナデ 底部分切	回転ナデ 底部分切	10YR8/4	10YR8/4	浅黄褐色	石英、角閃石含む	良	
22	宮原土井の 内遺跡A地点	立会時採集	土師器	坏	11	8.6	2.9	回転ナデ 系切・板目痕	回転ナデ	10YR7/3	10YR8/4	浅黄褐色	石英、角閃石、赤色粒子含む	良	

III 平成23年度の調査

図版 番号	遺跡名	出土地点	種別	器種・部位	法量(cm)		器面調整		色調		胎土	焼成	備考		
					口径	底径	器高	外面	内面	外面				内面	
															外面
23	宮原土井の内遺跡A地点	立会時採集	土師器	坏	11.6	8.6	3.5	底部糸切り	回転ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/4	10YR8/4	石英、角閃石含む	良	
24	宮原土井の内遺跡A地点	立会時採集	土師器	坏	12	10	2.7	回転ナデ 底部糸切り	回転ナデ	浅黄橙色	10YR8/4	10YR8/4	石英、角閃石含む	普通	
25	宮原土井の内遺跡A地点	立会時採集	土師器	坏	11.8	8.8	3.1	回転ナデ 糸切・板目痕	回転ナデ	浅黄橙色	10YR8/3	10YR8/4	石英、角閃石、赤色粒子含む	普通	
26	宮原土井の内遺跡A地点	立会時採集	土師器	坏	12	9	3.1	回転ナデ 糸切・板目痕	回転ナデ	橙色	7.5YR6/6	7.5YR6/6	石英、金ウツモをやや多く含む	普通	
27	宮原土井の内遺跡A地点	立会時採集	土師器	坏	14	10	3.8	回転ナデ 底部糸切り	回転ナデ	浅黄橙色	10YR8/3	10YR8/3	石英、角閃石含む	普通	
28	宮原土井の内遺跡A地点	立会時採集	青磁	碗	17	—	3.6	—	—	オリープ灰色	5GY6/1	5Y8/1	精緻	普通	綿蓮井文・龍泉窯系
29	宮原土井の内遺跡A地点	立会時採集	青磁	碗	—	5.3	3.3	—	—	オリープ黄色	5Y6/3	5Y7/1	精緻	普通	
30	古閑遺跡	4T	弥生土器	甗	—	—	6	不明	不明	明黄褐色	10YR6/6	10YR8/3	石英多く、角閃石少量含む	良	
31	古閑遺跡	4T	弥生土器	甗	—	8.4	3.4	不明	不明	浅黄褐色	7.5YR8/6	7.5YR6/6	石英をやや多く含む	良	
32	松尾遺跡A地点	1T	須恵器	高坏	17.2	—	2.3	回転ナデ	ナデ	灰白色	7.5YR7/1	7.5YR6/1	黒色粒を少量含む	良	ヘラ状工具痕あり
33	松尾遺跡A地点	2T	土師器	高坏	24.6	—	2.6	回転ナデ	回転ナデ	橙色	7.5YR6/6	5YR6/6	白色粒少量を含む	良	回転ヘラみがか
34	松尾遺跡A地点	遺構埋土	須恵器	坏蓋	17.6	—	2.6	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	.5Y7/1	.5Y7/1	白色粒少量を含む	良	ヘラ切り未調整
35	松尾遺跡A地点	1T	須恵器	蓋	15	—	4	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ	にぶい橙色	7.5YR7/4	7.5YR6/4	白色粒、石英、角閃石含む	良	赤焼け
36	松尾遺跡A地点	2T遺構埋土	須恵器	盤	18.8	13.4	3.4	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ	灰白色	.5Y7/1	7.5YR5/1	白色砂粒含む	良	
37	松尾遺跡A地点	1T遺構埋土	須恵器	坏	13	7.9	4.5	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	灰白色	.10Y7/1	10YR6/3	3mm大の黒色粒を多く含む	良	
38	松尾遺跡A地点	1T	須恵器	盤	18.2	2	16	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	灰黄色	2.5Y7/2	5Y6/1	黒色粒を含む	良	自然釉
39	松尾遺跡A地点	表採	瓦	丸瓦	—	—	7.3	平行タタキ	布目	灰黄色	2.5Y6/2	2.5Y6/2	密	良	行基瓦?
40	伊倉宮の後遺跡	ピット内	須恵器	甗?	—	—	—	平行タタキ	同心円タタキ	灰色	7.5YR5/1	7.5YR6/1		良	
41	王各平野 栗里跡	1T・15層	弥生土器	甗?	—	—	2.4	不明	不明	にぶい黄褐色	10YR6/3	10YR7/3	石英、角閃石含む	良	
42	宮原土井の内遺跡B地点	4T・A層	瓦質土器	火鉢	—	8.8	3.4	ナデ	ナデ	灰色	N/5	N/5	白色砂粒含む	良	
43	宮原土井の内遺跡B地点		瓦質土器	権鉢	—	—	3.6	ナデ	ナデ後目目	灰色	7.5YR6/1	.5Y6/1	白色砂粒含む	良	立会時採集
44	松尾遺跡B地点	2T・S-1	土師器	坏	—	6.9	2.8	不明	不明	浅黄色	2.5Y7/3	2.5Y7/3	長石、石英、角閃石含む	不良	

III 平成23年度の調査

図版 番号	遺跡名	出土地点	種別	器種・部位	法量(cm)		器面調整		色調		胎土	焼成	備考		
					口径	底径	器高	外面	内面	外面				内面	
45	松尾遺跡 B地点	1T	須惠器	坏	15.4	8.1	5.1	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ 指頭痕	灰色	5Y6/1	灰色	黒色粒、石英、角閃石少量含む	良	
46	松尾遺跡 B地点	1T	須惠器	大甕	—	—	45.6	格子タタキ	平行タタキ	暗灰黄色	2.5Y5/2	灰黄色	細かい黒色粒を少量含む。	良	
47	松尾遺跡 B地点	2T	瓦	平瓦	—	—	2.5	布目なし	格子目タタキ	灰色	7.5YR7/1	灰色	石英を含む	普通	桶巻作り痕跡
48	松尾遺跡 B地点	2T溝内	瓦	鬼面文軒丸瓦	—	—	9.2	鬼面文	ヘラ調整か	にぶい黄褐色	10YR7/3	にぶい黄褐色	黒色粒、石英を含む	良	
49	伊倉宮の後 遺跡	IV層	縄文土器	浅鉢	—	—	2.3	ヨコナデ	ヨコナデ	灰黄褐色	10YR5/2	灰黄褐色	石英、角閃石含む	良	
50	伊倉宮の後 遺跡	IV層	縄文土器	深鉢	—	—	2.8	ヨコナデ	ヨコナデ	灰黄褐色	10YR5/2	灰黄褐色	石英、角閃石含む	良	沈線文
51	伊倉宮の後 遺跡	IV層	縄文土器	浅鉢	—	—	2.1	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄褐色	10YR5/3	にぶい橙色	石英、角閃石含む	良	沈線文
52	伊倉宮の後 遺跡	包含層	縄文土器	鉢	—	—	4	磨き?	ナデ	にぶい橙色	7.5YR5/4	灰黄褐色	石英、角閃石、雲母を含む	良	
53	伊倉宮の後 遺跡	IV層	縄文土器	深鉢	—	—	6.3	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	10YR5/3	にぶい黄褐色	赤褐色粒、石英、角閃石少量含む	良	
54	伊倉宮の後 遺跡	IV層	縄文土器	深鉢	—	—	8.1	ナデ	ナデ	にぶい橙色	7.5YR5/3	にぶい橙色	石英、角閃石、長石含む	良	沈線文
55	伊倉宮の後 遺跡	IV層	縄文土器	深鉢	—	—	8.3	ナデ・磨き?	ナデ	にぶい黄褐色	10YR5/3	にぶい黄褐色	長石、角閃石含む	良	沈線文
56	伊倉宮の後 遺跡	S-09	縄文土器	深鉢	—	8	34.6	ナデ・磨き?	ナデ?	にぶい黄褐色	10YR6/3	にぶい黄褐色	細かい角閃石を多く含む。	良	図上復元
57	伊倉宮の後 遺跡	P-9	縄文土器	深鉢	—	—	3.4	ナデ	ナデ	灰黄褐色	10YR5/2	灰黄褐色	石英を含む	良	穿孔あり
58	伊倉宮の後 遺跡	IV層	弥生土器	鉢	7.3	—	3.6	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	10YR7/4	にぶい黄褐色	石英、角閃石含む	良	穿孔あり
59	伊倉宮の後 遺跡	IV層	弥生?	台付甕?	—	—	6.2	工具痕	ナデ?	橙色	7.5YR6/6	灰黄色	角閃石、長石含む	良	南九州系?
60	伊倉宮の後 遺跡	S-06	土師器?	甕	—	—	12.1	刷毛目	ナデ	黒褐色	10YR3/2	にぶい黄褐色	石英、角閃石含む	普通	時期不詳
61	伊倉宮の後 遺跡	IV層	土師器	坏	12.8	8	3	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	橙色	7.5YR7/6	橙色	石英、赤褐色粒、雲母を含む	良	スス付着
62	伊倉宮の後 遺跡	IV層	土師器	坏	—	7.8	2.8	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	にぶい橙色	7.5YR7/4	にぶい橙色	微細な砂粒を含む	良	
63	伊倉宮の後 遺跡	IV層	須惠器	坏	12	6.6	3.4	回転ナデ	回転ナデ	黄灰色	2.5Y6/1	黄灰色	微細な白色砂粒を少量含む	良	
64	伊倉宮の後 遺跡	IV層	須惠器	坏	—	5.7	12.2	不明	不明	灰白色	2.5Y8/1	灰白色	石英を少量含む	良	
65	伊倉宮の後 遺跡	IV層	須惠器	坏	—	9	1.4	不明	不明	灰黄色	2.5Y7/1	灰白色	微細な白色砂粒を少量含む	良	
66	伊倉宮の後 遺跡	IV層	瓦質土器	播鉢	—	—	5.5	ナデ	ナデ後播目	暗灰黄色	2.5Y5/2	黄灰色	微細な白色砂粒を少量含む	良	

III 平成23年度の調査

図版 番号	遺跡名	出土地点	種別	器種・部位	法量(cm)		器面調整		色調		胎土	焼成	備考				
					口径	底径	器高	外面	内面	外面				内面			
67	伊倉宮の後 遺跡	IV層	土師器	鉢	—	—	1.9	ナデ	ケズリ?	灰黄褐色	10YR4/2	10YR6/3	にぶい黄褐色	10YR6/3	石英、角閃石、長石含む	良	中世?刺突文あり
68	伊倉宮の後 遺跡	IV層	青磁	碗	15.8	—	4.4	縞蓮弁文	内外施釉	オリーブ黄色	.5Y6/3	.5Y6/3	オリーブ黄色	.5Y6/3	やや粗い	良	
69	伊倉宮の後 遺跡	包含層	青磁	碗	—	5.2	3.5	ヘラ	見込界線	オリーブ灰色	10YR6/2	10YR6/2	オリーブ灰色	10YR6/2	密	良	
70	伊倉宮の後 遺跡	包含層	青磁	皿	—	5	0.9	底部釉はぎ	ヘラ文様	明オリーブ灰色	2.5GY7/1	2.5GY7/1	灰色	2.5GY7/1	粗い	良	楕点描文あり
71	伊倉宮の後 遺跡	IV層	土製品	土錘												良	
72	伊倉宮の後 遺跡	IV層	土製品	土錘												良	
92	稲荷山古墳	表採	埴輪	朝顔型?	—	—	6.4	ハケメ	指ナデ?	褐色	.5YR7/6	.5YR7/6	褐色	.5YR7/6		良	沈線文あり
93	稲荷山古墳	表採	埴輪	円筒	—	20.2	10.8	タテハケメ	指ナデ? ケズリ	褐色	.5YR7/8	.5YR7/8	褐色	.5YR7/8		良	沈線文あり
94	塚の神古墳	表採	埴輪	円筒	—	—	5.4	不明	不明	褐色	.5YR6/6	.5YR6/6	褐色	.5YR6/6		良	
95	塚の神古墳	表採	埴輪	円筒	—	—	8.1	ハケメ	ナデ?	褐色	.5YR7/6	.5YR7/6	褐色	.5YR7/6		良	
96	塚の神古墳	表採	埴輪	円筒	—	—	10.3	ハケ後ナデ	ナデ?	褐色	.5YR6/6	.5YR6/6	褐色	.5YR6/6		良	沈線文あり

第3表 出土遺物観察表（石製品）

図版番号	遺跡名	出土地点	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	備考
73	伊倉宮の後遺跡	Ⅳ層	石鏃	2.25	2.4	0.4	1.57	安山岩	未製品か
74	伊倉宮の後遺跡	Ⅳ層	磨製石斧	7.05	3.5	2	105	不明	
75	伊倉宮の後遺跡	S-06	磨製石斧	9.2	4.6	3.4	221	不明	
76	伊倉宮の後遺跡	Ⅳ層	磨製石斧	11.7	5.4	2.5	239	不明	転用敲石？
77	伊倉宮の後遺跡	Ⅳ層	円盤状石器	7.5	6.9	1.6	116	安山岩	両面に擦痕あり
78	伊倉宮の後遺跡	S-06	磨石	8.9	6.5	4.3	387	安山岩	意図的に割る？
79	伊倉宮の後遺跡	Ⅳ層	磨石	7.15	9.9	5.5	513	花崗岩	
80	伊倉宮の後遺跡	Ⅳ層	磨石・敲石	9.5	10.6	5.9	951	安山岩	一部に敲痕あり
81	伊倉宮の後遺跡	Ⅳ層	磨石	11.5	9.2	6.9	1007	安山岩	
82	伊倉宮の後遺跡	S-06	磨石	9.2	13.2	7.3	1352	安山岩	
83	伊倉宮の後遺跡	S-05	石錘	9.6	7.9	3.2	360	不明	
84	伊倉宮の後遺跡	S-06	滑石製石鍋	—	—	7(高さ)	262	滑石	二次利用
85	伊倉宮の後遺跡	S-06	滑石製石鍋	—	—	3.6(高さ)	77	滑石	
86	伊倉宮の後遺跡	S-06	滑石製石鍋	9	7.7	2.3	194	滑石	温石として転用？
87	伊倉宮の後遺跡	S-06	滑石製石鍋	—	—	6.2(高さ)	347	滑石	
88	伊倉宮の後遺跡	S-06	滑石製石鍋	—	—	3.8	281	滑石	
89	伊倉宮の後遺跡	S-06	砥石	10.8	8.1	5.35	791	砂岩	4面に使用痕
90	伊倉宮の後遺跡	Ⅳ層	砥石	7.4	8.05	5.15	406	花崗岩	2面に使用痕
91	伊倉宮の後遺跡	S-07	砥石	16.2	18	4	1860	砂岩	

報告書抄録

ふりがな	たまなしないいせきちょうさほうこくしょ							
書名	玉名市内遺跡調査報告書Ⅷ							
副書名	平成22・23年度の調査							
巻次								
シリーズ名	玉名市文化財調査報告							
シリーズ番号	第31集							
編著者名	齋父雅史							
編集機関	玉名市教育委員会							
所在地	〒865-8501 熊本県玉名市岩崎163							
発行年月日	平成28年3月25日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
玉名平野条里跡A地点	玉名市玉名	43206	105	32° 56' 23"	130° 33' 43"	2010年4月) 2011年3月		学校施設・ 宅地造成・ 店舗等
宮原土井の内遺跡A地点	玉名市宮原	43206	733	32° 54' 13"	130° 34' 34"			
古閑遺跡	玉名市築地	43206	213	32° 56' 08"	130° 32' 13"			
滑石小学校試掘	玉名市滑石	43206	—	32° 54' 06"	130° 31' 44"			
松尾遺跡A地点	玉名市立願寺	43206	328	32° 56' 36"	130° 33' 10"			
玉名郡倉跡	玉名市立願寺	43206	334	32° 56' 23"	130° 33' 15"			
京塚遺跡	玉名市岱明町西照寺	43206	208	32° 56' 20"	130° 30' 48"			
伊倉宮の後遺跡	玉名市伊倉北方	43206	668	32° 54' 31"	130° 34' 43"			
玉名平野条里跡B地点	玉名市玉名	43206	105	32° 56' 31"	130° 34' 18"			
高瀬本町通遺跡	玉名市高瀬	43206	487	32° 55' 04"	130° 33' 44"			
繁根木遺跡群	玉名市繁根木	43206	503	32° 55' 44"	130° 33' 30"			
松林寺山古墳	玉名市向津留	43206	519	32° 55' 37"	130° 34' 12"			
石貫ナギノ横穴群	玉名市石貫	43206	29	32° 56' 28"	130° 34' 17"			
玉名平野条里跡C地点	玉名市玉名	43206	105	32° 55' 55"	130° 32' 02"	2011年4月) 2012年3月		学校施設・ 専用住宅・ 福祉移設・ 店舗等
平町遺跡	玉名市築地	43206	432	32° 56' 31"	130° 32' 20"			
山田神社門前遺跡	玉名市山田	43206	223	32° 56' 31"	130° 32' 13"			
宮原土井の内遺跡B地点	玉名市宮原	43206	733	32° 54' 19"	130° 34' 36"			
木船東遺跡	玉名市岱明町野口	43206	466	32° 55' 36"	130° 32' 20"			
山田松尾平遺跡A地点	玉名市山田	43206	247	32° 56' 31"	130° 32' 32"			
山田松尾平遺跡B地点	玉名市山田	43206	247	32° 56' 32"	130° 32' 37"			
店舗建設予定地試掘	玉名市中	43206	—	32° 55' 36"	130° 32' 41"			
糠峯遺跡	玉名市山田	43206	251	32° 56' 23"	130° 32' 48"			
松尾遺跡B地点	玉名市立願寺	43206	328	32° 56' 37"	130° 33' 10"			
市道岱明玉名線建設予定地	玉名市岱明町野口	43206	—	32° 55' 29"	130° 31' 58"			
伊倉宮の後遺跡	玉名市伊倉北方	43206	668	32° 54' 31"	130° 34' 43"			
吉丸前遺跡	玉名市寺田	43206	536	32° 55' 20"	130° 34' 59"			
中土西遺跡	玉名市岱明町山下	43206	587	32° 54' 47"	130° 30' 46"			
稲荷山古墳	玉名市繁根木	43206	507	32° 55' 40"	130° 33' 29"			
塚の神古墳	玉名市天水町部田見	43206	011	32° 52' 47"	130° 34' 46"			
主な遺跡名	種別	主な時代		主な遺構				
宮原土井の内遺跡	城館跡	中世		堀状遺構・柱穴等		土師器皿・青磁片		
松尾遺跡	包蔵地	古代		土坑・ピット等		須恵器・鬼面瓦		
伊倉宮の後遺跡	包蔵地	縄文・古代・中世		土器埋設遺構・溝状遺構		土師器盤「大」字へら描き 縄文時代後晩期土器 石製品(磨石・石斧・ 砥石・石鍋等)		

玉名市文化財調査報告 第31集

玉名市内遺跡調査報告書Ⅷ

—平成22・23年度の調査—

平成28年3月15日印刷

平成28年3月25日発行

編集発行 玉名市教育委員会
〒865-8501 熊本県玉名市岩崎163
TEL 0968-75-1136

印刷 玉名民報印刷
〒865-0015 熊本県玉名市亀甲261
TEL 0968-72-2535